

柔道整復師

国家試験出題基準 2020年版

公益財団法人 柔道整復研修試験財団 編集

医歯薬出版株式会社

序 文

柔道整復師の第1回国家試験が平成5年に実施されてから、今年度で第26回目を数えるに至りました。この間、順調に推移してきたところですが、近年はますます柔道整復師の資質が問われる時代になりました。

前回の出題基準改訂から7年を経過したことから、医学・医療の進歩、発展、保健医療をめぐる環境の変化等に対応するため、柔道整復師国家試験改善検討委員会及び柔道整復師国家試験出題基準検討委員会等、多方面から様々なご意見を頂戴しながら出題基準の見直しを行い、2020年版を出版する運びになりました。今回の改訂にあたり、ご尽力を賜りました皆様に改めて深く感謝を申し上げます。

柔道整復師の資質向上に役立てれば幸いに存じます。

平成30年3月

公益財団法人 柔道整復研修試験財団

代表理事 福島 統

柔道整復師国家試験改善検討委員会報告書

平成 30 年 3 月 5 日

1 はじめに

柔道整復師国家試験は、柔道整復師として必要な知識及び技能について評価するものであり、昭和 63 年（1988 年）に柔道整復師法の改正が行われ試験の実施者が厚生大臣（現厚生労働大臣）となり、平成 5 年（1993 年）に第 1 回の試験が実施されて以来、毎年継続的に実施され、柔道整復師の質を担保するための重要な役割を担ってきた。

一方で、医療関連職種を行う業務は、国民の生命及び健康に直結する極めて重要なものであり、国民に安全な医療を提供する観点から、これらの資格の試験制度のあり方は、更なる質の向上を図っていくことが要請されている。このことから、医師国家試験をはじめ、種々の国家試験においては、定期的あるいは適宜見直しを行い、国家試験の質の向上を図ってきているところであり、国家試験として 10 回の区切りを迎えたことから、更なる質の向上を図るため、平成 15 年（2003 年）に柔道整復師試験改善検討委員会を設置し、基本的事項を問う必修問題の導入、臨床実地問題数の増加や受験生の知識量を正確に反映する出題形式の見直しなどを検討し、平成 16 年（2004 年）第 12 回以降の国家試験に反映させた。しかしながら近年、医療に係る変革に伴い、平成 26 年（2014 年）に（公財）柔道整復研修試験財団が柔道整復師国家試験改善検討準備委員会を立ち上げ、必修問題のあり方、一般問題の出題比率等の論点を抽出・整理した。その後平成 27 年（2015 年）に柔道整復師国家試験改善検討委員会（以下、「本検討委員会」という。）を設置し、準備委員会で論点抽出された改善項目について検討し、平成 28 年（2016 年）2 月に必修問題、一般問題及び臨床実地問題の検討結果を柔道整復師国家試験改善検討委員会報告書（中間まとめ）として取り纏めた。その後 10 月に厚生労働省の「柔道整復師学校養成施設カリキュラム等改善検討会」報告書を受け、本検討委員会で再検討を重ね、受験生の負担を軽減するため、出題基準検討委員会で所要の検討を行い、第一次、第二次改訂での二段階で実施する方向とした。

2 具体的な改善事項

本検討委員会では、柔道整復師国家試験の更なる質の向上を図るために、柔道整復師としての基本的事項を問う必修問題の出題範囲を見直し、必修問題数の増加を行う。また、臨床の場を想定して、総合的・基本的な思考力や適切な判断力を評価する臨床実地問題の増加などについて検討を行った結果、以下のとおり意見を取り纏めたので報告する。

(1) 必修問題について

- ① 柔道整復師になる全ての者が知っていなければならないことを問う出題内容とする。

- ② 従来の 30 問では、実力を適正に評価できないおそれがあるため 50 問に増やす。
 - ③ 必修問題の出題範囲を「柔道整復施術の基礎」、「保険診療に関する知識」及び「関係法規に関する知識」とする。
- (2) 試験問題数について
必修問題数の増加により、試験問題数を現行の 230 問から 250 問に改めることとする。
- (3) 臨床実地問題数について
柔道整復師としての問題解決能力を問う臨床実地問題の出題については、現行の 15 問程度から 20 問程度に改め、現行 10 問の「柔道整復理論」は第一次改訂では急激な変化を避けるため 15 問程度とし、第二次改訂では、20 問程度に増やすことが望ましい。
- (4) 合否基準
柔道整復師としての基本的事項と位置づけられる必修問題並びに一般問題については現行通りとする。
- (5) 試験委員の増員
柔道整復師国家試験における必修問題及び臨床実地問題の問題数増加に伴い、柔道整復理論試験委員の役割が増えることに鑑み、柔道整復理論試験委員を若干名増員することが必要である。

3 課 題

- (1) 必修問題について
従前の全試験科目から出題することで、受験者の学習を促す必要もあるのではないかとの意見があり、今後の課題とした。
- (2) 事後評価について
試験問題が適正であったか、検討する必要性があるのではないかとの意見があり、今後の課題とした。

4 実施時期について

本検討委員会での報告を踏まえ、柔道整復師国家試験出題基準を改訂し試験を実施していくこととなるが、各養成施設（学校）及び受験生の周知期間を考慮し、平成 30 年（2018 年）3 月 31 日までに公表する部分については平成 32 年（2020 年）3 月（第 28 回）の国家試験から実施し、平成 32 年（2020 年）3 月 31 日までに公表する部分については平成 34 年（2022 年）3 月（第 30 回）の国家試験から実施していくこととする。

5 おわりに

国民の負託に応じ得る資質の高い柔道整復師を今後とも確保できるよう、今回の試験制度の改善が実効を伴ったものとなるため関係各位の一層の努力と協力を期待する。

また、厚生労働省での柔道整復師学校養成施設カリキュラム等改善検討会の検討結果を踏まえ、本検討委員会では第二次改訂に向けて更なる国家試験の質の向上を図っていくこととする。

柔道整復師国家試験改善検討委員会名簿

就任期間（平成 27 年 1 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日、
平成 29 年 5 月 1 日～）

	氏名	所属
委員長	相澤好治	北里大学名誉教授
委員	碓井貞成	(公社) 全国柔道整復学校協会会長
	金森篤子	(公財) 柔道整復研修試験財団理事
	釜范敏	(公社) 日本医師会常任理事
	工藤鉄男	(公社) 日本柔道整復師会会長
	櫻井康司	(一社) 日本柔道整復接骨医学会会長
	松下隆	総合南東北病院外傷センターセンター長
前委員長	内西兼一郎	(元) 柔道整復師試験委員会委員長

(平成 29 年 9 月 1 日まで)

(委員：五十音順)

柔道整復師国家試験改善検討準備委員会名簿

就任期間（平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

氏 名	所 属
塩 川 光一郎	アジア日本語学院校長
西 村 慶 太	帝京大学整形外科教授
仁 田 善 雄	医療系大学間共用試験実施評価機構 研究部長
樋 口 毅 史	日本体育大学保健医療学部講師
深 井 伸 之	東京都柔道整復師会専務理事
船 戸 嘉 忠	米田柔整専門学校副校長
細 野 昇	呉竹医療専門学校校長

（委員：五十音順）

出題基準検討委員会委員名簿

就任期間（平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	氏 名	所 属
委員 長	米 田 忠 正	（公社）全国柔道整復学校協会副会長
副委員長	成 瀬 秀 夫	東京有明医療大学保健医療学部教授・ 保健医療学部長
委 員	谷 口 和 彦	（公社）全国柔道整復学校協会理事
	長 尾 淳 彦	（公社）日本柔道整復師会理事
	船 戸 嘉 忠	（公社）全国柔道整復学校協会試験委員 会委員
	細 野 昇	（公社）全国柔道整復学校協会理事
	三 橋 裕 之	（公社）日本柔道整復師会理事
	森 川 伸 治	（公社）日本柔道整復師会理事

（委員：五十音順）

柔道整復師国家試験出題基準の利用法

はじめに

柔道整復師国家試験は、柔道整復師法第10条「柔道整復師として必要な知識及び技能について、厚生労働大臣が行う」に基づき行われる。

その内容を項目によって具体的に示したのが、柔道整復師国家試験出題基準である。

試験委員会は、柔道整復師国家試験の妥当な内容、範囲及び適切なレベル等を確保するため、この基準に拠って出題する。

従って、柔道整復師国家試験出題基準は柔道整復師養成施設等の卒前の教育で扱われている内容のすべてを網羅するものではなく、また、これらの教育のあり方を拘束するものではない。

利用方法

各項目は、柔道整復師国家試験の出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致しない点がある。

1 大・中・小項目

- (1) 大項目は中項目を束ね、中項目は小項目を束ねる。
- (2) 小項目は出題範囲を具体的に示したものであり、小項目が空欄の場合には、中項目が出題範囲を示す。

2 その他

- (1) 括弧は以下のルールに基づいて使用した。
 - () : 直前の語句の同意語、言い換え、関連語、または例示、もしくは補足的記述を記載する場合に使用する。
 - [] : 小括弧を括る場合または留意事項を記載する場合、括弧内を省略しても差し支えない場合に使用する。
- (2) 関連する語を列記する際に、読点「、」及び中点「・」を以下のルールに基づいて使用した。
 - 読点「、」: 単純に列記する場合
 - 【例】 咽頭の構造、声帯
 - 中点「・」: 前後の語での重複を排して列記する場合
 - 【例】 屈筋群の名称、伸筋群の名称→屈筋群・伸筋群の名称
- (3) 〔○○出題〕としてある場合は、原則としてその出題先の分野で出題することが望ましいと思われることを示したものである。
- (4) 人名のついた病名は原則として、カタカナ表記とし、カッコ内に欧文を併記する。

- (5) 出題基準に係る関係法令については、平成 29 年 3 月現在のものである。
- (6) 出題は標準的な学生用教科書に記載されている程度の知識を要求するものとする。

柔道整復師国家試験出題基準 目次

序文／iii
柔道整復師国家試験改善検討委員会報告書／v
柔道整復師国家試験改善検討委員会名簿／ix
柔道整復師国家試験改善検討準備委員会名簿／x
出題基準検討委員会委員名簿／xi
柔道整復師国家試験出題基準の利用法／xii

必修問題出題基準

1. 患者の権利	3
A 選択の自由／3	
B インフォームド・コンセント／3	
C 個人情報／3	
2. 医療過誤とリスクマネジメント	3
A 医療事故と医療過誤／3	
B 医療におけるリスクマネジメント／3	
C 医療事故調査制度／3	
3. 柔道整復師と柔道	3
A 柔道の歴史／3	
B 柔道の理念／3	
C 審判規定に準じた服装・態度／3	
D 礼法／3	
E 受け身／3	
4. 柔道整復師法	3
A 総則／3	
B 免許／3	
C 柔道整復師名簿／4	
D 試験／4	
E 業／4	
F 施術所／5	
G 雑則／5	
H 罰則／5	
5. 関係法規	5
A 総論／5	
B 医療法／6	
C 医師法／6	
D 保健師助産師看護師法／6	
E 診療放射線技師法／6	
F 理学療法士および作業療法士法／6	
G 薬剤師法／6	
6. 柔道整復師と国民医療費	6
A 国民医療費／6	
7. 定型的鎖骨骨折の診察および整復	6
A 診察／6	
B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／7	
C 患者の介助／7	
D 助手への指示／7	
E 整復操作／7	
8. 定型的鎖骨骨折の固定	7
A 固定材料／7	
B 固定肢位／7	
C 患者への説明／7	
D 助手への指示／7	
E 固定の手順／8	
F 固定後の確認／8	
9. 上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復	8
A 診察／8	
B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／8	
C 患者の介助／8	
D 助手への指示／8	
E 整復操作／9	
10. 上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定	9
A 固定材料／9	
B 固定肢位／9	
C 患者への説明／9	
D 助手への指示／9	
E 固定の手順／9	
F 固定後の確認／9	
11. コーレス (Colles) 骨折の診察および整復	9

	A 診察／9	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／10	
	C 患者の介助／10	D 助手への指示／10	E 整復操作／10
12.	コーレス (Colles) 骨折の固定	10
	A 固定材料／10	B 固定肢位／10	C 患者への説明／10
	D 助手への指示／10	E 固定の手順／11	F 固定後の確認／11
13.	第5中手骨頸部骨折の固定	11
	A 固定材料／11	B 固定肢位／11	C 患者への説明／11
	D 助手への指示／11	E 固定の手順／11	F 固定後の確認／11
14.	肋骨骨折の固定	11
	A 固定材料／11	B 固定肢位／12	C 患者への説明／12
	D 助手への指示／12	E 固定の手順／12	F 固定後の確認／12
15.	肩鎖関節上方脱臼の診察および整復	12
	A 診察／12	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／12	
	C 患者の介助／12	D 助手への指示／13	E 整復操作／13
16.	肩鎖関節上方脱臼の固定	13
	A 固定材料／13	B 固定肢位／13	C 患者への説明／13
	D 助手への指示／13	E 固定の手順／13	F 固定後の確認／13
17.	肩関節烏口下脱臼の診察および整復	14
	A 診察／14	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／14	
	C 患者の介助／14	D 助手への指示／14	E 整復操作／14
18.	肩関節烏口下脱臼の固定	14
	A 固定材料／14	B 固定肢位／15	C 患者への説明／15
	D 助手への指示／15	E 固定の手順／15	F 固定後の確認／15
19.	肘関節後方脱臼の診察および整復	15
	A 診察／15	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／15	
	C 患者の介助／15	D 助手への指示／16	E 整復操作／16
20.	肘関節後方脱臼の固定	16
	A 固定材料／16	B 固定肢位／16	C 患者への説明／16
	D 助手への指示／16	E 固定の手順／16	F 固定後の確認／16
21.	肘内障の診察および整復	17
	A 診察／17	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／17	
	C 患者の介助／17	D 助手または保護者への指示／17	E 整復操作／17
22.	示指 PIP 関節背側脱臼の固定	17
	A 固定材料／17	B 固定肢位／17	C 患者への説明／18
	D 助手への指示／18	E 固定の手順／18	F 固定後の確認／18
23.	肩腱板損傷の診察	18
	A 診察／18	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／18	
	C 患者の介助／18	D 検査手技・動作／18	
24.	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	19
	A 診察／19	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／19	
	C 患者の介助／19	D 検査手技・動作／19	
25.	大腿部打撲・肉ばなれ、大腿四頭筋、ハムストリングスの診察	19
	A 診察／19	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／20	

	C 患者の介助／20	D 検査手技・動作／20	
26.	膝関節側副靭帯損傷の診察	20
	A 診察／20	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／20	
	C 患者の介助／20	D 検査手技・動作／21	
27.	膝関節十字靭帯損傷の診察	21
	A 診察／21	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／21	
	C 患者の介助／21	D 検査手技・動作／21	
28.	膝関節半月板損傷の診察	21
	A 診察／21	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／22	
	C 患者の介助／22	D 検査手技・動作／22	
29.	膝関節内側側副靭帯損傷の固定	22
	A 固定材料／22	B 固定肢位／22	C 患者への説明／22
	D 助手への指示／22	E 固定の手順／22	F 固定後の確認／23
30.	下腿三頭筋肉ばなれの診察	23
	A 診察／23	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／23	
	C 患者の介助／23	D 検査手技・動作／23	
31.	アキレス腱断裂の固定	23
	A 固定材料／23	B 固定肢位／24	C 患者への説明／24
	D 助手への指示／24	E 固定の手順／24	F 固定後の確認／24
32.	足関節外側靭帯損傷の診察	24
	A 診察／24	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認／24	
	C 患者の介助／24	D 検査手技・動作／25	
33.	足関節外側靭帯損傷の固定	25
	A 固定材料／25	B 固定肢位／25	C 患者への説明／25
	D 助手への指示／25	E 固定の手順／25	F 固定後の確認／25
34.	下腿骨骨幹部骨折の固定	25
	A 固定材料／25	B 固定肢位／25	C 患者への説明／26
	D 助手への指示／26	E 固定の手順／26	F 固定後の確認／26
35.	包帯法	26
	A 包帯各部の名称／26	B 包帯の種類／26	C 包帯の巻き方／26
	D 基本包帯法の種類と適応／26	E 冠名包帯法の種類と適応／26	
	F 基本包帯法および冠名包帯法の実施法／26		

各試験科目別問題出題基準

解剖学

1.	人体解剖学概説	31
	A 解剖学用語／31	B 細胞／31	C 組織／31
	D 器官系／31		
	E 人体の発生／31		
2.	運動器系	31
	A 骨／31	B 骨の連結／31	C 筋／31
	D 頭部／31		
	E 頸部／31	F 体幹／32	G 上肢／32
			H 下肢／33

3 . 脈管系 (循環器系)	34
A 概説 / 34	
B 心臓 / 34	
C 動脈 / 34	
D 静脈 / 34	
E リンパ系 / 35	
F 胎児循環 / 35	
4 . 消化器系	35
A 概説 / 35	
B 口腔 / 35	
C 咽頭 / 35	
D 食道 / 35	
E 胃 / 35	
F 小腸 / 36	
G 大腸 / 36	
H 肝臓 / 36	
I 膵臓 / 36	
J 腹膜 / 36	
5 . 呼吸器系	36
A 概説 / 36	
B 鼻 / 36	
C 喉頭 / 36	
D 気管および気管支 / 36	
E 肺 / 37	
F 胸膜 / 37	
G 縦隔 / 37	
6 . 泌尿器系	37
A 概説 / 37	
B 腎臓 / 37	
C 尿管 / 37	
D 膀胱 / 37	
E 尿道 / 37	
7 . 生殖器系	37
A 概説 / 37	
B 男性生殖器 / 37	
C 女性生殖器 / 37	
8 . 内分泌器系	38
A 概説 / 38	
B 下垂体 / 38	
C 上皮小体 (副甲状腺) / 38	
D 甲状腺 / 38	
E 副腎 / 38	
F 膵臓 / 38	
G 精巣 / 38	
H 卵巣 / 38	
I 松果体 / 38	
9 . 神経系	38
A 概説 / 38	
B 脳 / 38	
C 脊髄 / 39	
D 伝導路 / 39	
E 脳神経 / 39	
F 脊髄神経 / 39	
G 自律神経 / 39	
10 . 感覚器系	39
A 外皮 / 39	
B 視覚器 / 39	
C 聴覚器、平衡覚器 / 39	
D 味覚器 / 39	
E 嗅覚器 / 40	
11 . 体表解剖	40
A 体表区分 / 40	
B 骨格 / 40	
C 筋 / 40	
D 脈管 / 40	
E 神経 / 40	
F 顔面 / 40	
G 外皮 / 40	
H 生体計測 / 40	

生理学

1 . 総論	41
A 人体を構成する要素 / 41	
B ホメオスタシス / 41	
C 細胞の構造と機能 / 41	
D 生体の物理化学的基礎 / 41	
E 体液の区分と組成 / 41	
2 . 血液	41
A 成分 / 41	
B 赤血球 / 41	
C 白血球 / 41	
D 止血 / 41	
E 血液型 / 41	
F 免疫機能 / 41	
3 . 循環	41
A 心臓 / 41	
B 血管 / 41	
C リンパ管 / 41	
D 循環の調節 / 41	
4 . 呼吸	42
A 呼吸器 / 42	
B 換気 / 42	
C ガス交換と運搬 / 42	
D 呼吸調節 / 42	
E 呼吸の異常 / 42	
5 . 消化と吸収	42

	A 消化器の働き／42	B 消化管の運動／42	C 消化液の分泌機序／42	
	D 消化／42	E 吸収／42	F 消化管ホルモン／42	G 肝臓と胆道／42
6 . 栄養と代謝			42
	A 生体の構成成分と栄養素／42	B エネルギー代謝の基礎／42		
	C 栄養素の代謝／42	D 食物と栄養／42		
7 . 体温とその調節			43
	A 体温／43	B 調節／43		
8 . 尿の生成と排泄			43
	A 腎臓／43	B 尿の生成／43	C 排尿／43	
9 . 内分泌			43
	A 内分泌腺／43	B ホルモンの一般的性質／43		
	C ホルモンの種類と作用／43			
10. 生殖			44
	A 染色体／44	B 性分化／44	C 男性生殖器の概要／44	
	D 女性生殖器の概要／44		E 妊娠と分娩の概要／44	
11 . 骨の生理			44
	A 骨／44	B カルシウム代謝の調節／44	C 骨年齢／44	
12 . 神経			44
	A ニューロン／44	B 神経線維／44	C 末梢神経／44	
	D 中枢神経／44		E 反射／45	
13 . 筋肉の機能			45
	A 骨格筋／45	B 筋収縮／45	C 骨格筋の神経支配／45	
14 . 感覚の生理			45
	A 感覚の特性／45	B 視覚／45	C 聴覚／45	D 平衡感覚／45
	E 味覚／45	F 嗅覚／45	G 皮膚感覚／45	H 深部感覚／46
	I 内臓感覚／46			

運動学

1 . 運動学総論			47
	A 運動学の領域／47	B 運動解析の基礎／47		
2 . 運動器の構造と機能			47
	A 筋・骨格系／47	B 神経系／47		
3 . 運動の発現と制御			47
	A 反射運動／47	B 連合運動と共同運動／47	C 随意運動／47	
4 . 頭・頸部、四肢と体幹の運動			47
	A 頭・頸部と体幹／47	B 上肢／47	C 下肢／47	
5 . 姿勢			47
	A 姿勢／47	B 重心／47	C 立位姿勢の機構／47	
6 . 歩行			48
	A 正常歩行／48	B 重心移動／48	C 歩行時の身体の動き／48	
	D 小児の歩行／48	E 異常歩行／48	F 走行／48	
7 . 運動発達			48

病理学概論

1. 病理学の意義	49
A 定義／49 B 方法／49	
2. 疾病の一般	49
A 意義／49 B 分類／49 C 経過、予後、転帰／49	
D 症候の意義、分類／49	
3. 病因	49
A 一般／49 B 内因／49 C 外因／49	
4. 退行性病変・代謝障害	49
A 萎縮／49 B 変性／50 C 代謝障害／50 D 壊死／50	
E 死／50	
5. 循環障害	50
A 充血／50 B うっ血／50 C 虚血／50 D 出血／50	
E 血栓、血栓症／50 F 塞栓、塞栓症／50 G 梗塞／51	
H 浮腫（水腫）／51 I 脱水症／51 J 高血圧／51	
6. 進行性病変	51
A 肥大／51 B 過形成（増殖）／51 C 再生／51 D 化生／51	
E 創傷治癒／51 F 異物の処理／51 G 移植／51	
7. 炎症	51
A 一般／51 B 分類／52	
8. 免疫異常・アレルギー	52
A 免疫の仕組み／52 B 免疫不全／52 C 自己免疫異常／52	
D アレルギー／52	
9. 腫瘍	52
A 定義／52 B 形態と構造／52 C 腫瘍細胞の特色／52	
D 発生原因／52 E 腫瘍の分類／52 F 治療と再発／53	
10. 先天性異常	53
A 遺伝子異常／53 B 染色体異常／53 C 奇形／53	

衛生学・公衆衛生学

1. 健康の保持増進と疾病予防	54
A 健康の概念／54 B 環境と健康／54 C 健康増進／54	
D 疾病予防／54	
2. 公衆衛生	54
A 地域保健・医療／54 B 疫学／54 C 衛生統計／54	
D 母子保健／54 E 学校保健／54 F 産業保健／54	
G 成人保健／55 H 高齢者の保健／55 I 食品衛生／55	
J 精神保健／55 K 衛生行政／55	
3. 感染症	55

	A 感染源／55	B 感染と発病／55	C 免疫／56	
4. 消毒			56
	A 消毒法一般／56	B 種類と方法／56	C 消毒法の応用／56	
5. 環境衛生			56
	A 環境と適応／56	B 環境と健康／56	C 住居・衣服と健康／56	
	D 上水、下水／56	E 廃棄物／57	F 公害／57	

一般臨床医学

1. 診察概論			58
	A 診察の意義／58	B 診察の進め方／58		
2. 診察各論			58
1) 医療面接			58
	A 意義と方法／58			
2) 視診			58
	A 意義と方法／58	B 体格と体型／58	C 体位と姿勢／58	
	D 栄養状態／58	E 意識障害／58	F 精神状態／59	
	G 異常運動／59	H 歩行／59	I 皮膚の状態／60	
	J 頭部・顔面／60	K 頸部／61	L 胸部／61	M 腹部／61
	N 背部・腰部／62	O 四肢／62		
3) 打診			62
	A 意義と方法／62	B 打診音の種類／62	C 胸部／62	D 腹部／62
4) 聴診			62
	A 意義と方法／62	B 肺／62	C 心臓／62	D 腹部／62
5) 触診			62
	A 意義と方法／62	B 皮膚／62	C 筋／62	D 骨・関節／62
	E 胸部／62	F 腹部／62	G リンパ節／62	
6) 生命徴候			63
	A 体温／63	B 血圧／63	C 脈拍／63	D 呼吸／63
7) 感覚検査			63
	A 意義／63	B 表在感覚／63	C 深部感覚／63	
8) 反射検査			64
	A 意義／64	B 反射の種類／64	C 表在反射／64	D 深部反射／64
	E 病的反射／64	F クローヌス／64	G 自律神経反射／64	
3. 検査法			64
1) 生体機能検査			64
	A 心電図／64	B 脳波／64	C 筋電図／64	D 呼吸機能／64
2) 運動機能検査			64
4. 主要な疾患			64
1) 消化器疾患			64
	A 食道癌／64	B 胃炎(急性・慢性胃炎)／64		
	C 消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍)／64	D 胃癌／64		
	E 急性虫垂炎／64	F 腸閉塞／64	G 大腸癌(結腸癌、直腸癌)／64	

H 潰瘍性大腸炎／64	I 肝炎(急性ウイルス性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎)／64	
J 肝硬変／64	K 肝癌／65	L 胆石症／65
M 胆嚢炎／65	N 膵炎／65	O 膵癌／65
2) 呼吸器疾患	65	
A かぜ症候群／65	B 急性気管支炎／65	C 慢性気管支炎／65
D 肺炎／65	E 肺結核／65	F 気管支喘息／65
G 肺気腫／65	H 肺癌／65	
3) 循環器疾患	65	
A 狭心症／65	B 心筋梗塞／65	
C 心臓弁膜症(僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症)／65		
D 先天性心疾患〔ファロー(Fallot)四徴症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症〕／65		
E うっ血性心不全／65	F 本態性高血圧症／65	G 大動脈瘤／65
H 大動脈解離(解離性大動脈瘤)／65	I 閉塞性動脈硬化症／65	
4) 血液疾患	65	
A 鉄欠乏性貧血／65	B 悪性貧血／65	C 再生不良性貧血／65
D 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)／65	E 血友病／65	
F 急性白血病／65	G 慢性白血病／65	H 悪性リンパ腫／65
5) 内分泌・代謝疾患	65	
A 末端肥大症(巨人症)／65	B 低身長症／65	C 尿崩症／65
D 原発性アルドステロン症／66	E クッシング(Cushing)症候群／66	
F アジソン(Addison)病／66	G 褐色細胞腫／66	
H バセドウ(Basedow)病／66	I 甲状腺機能低下症／66	
J 橋本病／66	K 糖尿病／66	L 痛風／66
M 脂質異常症／66		
6) 膠原病	66	
A リウマチ熱／66	B 関節リウマチ／66	
C 全身性エリテマトーデス(SLE)／66	D 多発性筋炎、皮膚筋炎／66	
E 全身性硬化症(強皮症)／66	F 結節性多発動脈炎／66	
G ベーチェット(Behçet)病／66		
7) 腎・尿路疾患	66	
A 糸球体腎炎(急性・慢性)／66	B ネフローゼ症候群／66	
C 腎不全(急性・慢性)／66	D 膀胱炎／66	E 腎盂腎炎／66
F 尿路結石症／66	G 前立腺肥大症／66	
8) 神経系疾患	66	
A 脳出血／66	B 脳梗塞／66	C くも膜下出血／66
D パーキンソン(Parkinson)病／66	E 重症筋無力症／66	
F 進行性筋ジストロフィー／66	G 筋萎縮性側索硬化症(ALS)／66	
H 髄膜炎／67	I ギラン-バレー(Guillain-Barré)症候群／67	
J 認知症／67		
9) その他の疾患	67	
A 後天性免疫不全症候群(AIDS)／67		

外科学概論

1. 損傷	68
A 損傷／68	
B 創傷の治癒過程／68	
C 創傷の処置／68	
D 熱傷／68	
E 凍傷／68	
F びらん／68	
G 潰瘍／68	
H 瘻孔／68	
I 裂傷／68	
J 壊死／68	
K 壊疽／68	
2. 炎症	68
A 定義／68	
B 分類／68	
C 原因／68	
D 全身的变化／68	
E 局所的变化／68	
3. 外科的感染症	68
A 感染の概念／68	
B 菌血症／68	
C 敗血症／68	
D 蜂巣炎（蜂窩織炎）／68	
E 膿瘍／68	
F 癰・癤／68	
G 丹毒／68	
H リンパ管炎・リンパ節炎／68	
I 化膿性骨髄炎／68	
J 結核／68	
K 梅毒／68	
L ガス壊疽／68	
M 破傷風／68	
N 咬傷（狂犬病含む）／68	
O 放線菌症／68	
P その他の真菌症／69	
Q 外科感染症の治療／69	
4. 腫瘍	69
A 定義／69	
B 分類／69	
C 診断／69	
D 治療法／69	
5. ショック	69
A 定義／69	
B 発生機序による分類／69	
C 臨床上的分類／69	
D 症状／69	
E 応急処置／69	
F 治療／69	
6. 失血と輸血・輸液	69
A 失血／69	
B 輸血・輸液の目的・適応／69	
C 輸血・輸液の種類／69	
D 血液型／69	
E 不適合輸血／69	
F 副作用／69	
7. 滅菌法と消毒法	69
A 必要性／69	
B 種類／69	
8. 手術	69
A 患者の病期からみた分類／69	
B 手術侵襲度からみた分類／69	
C 手術の根治性からみた分類／69	
D 術式の種類／69	
9. 麻酔	70
A 歴史／70	
B 術前患者管理／70	
C 全身麻酔の概念／70	
D 局所麻酔の概念／70	
10. 移植	70
A 種類／70	
B 皮膚移植／70	
C 骨移植／70	
D 臓器移植／70	
E 問題点／70	
11. 止血	70
A 出血の種類／70	
B 外出血／70	
C 内出血／70	
D 止血法／71	
12. 心肺蘇生法（救急法）	71
A 呼吸停止に対する処置／71	
B 心停止に対する処置／71	
13. 頭部・顔面部外傷（救急法）	71
A 頭皮の損傷／71	
B 顔面の損傷／71	
C 頭蓋冠骨折／71	
D 頭蓋底骨折／71	
E 脳しんとう／71	
F 脳挫傷／71	

	G 外傷性頭蓋内血腫／ 71	
14 .	意識障害 (救急法)	71
	A 分類／ 71	
15 .	けいれん (救急法)	71
	A 分類／ 71	
16 .	脳卒中 (救急法)	71
	A 脳出血／ 71 B 脳梗塞／ 71 C くも膜下出血／ 71	
17 .	脊柱損傷 (救急法)	71
	A 脊椎骨折／ 71 B 脊髄損傷／ 71	
18 .	胸部外傷 (救急法)	71
	A 胸壁の損傷／ 71 B 気管・気管支および肺の損傷／ 71	
	C 縦隔内損傷／ 71	
19 .	腹部外傷 (救急法)	71
	A 腹壁の損傷／ 71 B 腹腔内臓器の損傷／ 71	

整形外科学 (総論)

1 .	整形外科学とは	72
	A 意義／ 72 B 歴史／ 72	
2 .	整形外科診察法	72
	A 診療の基本／ 72 B 姿勢評価／ 72 C 体幹と四肢のバランス／ 72	
	D 四肢の計測／ 72 E 跛行 (異常歩行) / 72	
	F 関節拘縮と関節強直／ 72 G 徒手筋力テスト／ 72 H 感覚の診断／ 72	
	I 反射／ 72	
3 .	整形外科的検査法	72
	A 検査の進め方／ 72 B 画像検査／ 72 C 骨密度測定／ 73	
	D 電気生理学的検査／ 73 E 関節鏡検査／ 73 F その他の検査／ 73	
4 .	整形外科的治療法	73
	A 保存療法／ 73 B 手術療法／ 73	
5 .	骨・関節の損傷	73
	A 骨折総論／ 73 B 関節の損傷／ 73	
6 .	スポーツ整形外科	74
	A スポーツ整形外科の位置付け／ 74 B スポーツ外傷・障害／ 74	
	C 診療と治療上の基本／ 74	
7 .	リハビリテーション	74
	A 運動器疾患のリハビリテーション／ 74 B 義肢／ 74	

整形外科学 (疾患別各論)

1 .	感染性疾患	75
	A 軟部組織感染症／ 75 B 骨髓炎／ 75 C 化膿性関節炎／ 75	
	D 骨関節結核／ 75	
2 .	骨および軟部腫瘍	75

	A 骨腫瘍／75	B 悪性骨腫瘍／75	C 良性骨腫瘍／75	
	D 悪性軟部腫瘍／75	E 良性軟部腫瘍／75		
3.	非感染性軟部・骨関節疾患		75
	A 関節疾患／75	B その他の関節炎／75	C 骨粗鬆症／76	
4.	全身性の骨・軟部疾患		76
	A 先天性骨系統疾患／76			
5.	骨端症		76
	A 骨端症／76			
6.	四肢循環障害		76
	A 末梢動脈疾患／76	B レイノー症候群／76	C 深部静脈血栓症／76	
	D 静脈瘤／76			
7.	神経・筋疾患		77
	A 神経麻痺と絞扼性神経障害／77	B 腕神経叢損傷・分娩麻痺／77		
	C 全身性神経・筋疾患／77	D 脊髄腫瘍／77	E 脊髄損傷／77	

整形外科学（身体部位別疾患各論）

1.	体幹			78
	A 手術適応を考慮する頸部の脱臼・骨折／78	B 頸部の疾患／78			
	C 手術適応を考慮する脊椎の脱臼・骨折／78	D 胸部の疾患／78			
	E 腰部の疾患／78				
2.	肩・肩甲帯			78
	A 手術適応を考慮する肩関節・肩甲帯の骨折／78				
	B 手術適応を考慮する上腕骨近位部の骨折／78				
	C 手術適応を考慮する肩関節・肩甲帯の損傷／79				
	D 肩関節・肩甲帯の疾患／79				
3.	上腕・肘関節			79
	A 手術適応を考慮する上腕骨幹部の骨折／79				
	B 手術適応を考慮する上腕骨遠位部の骨折／79				
	C 手術適応を考慮する肘関節内骨折／79				
	D 手術適応を考慮する上腕部の損傷／79	E 骨軟骨障害／79			
	F 手術適応を考慮する肘関節部の損傷／79	G 肘内障／79			
	H 筋腱の損傷／79				
4.	前腕			79
	A 手術適応を考慮する前腕骨幹部の骨折／79				
	B 手術適応を考慮する前腕の損傷／79				
5.	手関節			79
	A 手術適応を考慮する手関節の骨折／79	B 骨関節の疾患／79			
	C 手術適応を考慮する手関節部の損傷／80	D 腱鞘炎／80			
6.	手・手指			80
	A 手術適応を考慮する手・手指の骨折／80	B 手指の変形／80			
	C 手術適応を考慮する手指部の損傷／80	D 腱鞘炎／80	E 拘縮／80		
	F 手指の先天異常／80				

7. 骨盤・股関節	80
A 手術適応を考慮する骨盤・股関節の骨折・脱臼	80
B 骨盤・股関節の損傷	80
8. 大腿・膝関節	81
A 手術適応を考慮する大腿・膝関節の骨折	81
B 手術適応を考慮する大腿・膝関節の損傷	81
C 大腿・膝関節の疾患	81
9. 下腿・足関節	81
A 手術適応を考慮する下腿・足関節の骨折	81
B 手術適応を考慮する下腿・足関節の損傷	81
C 下腿・足関節の損傷	81
10. 足・足趾	81
A 手術適応を考慮する足・足趾の骨折	81
B 足・足趾の疾患	81
C 足の末梢神経障害	82

リハビリテーション医学

1. リハビリテーションの概念と歴史	83
A 概念	83
B 歴史	83
2. リハビリテーション医学の対象	83
A リハビリテーション医学の対象	83
3. リハビリテーション医学の基礎医学	83
A 運動学と機能解剖	83
B 障害学	83
C 治療学	83
4. リハビリテーション医学の評価と診断	83
A 患者のとらえ方	83
B 身体計測	83
C 関節可動域 (ROM) 測定法	83
D 徒手筋力テスト (MMT)	83
E 中枢性運動障害の評価法	83
F 痙縮の評価法	83
G 小児運動発達の評価法	83
H 協調性テスト	83
I 失認と失行の評価法	83
J 日常生活動作の評価	83
K 電気生理学的診断法	83
L 画像診断	84
5. リハビリテーションの治療	84
A 理学療法	84
B 作業療法	84
C 補装具	84
6. リハビリテーション医学と関連職種	84
A 医師	84
B 理学療法士	84
C 作業療法士	84
D 看護師	84
E 言語聴覚士	84
F 臨床心理士	84
G 社会福祉士	84
H 義肢装具士	84
7. リハビリテーションの実際	84
A 脳卒中	84
B 脊髄損傷	84
C 脳性麻痺	85
D 老人のリハビリテーション	85
8. リハビリテーションと福祉	85
A 社会福祉法	85
B 身体障害者福祉法	85
C 児童福祉法	85
D 老人福祉法	85
E 介護保険法	85

柔道整復理論（総論）

1. 業務	86
A 業務範囲	86
B 医師との連携	86
2. 運動器損傷の診察	86
A 医療面接	86
B 全身の観察	86
C 病歴聴取	86
D 患部の観察	86
E 触診	86
F 機能的診察	86
G 計測	86
H 徒手検査	86
3. 説明と同意	86
A 損傷や疾患の説明	86
B 経過の説明	86
C 応急的治療の必要性の説明	86
D 治療法の説明	86
4. 施術前の確認	86
A 全身状態の確認	86
B 施術の適否の確認	86
C 皮膚損傷の有無の確認	87
D 神経損傷の有無の確認	87
E 血管損傷の有無の確認	87
F 臓器損傷の有無の確認	87
5. 痛みの基礎	87
A 痛みの種類	87
B 痛みのメカニズム（運動器）	87
C 急性痛と慢性痛	87
D 痛みの評価	87
E 痛みへのアプローチ	87
6. 骨折	87
A 定義	87
B 骨のモデリングとリモデリング	87
C 分類	87
D 症状	87
E 小児骨損傷・高齢者骨損傷の特徴	87
F 治癒経過	87
G 治癒に影響を与える因子	87
H 合併症	88
I 予後	88
7. 脱臼	88
A 定義	88
B 分類	88
C 症状	88
D 合併症	88
E 整復障害	88
F 予後	88
8. 関節の損傷	88
A 関節損傷の概要	88
B 関節損傷の分類	88
C 損傷される組織	88
D 関節軟骨損傷	88
E その他の構成組織の損傷	88
F 関節拘縮と関節強直	88
9. 軟部組織損傷	88
A 筋損傷	88
B 腱損傷	88
C 靭帯損傷	89
D 末梢神経損傷	89
10. 評価・施術録	89
A 評価の目的	89
B 評価の時期	89
C 施術録の取り扱い	89
11. 初期の施術	89
A 徒手整復の適応	89
B 整復法	89
C 整復後の確認	89
D 軟部組織損傷の初期処置	89
E 固定法	89
F 固定後の確認	89
12. 後療法	89
A 固定の継続	89
B 手技療法	90
C 運動療法	90
D 物理療法	90
E 後療法の適否の確認	90
13. 施術終了の判断	90
A 治癒の判断	90
B 施術を中止する判断	90
14. 包帯法	90

- A 包帯各部の名称／90 B 包帯の種類／90 C 包帯の巻き方／90
 D 基本包帯法の種類と適応／90 E 冠名包帯法の種類と適応／90

柔道整復理論（各論・骨折）

1. 頭部・体幹	91
A 頭蓋骨骨折／91 B 上顎骨骨折／91 C 下顎骨骨折／91	
D 頬骨・頬骨弓骨折／91 E 鼻骨骨折／91 F 頸椎骨折／91	
G 胸骨骨折／91 H 肋骨骨折／91 I 胸椎骨折／91	
J 腰椎骨折／91 K 尾骨骨折／91	
2. 上肢	91
A 鎖骨骨折／91 B 肩甲骨骨折／91 C 上腕骨近位部骨折／91	
D 上腕骨骨幹部骨折／91 E 上腕骨遠位部骨折／91	
F 前腕骨近位部骨折／91 G 前腕骨骨幹部骨折／91	
H 前腕骨遠位部骨折／91 I 手根骨骨折／92 J 中手骨骨折／92	
K (手の) 指骨骨折／92	
3. 下肢	92
A 骨盤骨骨折／92 B 大腿骨近位部骨折／92 C 大腿骨骨幹部骨折／92	
D 大腿骨遠位部骨折／92 E 膝蓋骨骨折／92 F 下腿骨近位部骨折／92	
G 下腿骨骨幹部骨折／92 H 下腿骨遠位部骨折／92 I 足根骨骨折／92	
J 中足骨骨折／92 K (足の) 趾骨骨折／92	

柔道整復理論（各論・脱臼および骨折を伴う脱臼）

1. 頭部・体幹	93
A 顎関節脱臼／93 B 頸椎脱臼・脱臼骨折／93 C 胸鎖関節脱臼／93	
D 胸腰椎脱臼・脱臼骨折／93	
2. 上肢	93
A 肩鎖関節脱臼／93 B 肩関節脱臼／93 C 肘関節脱臼／93	
D 肘関節付近の骨折を伴う脱臼／93 E 肘内障／93 F 手関節脱臼／93	
G 手関節付近の骨折を伴う脱臼／93 H 手根骨脱臼／93	
I 手根中手関節脱臼／93 J 手部の骨折を伴う脱臼／93	
K 中手指節関節脱臼／93 L (手の) 指節間関節脱臼／93	
3. 下肢	93
A 股関節脱臼／93 B 股関節付近の骨折を伴う脱臼／93	
C 膝関節脱臼／93 D 膝蓋骨脱臼／94 E 足関節脱臼／94	
F 足関節付近の骨折を伴う脱臼／94 G 足根骨脱臼／94	
H 中足骨脱臼／94 I (足の) 指節間関節脱臼／94	

柔道整復理論（各論・軟部組織損傷）

1. 頭部・体幹	95
A 顎関節症／95 B 胸肋関節付近の損傷／95 C 肋間筋損傷／95	

	D 頸部捻挫／ 95	E 胸背部の軟部組織損傷／ 95	
	F 腰部の軟部組織損傷／ 95		
2 . 上肢		95
	A 肩部の軟部組織損傷／ 95	B 上腕部の軟部組織損傷／ 95	
	C 肘部の軟部組織損傷／ 95	D 前腕部の軟部組織損傷／ 95	
	E 手関節部・手指部の軟部組織損傷／ 95		
	F 手関節部・手指部の変形および腱損傷／ 95		
3 . 下肢		95
	A 股関節部の軟部組織損傷／ 95	B 大腿部の軟部組織損傷／ 95	
	C 膝関節部の軟部組織損傷／ 95	D 下腿部の軟部組織損傷／ 95	
	E 足部の軟部組織損傷／ 95		

【必修問題出題基準】

必修問題

大項目	中項目	小項目
1. 患者の権利	A 選択の自由	
	B インフォームド・コンセント	ア インフォームド・コンセント イ インフォームド・アセント
	C 個人情報	
2. 医療過誤とリスクマネジメント	A 医療事故と医療過誤	
	B 医療におけるリスクマネジメント	
	C 医療事故調査制度	
3. 柔道整復師と柔道	A 柔道の歴史	ア 創始者 イ 創始年 ウ 発祥の地 エ 嘉納師範が修業した主な柔術流派と師匠 オ 柔術から柔道へ
	B 柔道の理念	ア 講道館柔道の目的 イ 嘉納師範の遺訓について ウ 精力善用、自他共栄について エ 柔道の修業の方法について
	C 審判規定に準じた服装・態度	ア 柔道衣の着用 イ 装飾品 ウ 身嗜み
	D 礼法	ア 立礼 イ 坐礼 ウ 拝礼
	E 受け身	ア 受け身の意義 イ 受け身の種類 ウ 受け身の実施法および注意点
4. 柔道整復師法	A 総則	ア 目的（第1条） イ 定義（第2条） ①柔道整復師 ②施術所
	B 免許	ア 免許を受けるための要件 試験の合格、欠格事由、名簿の登録 イ 免許の申請 ①柔道整復師免許を与える者（第3条） ②申請に必要な書類（施行規則第1条の3） ③申請先（施行規則第1条の3、同第9条第1項） ウ 欠格事由（第4条） エ 免許証 ①免許と免許証、免許証明書 ②交付（第6条第2項、第8条の6） ③書換え交付（施行規則第5条）

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> ④再交付（施行規則第6条） ⑤返納（施行規則第7条第1項、同第2項、同第6条第4項、同第5項） オ 免許の取消し等 <ul style="list-style-type: none"> ①取消し等の要件（第8条第1項、第4条） ②免許証または免許証明書の返納（施行規則第7条第2項、同第9条第1項） ③再免許（第8条第2項） ④厚生労働大臣の指定登録機関への通知
	C 柔道整復師名簿	ア 柔道整復師名簿（第5条） （厚生労働省または指定登録機関に備える） イ 名簿の登録と免許（第6条第1項） ウ 名簿の登録事項（施行規則第2条） エ 名簿の訂正（施行規則第3条第1項、同第9条第1項） オ 登録の消除（施行規則第4条、同第9条第1項） 死亡等の届出義務者（戸籍法第87条）を含む
	D 試験	ア 試験の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①柔道整復師として必要な知識および技能（第10条） ②厚生労働大臣と指定試験機関 ③試験施行期日等の公告 イ 受験資格 （養成施設の入学資格を含む）（第12条） ウ 受験停止等 <ul style="list-style-type: none"> ①受験停止（第13条） （厚生労働大臣が行う場合と指定試験機関が行う場合・厚生労働大臣への報告を含む） ②試験の無効等（第13条、第13条の6） （指定試験機関への通知を含む） エ 合格証書等 <ul style="list-style-type: none"> ①合格証書の交付（施行規則第13条、第16条） ②合格証明書の交付（施行規則第14条、第15条、第16条）
	E 業	ア 業務 <ul style="list-style-type: none"> ①業務独占と名称独占 ②医師と柔道整復の業務について イ 外科手術、薬品投与の禁止（第16条） <ul style="list-style-type: none"> ①医師法違反

大項目	中項目	小項目
		②薬剤師法違反 ウ 施術の制限（第17条） ①柔道整復師の業務範囲 ②医師の同意 ③応急手当 エ 診療放射線 ①人体照射と医師の指示 （診療放射線技師法違反） ②放射線装置の設置等（医療法違反） オ 守秘義務（第17条の2） カ 都道府県知事の指示 （第18条、第30条第3号）
	F 施術所	ア 届出 ①開設の届出（第19条第1項） ②休止、廃止、再開の届出（第19条第2項） （廃止、再開などの具体的事由を含む） ③届出事項（施行規則第17条） ④罰則（第30条第6号） イ 構造設備等 ①構造設備基準（施行規則第18条） ②衛生上必要な措置（施行規則第19条） ウ 報告および検査（第21条、第30条第7号） エ 使用制限等（第22条、第30条第4号、第32条）
	G 雑則	ア 広告の制限（第24条） ①広告を制限する理由 違反の具体例を含む（厚生労働省告示第70号） ②罰則（第30条第5号、第32条） イ 名称の制限 ①医師法違反のもの ②医療法違反のもの
	H 罰則	ア 違反行為と罰則 ①50万円以下の罰金（第29条） ②30万円以下の罰金（第30条） イ 両罰規定 両罰規定の適用されるものについて （第32条） （第22条違反、第24条違反、第19条第1項または第2項違反、第21条第1項違反）
5. 関係法規	A 総論	ア 法の分類 〔憲法、条約、法律、行政機関の制定する命令（政令、省令など）、条例、規則

大項目	中項目	小項目
		など]
	B 医療法	ア 病院、診療所 ①病院、診療所の定義 ②一般病床、療養病床 ③類似名称使用の禁止 ④放射線装置管理 ⑤医療の定義（説明と同意）
	C 医師法	ア 資格要件 絶対的欠格事由、相対的欠格事由 イ 業務 ①業務独占 ②名称独占 ③柔道整復の業務との関係 ④応招義務等 ⑤無診察治療等の禁止 ⑥保健指導を行う義務 ⑦診療録の記載及び保存 ⑧秘密保持義務（刑法による罰則）
	D 保健師助産師看護師法	ア 業務 ①名称独占 ②業務独占
	E 診療放射線技師法	ア 業務 ①業務独占 （医師の具体的指示） ②名称独占
	F 理学療法士および作業療法士法	ア 業務 名称独占
	G 薬剤師法	ア 業務 ①業務独占 （柔道整復師法第 16 条違反と薬剤師法違反による罰則について） ②名称独占
6. 柔道整復師と国民医療費	A 国民医療費	ア 国民医療費とは イ 国民医療費の財源 ウ 国民医療費の現状 エ 療養費とは オ 柔道整復師と療養費 （受領委任払いを含む）
7. 定型的鎖骨骨折の診察および整復	A 診察	ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位） イ 患者の観察（疼痛緩和肢位、患肢保持、歩様、肩幅） ウ 患部の状態（骨折部位、骨片転位、腫脹、限局性圧痛、変形、異常可動性、軋轢音の触知） エ 患肢の運動（頸部、肩関節、肘関節、手関節、指の可動性）

大項目	中項目	小項目
		<p>オ 運動痛（頸部の運動に伴う痛み、上肢の運動に伴う痛み）</p> <p>カ 骨折有無の判断（類症の否定所見を含む）</p>
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	<p>ア 確認時期（整復前、整復後）</p> <p>イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>エ その他の合併症の有無</p>
	C 患者の介助	<p>ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助）</p> <p>イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作）</p> <p>ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）</p>
	D 助手への指示	<p>ア 患者移動時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位）</p> <p>イ 姿勢変換時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、姿勢変換時に支える部位）</p> <p>ウ 診察時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位）</p> <p>エ 整復時の指示（助手の役割、位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、牽引方向、圧迫部位・方向、整復後の患肢保持、患者の観察）</p>
	E 整復操作	<p>ア 整復準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位）</p> <p>イ 整復操作（術者の役割、牽引方向、圧迫部位・方向、整復動作の順序）</p> <p>ウ 整復の確認（整復音の触知、変形の消失）</p> <p>エ 整復操作に伴う患者の状態変化の有無確認</p>
8. 定型的鎖骨骨折の固定	A 固定材料	ア 固定材料の選定（テープ、厚紙副子、リング包帯、三角巾、鎖骨バンド）
	B 固定肢位	<p>ア 患者への指示（胸を張った姿勢、頭頸部の肢位）</p> <p>イ 患者の姿勢・肢位（整復台を用いた姿勢、坐位姿勢、固定肢位）</p>
	C 患者への説明	<p>ア 固定の目的</p> <p>イ 固定の必要性</p>
	D 助手への指示	<p>ア 位置取り</p> <p>イ 患肢の肢位</p> <p>ウ 把握部位</p> <p>エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・</p>

大項目	中項目	小項目
		肢位の変化)
	E 固定の手順	<p>ア 固定材料と固定の方法（デゾー包帯、セイヤー絆創膏固定、8字帯固定、リング固定）</p> <p>イ 腋窩枕子、局所副子の装着位置</p> <p>ウ テープの貼付位置・範囲（骨折部、近位骨片骨折端）</p> <p>エ 固定の期間</p> <p>オ 固定時の術者の姿勢および動作</p> <p>カ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認</p>
	F 固定後の確認	<p>ア 固定の緩み</p> <p>イ 枕子、局所副子（位置、局所圧迫の有無）</p> <p>ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>エ 二次的末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p>
9. 上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復	A 診察	<p>ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位）</p> <p>イ 患者の観察（入室姿勢、患肢保持、歩様）</p> <p>ウ 患部の状態（骨折部位、骨片転位、腫脹、限局性圧痛、変形、異常可動性、軋轢音の触知）</p> <p>エ 患肢の運動（頸部、肩関節、肘関節、手関節、指の可動性）</p> <p>オ 運動痛（頸部の運動に伴う痛み、上肢の運動に伴う痛み）</p> <p>カ 骨折有無の判断（類症の否定所見を含む）</p>
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	<p>ア 確認時期（整復前、整復後）</p> <p>イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>エ その他の合併症の有無</p>
	C 患者の介助	<p>ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助）</p> <p>イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作）</p> <p>ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）</p>
	D 助手への指示	<p>ア 患者移動時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位）</p> <p>イ 姿勢変換時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、姿勢変換時に支える部位）</p>

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> ウ 診察時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位） エ 整復時の指示（助手の役割、位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、牽引方向、圧迫部位・方向、整復後の患肢保持、患者の観察）
	E 整復操作	<ul style="list-style-type: none"> ア 整復準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位） イ 整復操作（術者の役割、牽引方向、圧迫部位・方向、整復動作の順序） ウ 整復の確認（整復音の触知、変形の消失） エ 整復操作に伴う患者の状態変化の有無確認
10. 上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定	A 固定材料	ア 固定材料の選定（金属副子、三角副子、ギプス等シーネ、厚紙副子、包帯、三角巾）
	B 固定肢位	<ul style="list-style-type: none"> ア 患者への指示 イ 患者の姿勢・肢位（坐位姿勢、上腕70～80°外転位、肘関節90°屈曲、前腕中間位、手関節中間位）
	C 患者への説明	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定の目的 イ 固定の必要性
	D 助手への指示	<ul style="list-style-type: none"> ア 位置取り イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）
	E 固定の手順	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定材料と固定の方法（金属副子、三角副子固定、ギプス等シーネ固定） イ 枕子、局所副子の装着位置 ウ 固定範囲（肩関節からMP関節手前） エ 固定の期間 オ 固定時の術者の姿勢および動作 カ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定の緩み イ 枕子、局所副子（位置、局所圧迫の有無） ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ 二次的末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）
11. コーレス(Colles)骨折の診察および整復	A 診察	<ul style="list-style-type: none"> ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位） イ 患者の観察（入室姿勢、患肢保持、歩様） ウ 患部の状態（骨折部位、骨片転位、腫

大項目	中項目	小項目
		<p>脹、限局性圧痛、変形、異常可動性、軋轢音の触知)</p> <p>エ 患肢の運動（肩関節、肘関節、手関節、指の可動性）</p> <p>オ 運動痛（上肢の運動に伴う痛み）</p> <p>カ 骨折有無の判断（類症の否定所見を含む）</p>
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	<p>ア 確認時期（整復前、整復後）</p> <p>イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>エ その他の合併症の有無</p>
	C 患者の介助	<p>ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助）</p> <p>イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作）</p> <p>ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）</p>
	D 助手への指示	<p>ア 患者移動時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位）</p> <p>イ 姿勢変換時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、姿勢変換時に支える部位）</p> <p>ウ 診察時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位）</p> <p>エ 整復時の指示（助手の役割、位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、牽引方向、圧迫部位・方向、整復後の患肢保持、患者の観察）</p>
	E 整復操作	<p>ア 整復準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位）</p> <p>イ 整復操作（術者の役割、牽引方向、圧迫部位・方向、整復動作の順序）</p> <p>ウ 整復の確認（整復音の触知、変形の消失、手指の可動性の改善）</p> <p>エ 整復操作に伴う患者の状態変化の有無確認</p>
12. コーレス (Colles) 骨折の固定	A 固定材料	ア 固定材料の選定（金属副子、ギプス等シーネ、厚紙副子、包帯、三角巾）
	B 固定肢位	<p>ア 患者への指示</p> <p>イ 患者の姿勢・肢位（坐位または背臥位姿勢、肘関節 90°屈曲、前腕回内、手関節掌尺屈）</p>
	C 患者への説明	<p>ア 固定の目的</p> <p>イ 固定の必要性</p>
	D 助手への指示	ア 位置取り

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）
	E 固定の手順	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定材料と固定の方法（金属副子固定、ギプス等シーネ固定） イ 枕子、局所副子の装着位置 ウ 固定範囲（上腕から MP 関節手前） エ 固定の期間 オ 固定時の術者の姿勢および動作 カ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定の緩み イ 枕子、局所副子（位置、局所圧迫の有無） ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ 二次的末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）
13. 第 5 中手骨頸部骨折の固定	A 固定材料	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定材料の選定（アルミ副子、テープ、包帯、三角巾）
	B 固定肢位	<ul style="list-style-type: none"> ア 患者への指示 イ 患者の姿勢・肢位（坐位姿勢、手関節軽度背屈、MP 関節 90° 屈曲、PIP・DIP 軽度屈曲）
	C 患者への説明	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定の目的 イ 固定の必要性
	D 助手への指示	<ul style="list-style-type: none"> ア 位置取り イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）
	E 固定の手順	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定材料と固定の方法（アルミ副子固定、テープ固定+包帯固定） イ 枕子、局所副子の装着位置 ウ 固定範囲（隣接指との固定、前腕遠位から指先） エ 固定の期間 オ 固定時の術者の姿勢および動作 カ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定の緩み イ 枕子（位置、局所圧迫の有無） ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ 二次的末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）
14. 肋骨骨折の固定	A 固定材料	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定材料の選定（厚紙副子、テープ、

大項目	中項目	小項目
		包帯、晒、バスタバンド)
	B 固定肢位	ア 患者への指示（呼吸状態変化時・疼痛増強時の申告） イ 患者の姿勢・肢位（坐位姿勢、呼吸が楽にできる姿勢、疼痛が増強しない姿勢）
	C 患者への説明	ア 固定の目的 イ 固定の必要性
	D 助手への指示	ア 位置取り イ 上肢の保持肢位、患者の姿勢保持の補助 ウ 支える部位 エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）
	E 固定の手順	ア 固定材料と固定の方法（厚紙副子、テープ、包帯、晒、バスタバンド固定） イ 副子の装着位置等（皮膚に対する前処置、乳頭部の保護、局所副子） ウ 固定範囲（テープの貼付範囲、包帯の被覆範囲） エ 固定時の術者の姿勢および動作 オ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	ア 固定の緩み イ 局所副子（位置、局所圧迫の有無） ウ 呼吸状態変化の有無の確認 エ 全身状態変化の有無の確認
15.肩鎖関節上方脱臼の診察および整復	A 診察	ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位） イ 患者の観察（疼痛緩和肢位、患肢保持、歩様） ウ 患部の状態（脱臼部位、転位、腫脹、ピアノキー症状、変形） エ 患肢の運動（頸部、肩関節、肘関節、手関節、指の可動性） オ 運動痛（頸部の運動に伴う痛み、上肢の運動に伴う痛み） カ 脱臼有無の判断（類症の否定所見を含む）
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	ア 確認時期（整復前、整復後） イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助） イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢

大項目	中項目	小項目
		保持、姿勢変換の補助動作) ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）
	D 助手への指示	ア 患者移動時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位） イ 姿勢変換時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、姿勢変換時に支える部位） ウ 診察時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位） エ 整復時の指示（助手の役割、位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、牽引方向、圧迫部位・方向、整復後の患肢保持、患者の観察）
	E 整復操作	ア 整復準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位） イ 整復操作（術者の役割、牽引方向、圧迫部位・方向、整復動作の順序） ウ 整復の確認（変形の消失） エ 整復操作に伴う患者の状態変化の有無確認
16. 肩鎖関節上方脱臼の固定	A 固定材料	ア 固定材料の選定（テープ、厚紙副子、包帯、三角巾）
	B 固定肢位	ア 患者への指示（胸を張った姿勢、頭頸部の肢位） イ 患者の姿勢・肢位（坐位姿勢、固定肢位）
	C 患者への説明	ア 固定の目的 イ 固定の必要性
	D 助手への指示	ア 位置取り イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）
	E 固定の手順	ア 固定材料と固定の方法（ロバート・ジョーンズ絆創膏固定、8字帯固定） イ 腋窩枕子、局所副子の装着位置 ウ テープの貼付位置・範囲・走行（鎖骨遠位端、テープの走行） エ 固定の期間 オ 固定時の術者の姿勢および動作 カ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	ア 固定の緩み イ 枕子、局所副子（位置、局所圧迫の有無） ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）

大項目	中項目	小項目
		エ 二次的末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）
17.肩関節烏口下脱臼の診察および整復	A 診察	<p>ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位）</p> <p>イ 患者の観察（患肢保持、歩様）</p> <p>ウ 患部の状態（脱臼部位、転位、腫脹、骨頭の位置、関節窩の状態、関節の変形、弾発性固定、弾発性固定の肢位）</p> <p>エ 患肢の運動（肩関節、肘関節、手関節、指の可動性）</p> <p>オ 疼痛（持続的な圧迫痛、上肢の運動に伴う痛み）</p> <p>カ 脱臼有無の判断（類症の否定所見を含む）</p>
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	<p>ア 確認時期（整復前、整復後）</p> <p>イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>エ その他の合併症の有無</p>
	C 患者の介助	<p>ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助）</p> <p>イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作）</p> <p>ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）</p>
	D 助手への指示	<p>ア 患者移動時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位）</p> <p>イ 姿勢変換時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、姿勢変換時に支える部位）</p> <p>ウ 診察時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位）</p> <p>エ 整復時の指示（助手の役割、位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、牽引方向、圧迫部位・方向、整復後の患肢保持、患者の観察）</p>
	E 整復操作	<p>ア 整復準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位）</p> <p>イ 整復操作（術者の役割、牽引方向、圧迫部位・方向、整復動作の順序）</p> <p>ウ 整復の確認（整復音の触知、変形の消失、可動性の回復、疼痛の軽快）</p> <p>エ 整復操作に伴う患者の状態変化の有無確認</p>
18.肩関節烏口下脱臼の固定	A 固定材料	ア 固定材料の選定（厚紙副子、すだれ副子、ギプス等シーネ、包帯、三角巾、

大項目	中項目	小項目
		固定装具)
	B 固定肢位	ア 患者への指示 イ 患者の姿勢・肢位（坐位姿勢、患肢肢位）
	C 患者への説明	ア 固定の目的 イ 固定の必要性
	D 助手への指示	ア 位置取り イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）
	E 固定の手順	ア 固定材料と固定の方法（局所副子+包帯固定、装具固定） イ 腋窩枕子、局所副子の装着位置 ウ 固定の範囲・走行（肩関節部、包帯の走行） エ 固定の期間 オ 固定時の術者の姿勢および動作 カ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	ア 固定の緩み イ 枕子、局所副子（位置、局所圧迫の有無） ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部位損傷有無の判断） エ 二次的末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）
19.肘関節後方脱臼の診察および整復	A 診察	ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位） イ 患者の観察（患肢保持、歩様） ウ 患部の状態（脱臼部位、転位、腫脹、肘頭の位置、ヒューター三角の状態、関節の変形、弾発性固定の肢位） エ 患肢の運動（肩関節、肘関節、手関節、指の可動性） オ 疼痛（持続的な圧迫痛、上肢の運動に伴う痛み） カ 脱臼有無の判断（類症の否定所見を含む）
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	ア 確認時期（整復前、整復後） イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助） イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢

大項目	中項目	小項目
		保持、姿勢変換の補助動作) ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）
	D 助手への指示	ア 患者移動時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位） イ 姿勢変換時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、姿勢変換時に支える部位） ウ 診察時の指示（位置取り、患肢の保持肢位、把握部位） エ 整復時の指示（助手の役割、位置取り、患肢の保持肢位、把握部位、牽引方向、圧迫部位・方向、整復後の患肢保持、患者の観察）
	E 整復操作	ア 整復準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位） イ 整復操作（術者の役割、牽引方向、圧迫部位・方向、整復動作の順序） ウ 整復の確認（整復音の触知、変形の消失、可動性の回復、疼痛の軽快） エ 整復操作に伴う患者の状態変化の有無確認
20. 肘関節後方脱臼の固定	A 固定材料	ア 固定材料の選定（厚紙副子、すだれ副子、ギプス等シーネ、包帯、三角巾）
	B 固定肢位	ア 患者への指示 イ 患者の姿勢・肢位（坐位姿勢、患肢肢位）
	C 患者への説明	ア 固定の目的 イ 固定の必要性
	D 助手への指示	ア 位置取り イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）
	E 固定の手順	ア 固定材料と固定の方法（局所副子＋包帯固定、金属副子固定、ギプス等シーネ固定） イ 枕子、局所副子の装着位置 ウ 固定の範囲・走行（肘関節部、包帯の走行） エ 固定の期間 オ 固定時の術者の姿勢および動作 カ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	ア 固定の緩み イ 枕子、局所副子（位置、局所圧迫の有無） ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部

大項目	中項目	小項目
		位、損傷有無の判断) エ 二次的末梢神経損傷有無の確認(方法、部位、損傷有無の判断)
21. 肘内障の診察および整復	A 診察	ア 病歴聴取(主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位) イ 患者の観察(患肢保持、患肢の使用状況) ウ 患部の状態(損傷部位、患肢の肢位、腫脹、関節の変形、前腕回外運動での抵抗感) エ 患肢の運動(肩関節、肘関節、手関節指の可動性) オ 疼痛(疼痛の状態、上肢の運動に伴う痛み) カ 損傷有無の判断
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	ア 確認時期(整復前、整復後) イ 血管損傷有無の確認(方法、部位、損傷有無の判断) ウ 末梢神経損傷有無の確認(方法、部位、損傷有無の判断) エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	ア 患者移動の介助(患者への指示、移動の補助) イ 姿勢変換の介助(患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作) ウ 脱衣の介助(健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持)
	D 助手または保護者への指示	ア 患者移動時の指示(位置取り、患肢の保持肢位、把握部位) イ 診察時の指示(位置取り、患児体幹の保持) ウ 診察時・整復時の指示(位置取り、患児体幹の保持)
	E 整復操作	ア 整復準備(患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位) イ 整復操作(圧迫部位・方向、整復動作の順序) ウ 整復の確認(整復音の触知、可動性の回復、疼痛の軽快) エ 整復操作に伴う患者の全身状態変化の有無確認 オ 整復後の患肢の使用状況の確認
22. 示指 PIP 関節背側脱臼の固定	A 固定材料	ア 固定材料の選定(アルミ副子、テープ、包帯、三角巾)
	B 固定肢位	ア 患者への指示 イ 患者の姿勢・肢位〔坐位姿勢、手関節軽度背屈、MP・PIP・DIP 関節軽度

大項目	中項目	小項目
		(20~30°) 屈曲位]
	C 患者への説明	ア 固定の目的 イ 固定の必要性
	D 助手への指示	ア 位置取り イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察 (全身状態の変化、姿勢・肢位の変化)
	E 固定の手順	ア 固定材料と固定の方法 (アルミ副子固定、テープ固定、+包帯固定) イ 枕子、局所副子の装着位置 ウ 固定範囲 (隣接指との固定、前腕遠位から指先) エ 固定の期間 オ 固定時の術者の姿勢および動作 カ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	ア 固定の緩み イ 枕子、局所副子 (位置、局所圧迫の有無) ウ 二次的血管損傷有無の確認 (方法、部位、損傷有無の判断) エ 二次的末梢神経損傷有無の確認 (方法、部位、損傷有無の判断)
23. 肩腱板損傷の診察	A 診察	ア 病歴聴取 (主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位) イ 患者の観察 (患肢保持、患肢の使用状況) ウ 患部の状態 (損傷部位、患肢の肢位、腫脹、圧痛、陥凹の触知) エ 患肢の運動 (肩関節、肘関節、手関節、指の可動性) オ 疼痛 (疼痛の状態、上肢の運動に伴う痛み)
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	ア 確認時期 (検査前、検査後) イ 血管損傷有無の確認 (方法、部位、損傷有無の判断) ウ 末梢神経損傷有無の確認 (方法、部位、損傷有無の判断) エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	ア 患者移動の介助 (患者への指示、移動の補助) イ 姿勢変換の介助 (患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作) ウ 脱衣の介助 (健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持)
	D 検査手技・動作	ア 検査準備 (患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位)

大項目	中項目	小項目
		イ 検査手技（有痛弧徴候、ドロップアームサイン、インピンジメント徴候） ウ 検査（手技、動作順序） エ 損傷有無の判断（陽性所見、類症の否定所見） オ 検査に伴う患者の全身状態変化の有無確認 カ 検査後の患肢の使用状況の確認
24. 上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	A 診察	ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位） イ 患者の観察（患肢保持、患肢の使用状況） ウ 患部の状態（損傷部位、患肢の肢位、腫脹、圧痛、陥凹の触知） エ 患肢の運動（肩関節、肘関節、手関節、指の可動性） オ 疼痛（疼痛の状態、上肢の運動に伴う痛み）
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	ア 確認時期（検査前、検査後） イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助） イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作） ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）
	D 検査手技・動作	ア 検査準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位） イ 検査手技（ヤーガソンテスト、スピードテスト、エルボーフレクションテスト） ウ 検査（手技、動作順序） エ 損傷有無の判断（陽性所見、類症の否定所見） オ 検査に伴う患者の全身状態変化の有無確認 カ 検査後の患肢の使用状況の確認
25. 大腿部打撲・肉ばなれ、大腿四頭筋、ハムストリングスの診察	A 診察	ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位） イ 患者の観察（歩行状態、歩行姿勢、患肢の使用状況） ウ 患部の状態（損傷部位、患肢の肢位、腫脹、圧痛、陥凹の触知）

大項目	中項目	小項目
		エ 患肢の運動（股関節、膝関節、足関節趾の可動性） オ 疼痛（疼痛の状態、下肢の運動に伴う痛み）
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	ア 確認時期（検査前、検査後） イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助） イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作） ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）
	D 検査手技・動作	ア 検査準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位） イ 検査手技（疼痛誘発検査） ウ 検査（手技、動作順序） エ 損傷有無の判断（陽性所見、類症の否定所見） オ 検査に伴う患者の全身状態変化の有無確認 カ 検査後の患肢の使用状況の確認
26. 膝関節側副靭帯損傷の診察	A 診察	ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位） イ 患者の観察（歩行状態、歩行姿勢、患肢の使用状況） ウ 患部の状態（損傷部位、患肢の肢位、腫脹、圧痛、膝関節動揺感） エ 患肢の運動（股関節、膝関節、足関節、趾の可動性） オ 疼痛（疼痛の状態、下肢の運動に伴う痛み）
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	ア 確認時期（検査前、検査後） イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助） イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作） ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）

大項目	中項目	小項目
	D 検査手技・動作	<p>ア 検査準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位）</p> <p>イ 検査手技（側方動揺検査）</p> <p>ウ 検査（手技、動作順序）</p> <p>エ 損傷有無の判断（陽性所見、類症の否定所見）</p> <p>オ 検査に伴う患者の全身状態変化の有無確認</p> <p>カ 検査後の患肢の使用状況の確認</p>
27. 膝関節十字靭帯損傷の診察	A 診察	<p>ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位）</p> <p>イ 患者の観察（歩行状態、歩行姿勢、患肢の使用状況）</p> <p>ウ 患部の状態（損傷部位、患肢の肢位、腫脹、圧痛、膝関節動揺感、膝崩れ現象）</p> <p>エ 患肢の運動（股関節、膝関節、足関節、趾の可動性）</p> <p>オ 疼痛（疼痛の状態、下肢の運動に伴う痛み）</p>
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	<p>ア 確認時期（検査前、検査後）</p> <p>イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>エ その他の合併症の有無</p>
	C 患者の介助	<p>ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助）</p> <p>イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作）</p> <p>ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）</p>
	D 検査手技・動作	<p>ア 検査準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位）</p> <p>イ 検査手技（ラックマンテスト、前方引き出し検査、後方引き出し（押込み）検査、ピボットシフトテスト、サグサイン、Nテスト）</p> <p>ウ 検査（手技、動作順序）</p> <p>エ 損傷有無の判断（陽性所見、類症の否定所見）</p> <p>オ 検査に伴う患者の全身状態変化の有無確認</p> <p>カ 検査後の患肢の使用状況の確認</p>
28. 膝関節半月板損傷の診察	A 診察	<p>ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位）</p> <p>イ 患者の観察（歩行状態、歩行姿勢、患肢の部位）</p>

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> ウ 患部の状態（損傷部位、患肢の肢位、腫脹、圧痛、ロッキング、膝崩れ現象） エ 患肢の運動（股関節、膝関節、足関節、趾の可動性） オ 疼痛（疼痛の状態、下肢の運動に伴う痛み）
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	<ul style="list-style-type: none"> ア 確認時期（検査前、検査後） イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	<ul style="list-style-type: none"> ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助） イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作） ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）
	D 検査手技・動作	<ul style="list-style-type: none"> ア 検査準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位） イ 検査手技（マックマレーテスト、圧迫アプライテスト、ワトソンジョーンズテスト、ステインマンテスト） ウ 検査（手技、動作順序） エ 損傷有無の判断（陽性所見、類症の否定所見） オ 検査に伴う患者の全身状態変化の有無確認 カ 検査後の患肢の使用状況の確認
29. 膝関節内側側副靭帯損傷の固定	A 固定材料	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定材料の選定（金属副子、厚紙副子、ギプス等シーネ、テープ、包帯）
	B 固定肢位	<ul style="list-style-type: none"> ア 患者への指示（背臥位または座位姿勢、膝関節軽度屈曲位の保持） イ 患者の姿勢・肢位（背臥位または座位姿勢、固定肢位）
	C 患者への説明	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定の目的 イ 固定の必要性
	D 助手への指示	<ul style="list-style-type: none"> ア 位置取り イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）
	E 固定の手順	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定材料と固定の方法（金属副子固定、厚紙副子固定、テープ固定、ギプス等シーネ固定） イ 枕子の装着位置（褥瘡および神経損傷の予防枕子）

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> ウ 固定肢位（膝関節軽度屈曲位） エ 固定の範囲・走行（大腿近位部から下腿遠位部または足 MP 関節、テープの走行、包帯の走行） オ 固定の期間 カ 固定時の術者の姿勢および動作 キ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定の緩み イ 枕子・局所副子（位置、局所圧迫の有無） ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ 二次的末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）
30. 下腿三頭筋肉ばなれの診察	A 診察	<ul style="list-style-type: none"> ア 病歴聴取（主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位） イ 患者の観察（歩行状態、歩行姿勢、患肢の使用状況） ウ 患部の状態（損傷部位、患肢の肢位、腫脹、圧痛、陥凹の触知、足関節底屈筋力） エ 患肢の運動（膝関節、足関節、趾の可動性） オ 疼痛（疼痛の状態、下肢の運動に伴う痛み）
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	<ul style="list-style-type: none"> ア 確認時期（検査前、検査後） イ 血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） ウ 末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	<ul style="list-style-type: none"> ア 患者移動の介助（患者への指示、移動の補助） イ 姿勢変換の介助（患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作） ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）
	D 検査手技・動作	<ul style="list-style-type: none"> ア 検査準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位） イ 検査手技（疼痛誘発検査） ウ 検査（手技、動作順序） エ 損傷有無の判断（陽性所見、類症の否定所見） オ 検査に伴う患者の全身状態変化の有無確認 カ 検査後の患肢の使用状況の確認
31. アキレス腱断裂の	A 固定材料	<ul style="list-style-type: none"> ア 固定材料の選定（金属副子、厚紙副子、

大項目	中項目	小項目
固定		ギプス等シーネ、テープ、包帯)
	B 固定肢位	ア 患者への指示 (背臥位または腹臥位姿勢) イ 患者の姿勢・肢位 (背臥位または腹臥位姿勢、固定肢位)
	C 患者への説明	ア 固定の目的 ウ 固定の必要性
	D 助手への指示	ア 位置取り イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察 (全身状態の変化、姿勢・肢位の変化)
	E 固定の手順	ア 固定材料と固定の方法 (金属副子固定、金属副子+テープ固定、ギプス等シーネ固定) イ 枕子の装着位置 (褥瘡予防枕子) ウ 固定の範囲・走行 (大腿または下腿近位部から趾先、包帯・テープの走行) エ 固定の期間 オ 固定時の術者の姿勢および動作 カ 固定に伴う患者の状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	ア 固定の緩み イ 枕子 (位置、局所圧迫の有無) ウ 二次的血管損傷有無の確認 (方法、部位、損傷有無の判断) エ 二次的末梢神経損傷有無の確認 (方法、部位、損傷有無の判断)
32. 足関節外側靭帯損傷の診察	A 診察	ア 病歴聴取 (主訴、受傷原因・肢位、外力の働いた部位) イ 患者の観察 (歩行状態、歩行姿勢、患肢の使用状況) ウ 患部の状態 (損傷部位、患肢の肢位、腫脹、圧痛) エ 患肢の運動 (膝関節、足関節、趾の可動性) オ 疼痛 (疼痛の状態、下肢の運動に伴う痛み)
	B 血管・神経損傷、その他の合併症の確認	ア 確認時期 (検査前、検査後) イ 血管損傷有無の確認 (方法、部位、損傷有無の判断) ウ 末梢神経損傷有無の確認 (方法、部位、損傷有無の判断) エ その他の合併症の有無
	C 患者の介助	ア 患者移動の介助 (患者への指示、移動の補助) イ 姿勢変換の介助 (患者への指示、患肢保持、姿勢変換の補助動作)

大項目	中項目	小項目
		ウ 脱衣の介助（健側からの脱衣、脱衣時の患肢保持）
	D 検査手技・動作	<p>ア 検査準備（患者の姿勢、術者の立ち位置・姿勢、患肢の肢位、把握部位）</p> <p>イ 検査手技（前方引き出し検査、内反動揺性検査）</p> <p>ウ 検査（手技、動作順序）</p> <p>エ 損傷有無の判断（陽性所見、類症の否定所見）</p> <p>オ 検査に伴う患者の全身状態変化の有無確認</p> <p>カ 検査後の患肢の使用状況の確認</p>
33. 足関節外側靭帯損傷の固定	A 固定材料	ア 固定材料の選定（金属副子、厚紙副子、ギプス等シーネ、包帯）
	B 固定肢位	<p>ア 患者への指示（背臥位姿勢、足関節0°位の保持）</p> <p>イ 患者の姿勢・肢位（背臥位姿勢、固定肢位）</p>
	C 患者への説明	<p>ア 固定の目的</p> <p>イ 固定の必要性</p>
	D 助手への指示	<p>ア 位置取り</p> <p>イ 患肢の肢位</p> <p>ウ 把握部位</p> <p>エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）</p>
	E 固定の手順	<p>ア 固定材料と固定の方法（金属副子固定、厚紙副子固定、テープ固定、ギプス等シーネ固定）</p> <p>イ 枕子の装着位置（褥瘡予防枕子）</p> <p>ウ 固定肢位</p> <p>エ 固定の範囲・走行（下腿遠位部から足関節、テープの走行、包帯の走行）</p> <p>オ 固定の期間</p> <p>カ 固定時の術者の姿勢および動作</p> <p>キ 固定に伴う患者の全身状態変化の有無確認</p>
	F 固定後の確認	<p>ア 固定の緩み</p> <p>イ 枕子・局所副子（位置、局所圧迫の有無）</p> <p>ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p> <p>エ 二次的末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）</p>
34. 下腿骨骨幹部骨折の固定	A 固定材料	ア 固定材料の選定（金属副子、副木、すだれ副子、厚紙副子、ギプス等シーネ、包帯）
	B 固定肢位	ア 患者への指示（背臥位姿勢、膝関節軽度屈曲位、足関節0°～軽度屈曲位の保持）

大項目	中項目	小項目
		イ 患者の姿勢・肢位（背臥位姿勢、固定肢位）
	C 患者への説明	ア 固定の目的 イ 固定の必要性
	D 助手への指示	ア 位置取り イ 患肢の肢位 ウ 把握部位 エ 患者の観察（全身状態の変化、姿勢・肢位の変化）
	E 固定の手順	ア 固定材料と固定の方法（金属副子固定、金属副子+副木固定、ギプス等シーネ固定） イ 枕子の装着位置（褥瘡予防枕子） ウ 固定の範囲・走行（大腿近位部から趾先、包帯の走行） エ 固定の期間 オ 固定時の術者の姿勢および動作 カ 固定に伴う患者の全身状態変化の有無確認
	F 固定後の確認	ア 固定の緩み イ 枕子・局所副子（位置、局所圧迫の有無） ウ 二次的血管損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断） エ 二次的末梢神経損傷有無の確認（方法、部位、損傷有無の判断）
35. 包帯法	A 包帯各部の名称	
	B 包帯の種類	ア 晒・包帯・ギプス・三角巾・テープ イ 単頭帯・多頭帯・腹帯
	C 包帯の巻き方	ア 表巻き・裏巻き イ 包帯の走行
	D 基本包帯法の種類と適応	ア 環行帯 イ 螺旋帯 ウ 蛇行帯 エ 麦穂帯 オ 亀甲帯 カ 折転帯
	E 冠名包帯法の種類と適応	ア デゾー包帯 イ ヴェルポー包帯 ウ ジュール包帯
	F 基本包帯法および冠名包帯法の実施法	ア 包帯の選択 イ 包帯施行時の患者の介助 ウ 患者および助手への指示 エ 包帯施行時の術者の姿勢および動作 オ 包帯の持ち方 カ 包帯の走行

大項目	中項目	小項目
		キ 適切な包帯の条件 ク 患者の観察 ケ 二次的損傷の確認

【各試験科目別問題出題基準】

解剖学

大項目	中項目	小項目
1. 人体解剖学概説	A 解剖学用語	ア 人体の方向と位置を示す用語 イ 人体の区分 ウ 人体各部の名称
	B 細胞	ア 形態 イ 細胞内小器官 ウ 細胞周期 エ 細胞分裂
	C 組織	ア 種類と特性 ① 上皮組織 腺組織 ② 支持組織 結合組織 軟骨組織 骨組織 血液 ③ 筋組織 ④ 神経組織
	D 器官系	ア 器官の分類
	E 人体の発生	ア 生殖細胞 イ 染色体（常染色体、性染色体） ウ 受精 エ 初期発生（各胚葉から分化する主要組織と器官）
2. 運動器系	A 骨	ア 形態と構造 イ 生理作用〔生理学から出題〕 ウ 発生と成長
	B 骨の連結	ア 線維性の連結 イ 軟骨性の連結 ウ 滑膜性の連結（関節） エ 関節の分類 骨数、運動軸数、関節面の形状
	C 筋	ア 分類、起始・停止 イ 作用〔運動学から出題〕 ウ 補助装置 エ 筋の神経支配
	D 頭部	ア 脳頭蓋・顔面頭蓋の構成 イ 縫合と泉門 ウ 顎関節 エ 頭部の筋 ① 浅頭筋（表情筋）の名称 頭蓋表筋、眼瞼裂周囲の筋、口裂周囲の筋の起始・停止、神経支配 ② 深頭筋（咀嚼筋）の名称、起始・停止、神経支配
	E 頸部	ア 頸部の筋

大項目	中項目	小項目
		①浅頸筋、側頸筋、前頸筋、後頸筋の名称 ②胸鎖乳突筋の起始・停止、神経支配 ③斜角筋隙、頸動脈三角、顎下三角
	F 体幹	ア 脊柱を構成する骨の名称とその数 イ 椎骨の基本的構造 ウ 頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨の特徴 エ 脊柱の関節と靭帯 オ 脊柱の全景 生理的弯曲 カ 胸郭を構成する骨の名称とその数 キ 背部の筋 ①浅背筋の名称 僧帽筋、広背筋、大菱形筋、小菱形筋、肩甲挙筋の起始・停止、神経支配 ②深背筋、後頭下筋の名称 ク 胸部の筋 ①浅胸筋の名称 大胸筋、小胸筋、鎖骨下筋、前鋸筋の起始・停止、神経支配 ②深胸筋の名称 外肋間筋、内肋間筋、最内肋間筋の起始・停止、神経支配 ケ 横隔膜 ①位置、起始・停止、神経支配 ②横隔膜にある孔、通過する器官の名称 コ 腹部の筋 ①前腹筋、側腹筋、後腹筋の名称 ②白線、腹直筋鞘、鼠径管
	G 上肢	ア 上肢の骨 鎖骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨 イ 上肢の関節と靭帯 肩鎖関節、胸鎖関節、肩関節、肘関節、上・下橈尺関節、橈骨手根関節、手根間関節、手根中手関節、中手指節関節、近位・遠位指節間関節、手根管 ウ 上肢帯の筋（肩甲部の筋） ①三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋の起始・停止、神経支配 ②回旋〔筋〕腱板 エ 上腕の筋 ①屈筋群の名称 上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋の起始・停止、神経支配

大項目	中項目	小項目
		<p>②伸筋の名称 上腕三頭筋、肘筋の起始・停止、神経支配</p> <p>オ 前腕の筋</p> <p>①屈筋の名称 円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、浅指屈筋、長母指屈筋、深指屈筋、尺側手根屈筋、方形回内筋の起始・停止、神経支配</p> <p>②伸筋の名称 腕橈骨筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋、回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋の起始・停止、神経支配</p> <p>カ 手の筋</p> <p>①母指球筋の名称 短母指外転筋・短母指屈筋・母指対立筋、母指内転筋の起始・停止、神経支配</p> <p>②小指球筋の名称 小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋の起始・停止、神経支配</p> <p>③中手筋の名称 虫様筋、背側骨間筋、掌側骨間筋の起始・停止、神経支配</p>
	H 下肢	<p>ア 下肢の骨 寛骨（腸骨、坐骨、恥骨）、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾骨</p> <p>イ 下肢の関節と靭帯</p> <p>①骨盤の構成・性差、大坐骨孔・小坐骨孔、梨状筋上孔・梨状筋下孔、単径靭帯</p> <p>②仙腸関節、股関節、膝関節、脛腓関節、脛腓靭帯結合、距腿関節、足根間関節、ショパール関節、リスフラン関節</p> <p>ウ 下肢帯の筋（骨盤筋）</p> <p>①内寛骨筋の名称 腸腰筋の起始・停止、神経支配</p> <p>②外寛骨筋の名称 大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋、梨状筋、内閉鎖筋、双子筋、大腿方形筋の起始・停止、神経支配</p> <p>エ 大腿の筋</p> <p>①屈筋の名称 大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋の</p>

大項目	中項目	小項目
		起始・停止、神経支配 ②伸筋の名称 縫工筋、大腿四頭筋の起始・停止、 神経支配 ③内転筋の名称 恥骨筋、薄筋、長内転筋、短内転筋、 大内転筋、外閉鎖筋の起始・停止、 神経支配 ④大腿三角、鶯足、内転筋管、内転筋 腱裂孔 オ 下腿の筋 ①屈筋の名称 下腿三頭筋、足底筋、膝窩筋、後脛 骨筋、長母趾屈筋、長趾屈筋の起 始・停止、神経支配 ②伸筋の名称 前脛骨筋、長母趾伸筋、長趾伸筋、 第3腓骨筋の起始・停止、神経支配 ③腓骨筋の名称 長腓骨筋、短腓骨筋の起始・停止、 神経支配 カ 足の筋 足背の筋、母趾球筋、小趾球筋、中足 筋の名称
3. 脈管系 (循環器系)	A 概説	ア 体(大)循環 イ 肺(小)循環 ウ 血管の種類と構造 エ 血管の吻合 終動脈、側副血管、動静脈吻合
	B 心臓	ア 位置、外形、大きさ、重さ イ 心臓壁の構造 ウ 心臓の内腔 弁口と弁 エ 心臓に出入りする血管 オ 心臓に分布する血管と神経 カ 刺激伝導系 キ 心膜
	C 動脈	ア 上行大動脈と冠状動脈 イ 大動脈弓とその枝 ウ 胸大動脈とその枝 エ 腹大動脈とその枝 オ 頭・頸部の動脈 大脳動脈輪を含む カ 上肢の動脈 キ 骨盤部の動脈 ク 下肢の動脈
	D 静脈	ア 上大静脈とその根

大項目	中項目	小項目
		イ 下大静脈とその根 ウ 頭・頸部の静脈 硬膜静脈洞を含む エ 上肢の静脈 オ 下肢の静脈 カ 奇静脈 キ 半奇静脈 ク 副半奇静脈 ケ 門〔静〕脈
	E リンパ系	ア リンパ本幹 胸管、右リンパ本幹 イ リンパ節の構造、主なリンパ節 ウ 脾臓の外形 位置、形、大きさ、重さ エ 脾臓の構造 赤脾髄、白脾髄 オ 胸腺の位置と構造
	F 胎児循環	ア 胎盤 イ 臍動脈と臍静脈 ウ 静脈管（アランチウス管） エ 卵円孔 オ 動脈管（ボタロー管）
4. 消化器系	A 概説	ア 臓器の一般構造 中腔性臓器、実質性臓器 イ 構成する器官
	B 口腔	ア 口腔の区分 口腔前庭と固有口腔 イ 口蓋 硬口蓋と軟口蓋 ウ 歯 構造、種類、乳歯・永久歯 エ 舌 区分、舌乳頭、神経支配 オ 口峽 構成 カ 唾液腺（口腔腺） ①大唾液腺と小唾液腺の名称 ②大唾液腺の位置、導管の開口部、唾 液の性状
	C 咽頭	ア 位置、外形、区分 イ リンパ性咽頭輪（ワルダイエル咽頭輪）
	D 食道	ア 位置、外形、区分 イ 生理的狭窄部 ウ 食道壁の構造
	E 胃	ア 位置、外形、区分 イ 胃壁の構造 胃腺を含む

大項目	中項目	小項目
		ウ 胃に分布する血管
	F 小腸	ア 位置、外形、区分 イ 十二指腸の外形、区分、構造 ①大十二指腸乳頭、小十二指腸乳頭 総胆管と膵管、副膵管 ②十二指腸堤筋（トライツ靱帯） ウ 空腸・回腸の外形、区分、構造 輪状ヒダ、腸絨毛、パイエル板 エ 小腸壁の構造 回盲弁、腸腺を含む オ 小腸に分布する血管
	G 大腸	ア 位置、外形、区分 イ 盲腸・虫垂の位置、長さ、構造 ウ 結腸の区分と構造、特徴 結腸膨起、結腸半月ヒダ、結腸ヒモ、 腹膜垂 エ 直腸の長さ、各部の名称 オ 肛門、肛門括約筋 カ 大腸壁の構造 キ 大腸に分布する血管
	H 肝臓	ア 位置、外形、重さ、色 イ 各部の名称 ウ 区分 右葉、左葉、方形葉、尾状葉 エ 肝臓の構造 肝小葉 オ 胆嚢の構造 カ 胆汁の分泌経路 キ 肝臓に分布する血管
	I 膵臓	ア 位置、外形、区分 イ 構造 外分泌部、内分泌部
	J 腹膜	ア 壁側腹膜、臓側腹膜 イ 腹膜腔 ウ 大網、小網 エ 腹膜後器官
5.呼吸器系	A 概説	ア 構成する器官 イ 上気道、下気道、呼吸部
	B 鼻	ア 外鼻、鼻腔 イ 副鼻腔の名称、位置、開口部
	C 喉頭	ア 喉頭軟骨の種類 イ 喉頭筋 ウ 喉頭腔 喉頭の構造、声帯
	D 気管および気管支	ア 気管・気管支の位置と構造 イ 左右の気管支の相違

大項目	中項目	小項目
	E 肺	ア 位置、外形、重さ、色 イ 各部の名称 ウ 肺の構造 エ 肺の血管
	F 胸膜	ア 肺胸膜、壁側胸膜、胸膜腔、胸膜洞
	G 縦隔	ア 定義 イ 縦隔の区分と縦隔にある器官
6.泌尿器系	A 概説	ア 構成する器官
	B 腎臓	ア 位置、外形 ①位置（高さ）、外形、大きさ、重さ、色 ②固定（被膜・腎筋膜） イ 腎門に出入りする器官 ウ 腎臓の構造 エ 腎臓の血管
	C 尿管	ア 長さ イ 生理的狭窄部 ウ 尿管壁の構造
	D 膀胱	ア 位置、外形 イ 膀胱壁の構造 膀胱括約筋、膀胱三角
	E 尿道	ア 長さ 性差 イ 区分
7.生殖器系	A 概説	ア 構成する器官
	B 男性生殖器	ア 精巣（睾丸） 位置、形状、構造 セルトリ細胞、間細胞（ライディッヒ細胞）、精子の発生 イ 精路 ①精巣上体の位置と区分 ②精管 ③精索 ウ 付属生殖腺 ①精囊の位置と形態 分泌物 ②前立腺の位置と形態 外腺と内腺、分泌物 ③尿道球腺の位置 分泌物 エ 外陰部 ①陰茎の区分と構造 尿道海綿体、陰茎海綿体、包皮 ②陰囊
	C 女性生殖器	ア 卵巣 ①位置、形状、構造

大項目	中項目	小項目
		②卵胞の成熟、排卵、黄体 イ 卵管 位置と各部の名称 ウ 子宮 ①位置、形態、区分、子宮壁の構造 ②子宮粘膜の周期的変化 エ 膣 ①位置と長さ ②膣円蓋 オ 外陰部 大陰唇、小陰唇、陰核、大前庭腺
8. 内分泌器系	A 概説	ア 内分泌腺の種類と特徴
	B 下垂体	ア 位置、構造、ホルモン
	C 上皮小体 (副甲状腺)	ア 位置、構造、ホルモン
	D 甲状腺	ア 位置、構造、ホルモン
	E 副腎	ア 位置、構造、ホルモン
	F 膵臓	ア 位置、構造、ホルモン
	G 精巣	ア 位置、構造 [7.生殖器系から出題]、ホルモン
	H 卵巣	ア 位置、構造 [7.生殖器系から出題]、ホルモン
	I 松果体	ア 位置、構造、ホルモン
9. 神経系	A 概説	ア 分類 ①中枢神経系 ②末梢神経系 イ 髄膜 硬膜、クモ膜、軟膜
	B 脳	ア 区分 イ 脳幹 ウ 終脳 ①位置、形態、区分、機能 ②脳回と脳溝、皮質と髄質 ③嗅脳と大脳半球 (外套) 機能の局在、側脳室 ④大脳核 エ 間脳 位置、区分、神経核 オ 中脳 位置、区分、神経核 カ 小脳 位置、形態、区分、小脳核 キ 橋 位置、区分、神経核 ク 延髄 位置、神経核、錐体 ケ 脳室

大項目	中項目	小項目
		脳脊髄液の分泌と循環
	C 脊髄	ア 外形、区分 イ 構造と各部の名称
	D 伝導路	ア 上行性伝導路 ①痛覚 ②温度覚 ③触覚 ④圧覚 ⑤深部感覚 イ 下行性伝導路 ①錐体路 ②錐体外路
	E 脳神経	ア 名称 イ 脳神経核 ウ 脳神経の頭蓋底通過部、分布、作用
	F 脊髄神経	ア 分類 頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経 イ 脊髄神経叢の構成 頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢、陰部神経叢、尾骨神経叢 ウ 走行、分布、作用
	G 自律神経	ア 分類 イ 交感神経 起始、走行、分布、作用 ウ 副交感神経 起始、走行、分布、作用
10. 感覚器系	A 外皮	ア 皮膚の構造 イ 皮膚に付属する角質器 毛、爪 ウ 皮膚腺 汗腺、脂腺、乳腺 エ 神経終末
	B 視覚器	ア 眼球の構造 イ 眼球付属器 眼瞼、結膜、涙器、眼筋、眼窩 ウ 視覚の伝導路
	C 聴覚器、平衡覚器	ア 外耳 耳介、外耳道 イ 中耳 鼓膜、鼓室、耳小骨、耳管 ウ 内耳 骨迷路（前庭、骨半規管、蝸牛）、膜迷路 エ 聴覚・平衡覚の伝導路
	D 味覚器	ア 味蕾の位置と構造

大項目	中項目	小項目
		イ 味覚神経 ウ 味覚の伝導路
	E 嗅覚器	ア 位置と構造 イ 嗅覚の伝導路
11. 体表解剖	A 体表区分	ア 頭、顔、頸、体幹、体肢（上肢、下肢） 〔1-A 解剖学用語から出題〕 イ 人体区分線
	B 骨格	ア 体表より触れる骨・骨の部分・関節裂隙
	C 筋	ア 体表より触れる筋・腱
	D 脈管	ア 体表より拍動を触れる動脈 浅側頭動脈、顔面動脈、総頸動脈、腋窩動脈、上腕動脈、橈骨動脈、尺骨動脈、大腿動脈、膝窩動脈、足背動脈、後脛骨動脈 イ 皮静脈
	E 神経	ア 末梢神経の圧痛点〔一般臨床医学から出題〕
	F 顔面	ア 顔貌の観察 目、耳、鼻、口
	G 外皮	ア 身体の部位による相違
	H 生体計測	〔リハビリテーション医学から出題〕

生 理 学

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 総論	A 人体を構成する要素	ア 細胞、組織、器官〔解剖学から出題〕
	B ホメオスタシス	ア 内部環境 イ 負のフィードバック
	C 細胞の構造と機能	ア 細胞膜の機能 イ 細胞内小器官〔解剖学から出題〕 ウ エンドサイトーシスとエクソサイトーシス
	D 生体の物理化学的基礎	ア 輸送 拡散、浸透、ろ過、受動輸送、能動輸送
	E 体液の区分と組成	ア 体液区分と水バランス イ イオン組成 ウ 浸透圧と体液量の調節 エ 酸塩基平衡の調節
2. 血液	A 成分	ア 血漿と血清 イ 血漿蛋白質 ウ 血球
	B 赤血球	ア ヘモグロビン生成と造血 イ ヘモグロビンの役割 ウ 分解とビリルビン代謝 エ 酸素解離曲線 オ 二酸化炭素の運搬
	C 白血球	ア 生体防御の分類 イ 細胞性免疫と〔体〕液性免疫 ウ 規則抗体と不規則抗体 エ アレルギー
	D 止血	ア 血小板による一次止血 イ 凝固系による二次止血 ウ 線維素溶解系
	E 血液型	ア ABO 式血液型 イ 他の血球凝集原 ウ 輸血〔外科学概論から出題〕
	F 免疫機能	ア 免疫系器官 イ 免疫系細胞 ウ 免疫の仕組み
3. 循環	A 心臓	ア 構造〔解剖学から出題〕 イ 心臓のポンプ機能 ウ 心筋の性質 エ 心周期に伴う諸現象 オ 心電図
	B 血管	ア 構造と働き イ 血圧〔一般臨床医学から出題〕
	C リンパ管	ア リンパ管とリンパ液
	D 循環の調節	ア 神経性調節

大項目	中項目	小項目
		イ 体液性調節 ウ 局所性調節 灌流圧の変化、組織活動性の変化
4.呼吸	A 呼吸器	ア 機能的構造
	B 換気	ア 仕組み イ 肺胞内圧と胸膜腔内圧 ウ 換気量と残気量 エ 肺胞換気量と死腔 オ 呼吸のための仕事
	C ガス交換と運搬	ア 肺でのガス交換 イ 酸素の運搬 ウ 二酸化炭素の運搬
	D 呼吸調節	ア 呼吸中枢 イ 呼吸運動の調節
	E 呼吸の異常	[一般臨床医学から出題]
5.消化と吸収	A 消化器の働き	ア 役割と構成 イ 神経支配
	B 消化管の運動	ア 運動とその調節
	C 消化液の分泌機序	ア 神経性機序と体液性機序 イ 唾液の分泌機序 ウ 胃液の分泌機序
	D 消化	ア 糖質、蛋白質、脂質の消化
	E 吸収	ア 糖質、蛋白質、脂質の吸収
	F 消化管ホルモン	ア 特徴 イ 分泌調節と作用
	G 肝臓と胆道	ア 構造 [解剖学から出題] イ 肝臓の働き ウ 胆汁の組成、生理作用 エ 胆道の働き
6.栄養と代謝	A 生体の構成成分と栄養素	ア 糖質 イ 蛋白質 ウ 脂質 エ 無機物 オ ビタミン類 カ 水
	B エネルギー代謝の基礎	ア エネルギー代謝の概念 イ ATPの構造と働き ウ 嫌氣的代謝 解糖系、 β 酸化 エ 好氣的代謝 電子伝達系、酸化的リン酸化反応
	C 栄養素の代謝	ア 糖質の代謝 イ 蛋白質の代謝 ウ 脂質の代謝
	D 食物と栄養	ア エネルギー代謝の測定

大項目	中項目	小項目
		イ 特異動的作用
7.体温とその調節	A 体温	ア 体温 直腸温、口腔温、腋窩温 イ 生理的変動 概日リズム、年齢、性周期
	B 調節	ア 熱産生と熱放散 イ 体温の調節 ウ うつ熱と発熱 エ 気候馴化
8.尿の生成と排泄	A 腎臓	ア 機能的構造と概要 イ 血漿浸透圧の調節 ウ Na 濃度の調節と体液量 エ 酸塩基平衡の調節
	B 尿の生成	ア 糸球体ろ過 イ 尿細管の再吸収 ウ 尿細管の分泌 エ 尿の成分 オ 尿生成の調節
	C 排尿	ア 排尿反射
9.内分泌	A 内分泌腺	ア 種類
	B ホルモンの一般的性質	ア 定義、組成 イ 分泌調節
	C ホルモンの種類と作用	ア 視床下部のホルモン イ 下垂体のホルモン 下垂体の構造、成長ホルモン、甲状腺刺激ホルモン、副腎皮質刺激ホルモン、黄体形成ホルモン、卵胞刺激ホルモン、プロラクチン、バソプレッシン、オキシトシン ウ 甲状腺のホルモン 合成、分泌調節、輸送と代謝、生理作用 エ 上皮小体（副甲状腺）のホルモン 生理作用 オ 副腎皮質のホルモン 副腎皮質の構造、ホルモンの種類、分泌調節、生理作用 カ 副腎髄質のホルモン 副腎髄質の構造、ホルモンの種類、分泌調節、生理作用 キ 膵臓のホルモン 膵島、インスリン、グルカゴン、ソマトスタチン ク 精巣のホルモン 生理作用、アンドロゲン、精巣機能の調節

大項目	中項目	小項目
		ケ 卵巣のホルモン エストロゲン、プロゲステロンの生理作用
10.生殖	A 染色体	ア 染色体の構成 イ 血液型 (ABO 式、Rh 式) の遺伝 ウ 伴性遺伝 エ 核酸の構成と代謝 (尿酸)
	B 性分化	ア 生殖腺・副生殖器・脳の性分化 イ 思春期における身体の性差
	C 男性生殖器の概要	ア 構成 イ 精子形成 ウ 勃起と射精
	D 女性生殖器の概要	ア 構成 イ 卵巣の周期 ウ 月経周期
	E 妊娠と分娩の概要	ア 受精 イ 胎盤の形成と機能、胎児・胎盤・母体の相互関係 ウ 分娩 エ 乳汁分泌 オキシトシン、プロラクチン
11.骨の生理	A 骨	ア 構造〔解剖学から出題〕 イ 形成と成長〔解剖学から出題〕 ウ 骨吸収と骨形成〔柔道整復理論から出題〕
	B カルシウム代謝の調節	ア ビタミンD イ 上皮小体 (副甲状腺) ホルモン ウ カルシトニン
	C 骨年齢	
12.神経	A ニューロン	ア ニューロンとその働き イ 興奮と伝導 膜電位 (静止膜電位、活動電位)、興奮の伝導、跳躍伝導 ウ シナプス伝達 興奮伝達物質 エ 反射と反射弓
	B 神経線維	ア 神経線維とその性質
	C 末梢神経	ア 神経の構成とその機能 イ 脳脊髄神経 (体性神経) ウ 自律神経 化学伝達物質、機能、中枢
	D 中枢神経	ア 脊髄 イ 脳幹 (延髄、橋、中脳) ウ 視床下部 エ 小脳 オ 大脳皮質

大項目	中項目	小項目
		カ 脳波 キ 覚醒と睡眠、概日リズム ク 認知、言語、記憶 ケ 脳脊髄液（髄液）
	E 反射	ア 脊髓反射 イ 脳幹反射
13. 筋肉の機能	A 骨格筋	ア 構造
	B 筋収縮	ア 仕組み イ 筋細胞膜の興奮 ウ 骨格筋の収縮の仕方 等尺性・等張性収縮、単収縮、収縮の加重と強縮 エ 長さと張力の関係 オ 筋電図 カ 平滑筋 キ 心筋
	C 骨格筋の神経支配	ア 筋紡錘 イ 腱紡錘 ウ M波、H波
14. 感覚の生理	A 感覚の特性	ア 感覚器の構成とその機能 イ 感覚受容器、感覚神経、感覚中枢 ウ 感覚の順応 エ 感覚の種類
	B 視覚	ア 視覚器の構成とその機能 イ 視細胞 ウ 光の屈折 エ 瞳孔反射 オ 光と色との感覚 カ 順応 キ 視覚の伝導路
	C 聴覚	ア 聴覚器の構成とその機能 イ 外耳と中耳 ウ 内耳 エ 聴覚の伝導路
	D 平衡感覚	ア 平衡器官の構成とその機能 イ 平衡覚の受容器 ウ 平衡覚の伝導路
	E 味覚	ア 味覚器の構成とその機能 イ 味覚の受容器 ウ 味覚物質 エ 味覚の伝導路
	F 嗅覚	ア 嗅覚器の構成とその機能 イ 嗅覚の受容器 ウ 嗅覚の伝導路
	G 皮膚感覚	ア 皮膚感覚の種類 イ 皮膚感覚の受容器の種類とその分布

大項目	中項目	小項目
		ウ 皮膚感覚の伝導路
	H 深部感覚	ア 深部感覚の受容器 イ 深部感覚の伝導路
	I 内臓感覚	ア 内臓痛覚 イ 関連痛

運 動 学

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 運動学総論	A 運動学の領域	ア 運動学の目的 イ 運動行動の3階層 運動、動作、行為
	B 運動解析の基礎	ア 運動の表示方法 ①基本肢位（基本姿勢） ②運動面と運動軸 イ 身体運動と力学 ①運動の第1、第2、第3の法則 ②力の単位 ③てこの原理
2. 運動器の構造と機能	A 筋・骨格系	ア 骨格筋 イ 骨、軟骨 ウ 関節 エ 腱、靭帯
	B 神経系	ア 末梢神経 イ 中枢神経
3. 運動の発現と制御	A 反射運動	ア 反射弓 イ 反射の種類 ウ 反射中枢による分類 エ 反射の抑制と亢進 オ 陰性徴候、陽性徴候
	B 連合運動と共同運動	ア 連合運動 イ 共同運動
	C 随意運動	ア 随意運動の発現 イ 随意運動の制御 ウ 運動プログラム
4. 頭・頸部、四肢と体幹の運動（筋の作用および神経支配を含む）	A 頭・頸部と体幹	ア 顎関節の運動 イ 頸部の運動 ウ 胸部の運動 エ 腰部の運動 オ 胸郭の運動（呼吸運動）
	B 上肢	ア 上肢帯の運動 イ 肩関節の運動 ウ 肘関節・前腕の運動 エ 手関節・手指の運動
	C 下肢	ア 骨盤・股関節の運動 イ 膝関節の運動 ウ 足関節・足部の運動
5. 姿勢	A 姿勢	ア 構え イ 体位 ウ 機能肢位（良肢位）
	B 重心	ア 重心の測定と位置 イ 支持基底面と重心線の位置
	C 立位姿勢の機構	ア 立位姿勢と筋活動

大項目	中項目	小項目
		イ 姿勢保持の神経機構
6. 歩行	A 正常歩行	ア 一歩、重複歩、歩行率 イ 歩行周期（立脚相、遊脚相） ウ 床反力、足底圧
	B 重心移動	ア 垂直移動（上下移動） イ 側方移動（左右移動）
	C 歩行時の身体の動き	ア 骨盤（筋活動を含む） イ 股関節（筋活動を含む） ウ 膝関節（筋活動を含む） エ 足関節（筋活動を含む）
	D 小児の歩行	ア 発達段階 イ 特徴
	E 異常歩行	ア 骨、関節に原因があるもの イ 筋、神経に原因があるもの
	F 走行	ア 歩行と走行の差異
7. 運動発達	A 神経系	ア 中枢神経の成熟
	B 乳幼児の運動発達	ア 運動発達と姿勢反射 ①原始反射（モロー反射、手掌把握反射、足底把握反射、非対称性緊張性頸反射、対称性緊張性頸反射、ガラント反射、ランドウ反射、交差性伸展反射、踏み直り反射） ②立ち直り反応 ③パラシュート反応 ④バランス反応 ⑤下肢伸展反射（陽性支持反射） イ 運動発達指標
	C 運動学習	ア 運動技能、運動能力 イ 訓練と練習

病理学概論

大項目	中項目	小項目
1. 病理学の意義	A 定義	
	B 方法	ア 病理学研究の材料による分類 イ 病理学における観察方法
2. 疾病の一般	A 意義	ア 健康と疾病
	B 分類	ア 先天性疾患 遺伝性疾患、非遺伝性疾患 イ 後天性疾患 感染症、特発性または本態性疾患、限局性疾患と全身性疾患、器質性疾患と機能性疾患、原発性疾患と続発性疾患、主疾患と合併症
	C 経過、予後、転帰	
	D 症候の意義、分類	ア 病変と症候 イ 病名 ウ 経過、予後、転帰
3. 病因	A 一般	ア 主因、誘因（副因）
	B 内因	ア 一般的素因 年齢素因、性素因、人種素因、臓器素因 イ 個人的素因 体質、異常体質 ウ 遺伝 突然変異 エ 内分泌障害 下垂体、甲状腺、副腎皮質、副腎髄質、膵島 オ 免疫〔8. 免疫異常・アレルギーから出題〕 カ ストレス
	C 外因	ア 飢餓 イ 栄養障害 蛋白質、脂質、糖質、ビタミン類、鈣物（ミネラル）、水 ウ 物理的外因 機械的原因、温度、放射線、光線、電気、気圧 エ 化学的外因 腐食毒、中毒、環境汚染、内分泌攪乱化学物質、薬品 オ 生物的外因 病原微生物、動物寄生体、日和見感染、菌交代現象 カ 医原病
4. 退行性病変・代謝障害	A 萎縮	ア 定義 イ 種類

大項目	中項目	小項目
		生理的萎縮、貧血性萎縮、廢用性萎縮、 神経性萎縮
	B 変性	ア 定義 イ 分類 蛋白質変性、脂肪変性、糖原変性、石 灰化 ウ 老化 加齢、細胞組織、各臓器
	C 代謝障害	ア 尿酸代謝障害 イ カルシウム代謝障害 ウ 色素代謝障害 エ 鉄代謝障害 オ 胆汁色素代謝障害 カ 糖尿病
	D 壊死	ア 定義 イ 分類 凝固壊死、融解壊死、壊疽 ウ 壊死巣の転帰 エ アポトーシス
	E 死	ア 死の定義・判定、死後の変化 イ 脳死
5.循環障害	A 充血	ア 定義、原因、結果
	B うっ血	ア 定義、原因 イ 分類 肺うっ血、肝うっ血、門脈うっ血、下 肢のうっ血
	C 虚血	ア 定義、原因、結果
	D 出血	ア 定義 イ 分類 破綻性出血、漏出性出血 ウ 形状、部位分類 吐血、咯血、下血、血尿、点状出血、 斑状出血、紫斑、血腫、タール便 エ 出血性素因 血液凝固・血小板・血管壁の異常 オ 播種性血管内凝固症候群 (DIC)
	E 血栓、血栓症	ア 定義 イ 血栓形成の原因 ウ 種類 赤色血栓、白色血栓 エ 運命 (転帰) 血管内腔閉塞、塞栓、再疎通
	F 塞栓、塞栓症	ア 定義 イ 種類 血栓塞栓、空気塞栓、脂肪塞栓、骨髓 塞栓、腫瘍塞栓

大項目	中項目	小項目
		ウ 運命（転帰） 梗塞
	G 梗塞	ア 定義 イ 種類 虚血性梗塞、出血性梗塞 ウ 運命（転帰）
	H 浮腫（水腫）〔一般臨床医学から出題〕	ア 定義 イ 成因 血管透過性の亢進、毛細管圧の上昇、血液膠質浸透圧の低下、リンパ閉塞等 ウ 運命（転帰） 呼吸障害、脳圧亢進症、線維化
	I 脱水症	ア 水分喪失による脱水症 イ ナトリウム喪失による脱水症
	J 高血圧	ア 高血圧の基準 イ 分類 ウ 合併症
6. 進行性病変	A 肥大	ア 定義 イ 分類 仮性肥大、作業肥大、代償性肥大
	B 過形成（増殖）	ア 定義
	C 再生	ア 定義 イ 分類 生理的再生、病的再生 ウ 再生能
	D 化生	ア 定義 イ 種類
	E 創傷治癒	ア 肉芽組織〔外科学概論から出題〕 イ 癒痕組織〔外科学概論から出題〕 ウ 骨折の治癒〔柔道整復理論から出題〕
	F 異物の処理	ア 排除 イ 器質化 ウ 被包
	G 移植〔外科学概論から出題〕	ア 分類 自己移植、同種移植、異種移植 イ 拒絶反応 ウ 移植片対宿主病
7. 炎症	A 一般	ア 定義 イ 徴候 ウ 原因 病原微生物の感染、物理的・化学的刺激 エ 形態学的変化 組織の障害、循環障害と浸出、組織増生、炎症細胞 オ 経過（急性、亜急性、慢性）

大項目	中項目	小項目
	B 分類	<p>ア 変質性炎（実質性炎）</p> <p>イ 滲出性炎 漿液性炎、カタル性炎、線維索性炎、化膿性炎、出血性炎、壊疽性炎</p> <p>ウ 増殖性炎</p> <p>エ 特異性炎 結核、梅毒、ハンセン（Hansen）病、サルコイドーシス</p>
8.免疫異常・アレルギー	A 免疫の仕組み〔生理学から出題〕	<p>ア 抗原、抗体</p> <p>イ 液性免疫、細胞性免疫</p> <p>ウ 補体</p> <p>エ サイトカイン</p>
	B 免疫不全	<p>ア 原発性免疫不全</p> <p>イ 後天性免疫不全</p>
	C 自己免疫異常	<p>ア 定義</p> <p>イ 自己免疫疾患 全身性エリテマトーデス（SLE）、関節リウマチ、全身性硬化症、多発性筋炎／皮膚筋炎、結節性多発性動脈炎、橋本病、シェーグレン（Sjögren）症候群</p>
	D アレルギー	<p>ア I型（アナフィラキシー型反応）</p> <p>イ II型（細胞傷害型反応）</p> <p>ウ III型（免疫複合体型反応）</p> <p>エ IV型（遅延型反応）</p> <p>オ V型（刺激型反応）</p>
9.腫瘍	A 定義	
	B 形態と構造	<p>ア 膨張性（拡張性）増殖、浸潤性増殖</p> <p>イ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違い</p> <p>ウ 腫瘍の色調</p> <p>エ 腫瘍の硬さ（髄様癌、硬癌）</p>
	C 腫瘍細胞の特色	<p>ア 異型性と分化度</p> <p>イ 腫瘍細胞骨格</p> <p>ウ 腫瘍マーカー</p> <p>エ 腫瘍発生の機構</p> <p>オ TNM分類</p> <p>カ 早期癌、進行癌、末期癌</p> <p>キ 転移</p> <p>ク 生体への影響（局所、全身）</p>
	D 発生原因	<p>ア 癌の外因 放射線、化学物質、ウイルス</p> <p>イ 癌の内因 遺伝的要因、ホルモン、免疫、栄養、がん抑制遺伝子</p>
	E 腫瘍の分類	<p>ア 組織学的分類 上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、癌、肉腫</p> <p>イ 良性上皮性腫瘍</p>

大項目	中項目	小項目
		乳頭腫、腺腫 ウ 良性非上皮性腫瘍 線維腫、脂肪腫、血管腫、リンパ管腫、 平滑筋腫、横紋筋腫、骨腫、軟骨腫、 神経鞘腫、神経線維腫 エ 悪性上皮性腫瘍 扁平上皮癌、腺癌、移行上皮癌、未分 化癌 オ 悪性非上皮性腫瘍 白血病、悪性リンパ腫、線維肉腫、脂 肪肉腫、平滑筋肉腫、骨肉腫
	F 治療と再発〔外科学 概論から出題〕	
10. 先天性異常	A 遺伝子異常	ア 単因子性遺伝疾患 伴性劣性遺伝疾患、常染色体優性遺伝 疾患、常染色体劣性遺伝疾患 イ 多因子性遺伝疾患
	B 染色体異常	ア 常染色体の異常 ダウン（Down）症候群、猫鳴き症候 群 イ 性染色体の異常 ターナー（Turner）症候群、クライン フェルター（Klinefelter）症候群
	C 奇形	ア 原因 イ 奇形成立の時期 ウ 種類

衛生学・公衆衛生学

大項目	中項目	小項目
1. 健康の保持増進と 疾病予防	A 健康の概念	ア WHO の健康の定義
	B 環境と健康	ア 宿主 イ 病因 ウ 環境 エ 行動
	C 健康増進	ア 健康管理 イ 健康診断 ウ ヘルスプロモーション エ 健康教育 オ 健康日本 21（第二次）
	D 疾病予防	ア 予防医学 イ リスク因子 ウ 一次予防・二次予防・三次予防 エ 生活習慣
2. 公衆衛生	A 地域保健・医療	ア 医療計画 イ プライマリヘルスケア ウ ヘルスプロモーション エ 救急・災害医療 オ 地域保健法、健康増進法
	B 疫学	ア 疫学の概念 イ 疫学指標 ウ 統計解析 エ 疫学研究
	C 衛生統計	ア 統計と情報 イ 衛生統計の種類 ウ 主な衛生統計・調査（人口動態統計） （人口静態統計） エ 健康指標 罹患率、死亡率、有病率、平均余命
	D 母子保健	ア 母性保健・小児保健 イ 母子保健指標 死産率、周産期死亡率、乳児死亡率、 妊産婦死亡率 ウ 家族計画 エ 児童虐待 オ 母子保健法、母体保護法、児童虐待の 防止等に関する法律
	E 学校保健	ア 学齢期の健康状況、死亡、傷病、体格、 体力 イ 学校教育法（保健教育） ウ 学校保健安全法（保健管理） エ 学校において予防すべき感染症
	F 産業保健	ア 意義 イ 職業病 物理的環境因子による健康障害、化学

大項目	中項目	小項目
		的な要因による健康障害、作業態様に起因する健康障害 ウ 労働災害 産業疲労、ストレス、メンタル・ヘルス エ 産業保健対策 労働基準法、労働安全衛生法、トータル・ヘルスプロモーション・プラン (THP) オ 職場のメンタルヘルス対策 カ 職場における健康診断と健康増進
	G 成人保健	ア 意義 イ 主な生活習慣病とその対策 悪性新生物、心疾患、脳血管障害、糖尿病、メタボリックシンドローム
	H 高齢者の保健	ア 加齢と健康状態 イ 日常生活動作 (ADL) ウ 生活の質 (QOL) エ 閉じこもり 廃用症候群、認知症 オ 介護予防 カ 高齢者の医療の確保に関する法律 キ 介護保険法
	I 食品衛生	ア 栄養 イ 食品衛生の意義 ウ 食品添加物 エ 食品の管理 (保存法) オ 食中毒 感染型・毒素型、化学物質、自然毒 カ 食品衛生法 キ 食事摂取基準
	J 精神保健	ア 精神障害 (精神の病気) イ 精神障害者の対策 入院、通院、デイケア、社会復帰 ウ 精神的健康の保持 エ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
	K 衛生行政	ア わが国の行政組織 イ 保健所の業務 ウ 医療・福祉制度 エ 国際保健組織 (WHO、ILO)
3. 感染症	A 感染源	ア 微生物の分類 細菌、ウイルス、リケッチア、クラミジア、真菌、原虫 イ 寄生虫
	B 感染と発病	ア 感染症対策 イ 感染源、感染経路、感受性

大項目	中項目	小項目
		ウ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、感染の種類
	C 免疫	ア 抗原、抗体、予防接種、予防接種法
4. 消毒	A 消毒法一般	ア 意義 イ 目的による分類 ウ 条件 消毒法に望まれる条件、効力を左右する条件 エ 消毒実施上の注意 患者消毒と予防消毒、消毒の対象
	B 種類と方法	ア 理学的消毒法 紫外線消毒、焼却法、乾熱滅菌法、低温消毒法、煮沸法、平圧蒸気滅菌法、高圧蒸気滅菌法 イ 化学的消毒法 消毒剤の種類、消毒剤の作用、消毒剤の使用法
	C 消毒法の応用	ア 手指、皮膚 イ 施術者、施術所 ウ 感染症の予防 院内感染、MRSA、肝炎ウイルス、AIDS、スタンダードプリコーション（標準予防策）
5. 環境衛生	A 環境と適応	ア 外部環境と内部環境 最適条件、適応、順化、許容濃度（恕限度）
	B 環境と健康	ア 空気の性状 正常成分、異常成分 イ 温熱因子 感覚温度、不快指数 ウ 気候と健康 季節と疾病 エ 騒音 オ 振動 カ 放射線
	C 住居・衣服と健康	ア 衣服の目的と衛生学的条件 イ 屋内環境 敷地、構造、広さ、換気、冷暖房、採光、照明
	D 上水、下水	ア 上水道 水源、浄水、消毒法、水系感染症 イ 水質基準 窒素化合物、有機水銀、シアン、有機リン、塩素イオン、大腸菌群、BOD、COD、DO ウ 下水処理法

大項目	中項目	小項目
		活性汚泥法、嫌気性処理、浄化槽 エ 下水の排水基準 有害重金属、BOD、COD、DO
	E 廃棄物	ア 廃棄物の種類（一般廃棄物、産業廃棄物） イ 廃棄物処理（感染性廃棄物処理）
	F 公害	ア 定義 イ 公害対策と公害の現況 ウ 地球環境 フロン、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化、地球温暖化 エ 主な公害 水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、ロンドン事件

一般臨床医学

大項目	中項目	小項目
1. 診察概論	A 診察の意義	ア 診断への過程
	B 診察の進め方	ア 診察の種類
2. 診察各論		
1) 医療面接	A 意義と方法	
2) 視診	A 意義と方法	
	B 体格と体型	ア 特有な体格・体型と代表的な疾患 ①巨人症 下垂体機能亢進症、マルファン (Marfan) 症候群 ②低身長症 下垂体機能低下症、甲状腺機能低下症、骨軟骨異形成症、モルキオ (Morquio) 症候群、ムコ多糖症、ターナー (Turner) 症候群
	C 体位と姿勢	ア 特有な体位・姿勢と代表的な疾患 ①マン-ウェルニッケ (Mann-Wernicke) 姿勢 脳血管障害 ②前かがみの姿勢 パーキンソン (Parkinson) 病 ③脊柱側弯姿勢 特発性側弯、坐骨神経痛、姿勢性側弯 ④脊柱後弯姿勢 脊椎カリエス ⑤脊柱前弯姿勢 強直性脊椎炎、くる病 ⑥後弓反張 破傷風、髄膜炎 ⑦エビ姿勢 胆石症、尿管結石 ⑧起坐位 気管支喘息、心不全
	D 栄養状態	ア 肥満 単純性肥満、クッシング (Cushing) 症候群 イ るいそう 悪液質、糖尿病、甲状腺機能亢進症、神経性食思 (欲) 不振症、シーハン (Sheehan) 症候群、アジソン (Addison) 病
	E 意識障害 (ジャパン コーマ・スケールを含む)	ア 傾眠 イ 昏迷 ウ 半昏睡 エ 昏睡

大項目	中項目	小項目
	F 精神状態	ア 意識状態 イ 知能 ウ 感情状態
	G 異常運動	ア 不随意運動 ①けいれん てんかん、熱性けいれん、破傷風、 テタニー ②振戦 多発性硬化症、ウイルソン（Wil- son）病、肝硬変、パーキンソン （Parkinson）病、バセドウ（Base- dow）病、小脳変性症 ③舞踏運動 ハンチントン（Huntington）病、小 舞踏病 ④アテトーゼ様運動 脳性小児麻痺 ⑤チック 神経症 ⑥ミオクロームス 脳炎 イ 麻痺 ①中枢性麻痺 脳血管障害、筋萎縮性側索硬化症 （ALS）、仮性球麻痺 ②末梢性麻痺 神経損傷、ギラン-バレー（Guil- lain-Barré）症候群、球麻痺 ウ 運動失調 ①脊髄性（脊髄瘍） ②小脳性（小脳腫瘍） ③前庭性〔メニエール（Ménière）病〕
	H 歩行	ア 特有な異常歩行と代表的な疾患 ①分回し歩行（片麻痺歩行） 脳血管障害 ②はさみ状歩行 脳性小児麻痺 ③鶏歩（麻痺性歩行） 前脛骨筋麻痺 ④トレンデレンブルグ（Trendelen- burg）歩行 発達性股関節脱臼、中殿筋麻痺 ⑤間欠性跛行 バージャー（Buerger）病、腰部脊 柱管狭窄症、閉塞性動脈硬化症 ⑥突進歩行 パーキンソン（Parkinson）病 ⑦アヒル歩行

大項目	中項目	小項目
		<p>進行性筋ジストロフィー</p> <p>⑧随意性跛行 ペルテス (Perthes) 病、小児股関節結核</p> <p>⑨失調性歩行 (小脳性・脊髄性)</p> <p>⑩小歩症 [パーキンソン (Parkinson) 病]</p>
	I 皮膚の状態	<p>ア 皮膚の色調の変化と代表的な疾患</p> <p>①蒼白 貧血、レイノー (Raynaud) 現象、ショック</p> <p>②チアノーゼ 心不全、ファロー (Fallot) 四徴症、心臓弁膜症、気管支喘息</p> <p>③黄疸 溶血性貧血、肝炎、肝癌、肝硬変、胆石症</p> <p>④紫斑 紫斑病、再生不良性貧血、血友病、骨髄腫、白血病</p> <p>⑤紅斑 肝硬変、全身性エリテマトーデス (SLE)</p> <p>イ 皮膚の性状の変化と代表的な疾患</p> <p>①浮腫 腎不全、心不全、肝硬変、クインケ (Quincke) 浮腫</p> <p>②水疱疹 带状疱疹、単純性疱疹</p> <p>③結節 感染性心内膜炎、変形性関節症</p> <p>④くも状血管腫 肝硬変</p> <p>⑤潰瘍 ベーチェット (Behçet) 病、褥瘡</p> <p>ウ 爪の異常</p> <p>①スプーン状爪 鉄欠乏性貧血</p> <p>②ばち指 先天性心疾患、肺気腫、肺炎</p>
	J 頭部・顔面	<p>ア 特有な顔貌と代表的な疾患</p> <p>①仮面様 (マスク様) 顔貌 パーキンソン (Parkinson) 病</p> <p>②ヒポクラテス (Hippocrates) 顔貌</p> <p>③満月様顔貌 クッシング (Cushing) 症候群</p> <p>イ 眼球および眼瞼における特有な症状と代表的な疾患</p>

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> ①眼瞼下垂 顔面神経麻痺、重症筋無力症、頸部交感神経麻痺 ②共同偏視 脳血管障害 ③眼球突出 バセドウ（Basedow）病 ④眼振 平衡覚障害、脳血管障害、アルコール中毒 ⑤眼球結膜黄染 黄疸 ⑥眼瞼結膜蒼白 貧血 <p>ウ 口腔における特異な症状と代表的な疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コプリック（Koplik）斑（麻疹） ②イチゴ舌（猩紅熱） ③アフタ ビタミン B₂ 欠乏、ベーチェット（Behçet）病 ④口唇ヘルペス（単純性ヘルペス） ⑤黒色斑〔アジソン（Addison）病〕 ⑥ハンター（Hunter）舌炎 悪性貧血
	K 頸部	<p>ア 頸部における特異な形態と代表的な疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ①斜頸 先天性筋性斜頸、炎症性斜頸等 ②甲状腺腫大 バセドウ（Basedow）病、橋本病、甲状腺腫瘍 ③翼状頸 ターナー（Turner）症候群
	L 胸部	<p>ア 特異な胸郭の形態異常と代表的な疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ①樽状胸 肺気腫 ②漏斗胸 マルファン（Marfan）症候群 <p>イ 女性化乳房 肝硬変</p>
	M 腹部	<p>ア 腹部の形態異常と代表的な疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ①膨隆 腹水、卵巣嚢腫、腸閉塞 ②陥凹 急性汎発性腹膜炎 ③腹壁静脈の怒張

大項目	中項目	小項目
		門脈圧亢進症、下大静脈血栓症 ④皮膚赤色線条 〔クッシング (Cushing) 症候群〕
	N 背部・腰部	ア 特有な脊柱の形態異常と代表的な疾患 〔2-2)-C 体位と姿勢から出題〕
	O 四肢	ア 特有な形態異常と代表的な疾患
3) 打診	A 意義と方法	
	B 打診音の種類	ア 清音 イ 濁音 ウ 鼓音
	C 胸部	ア 肺野の打診 イ 肺肝境界 ウ 心濁音界
	D 腹部	ア 肝の打診 イ 鼓腸と腹水
4) 聴診	A 意義と方法	
	B 肺	ア 呼吸音の種類 イ 異常呼吸音
	C 心臓	ア 正常心音 イ 異常心音の種類
	D 腹部	ア グル音の性状と異常 イ 血管雑音
5) 触診	A 意義と方法	
	B 皮膚	ア 代表的な圧診点の部位と意義 ボアス (Boas) 点、小野寺点、マック バーネ (McBurney) 点 イ 皮膚腫瘍、皮下腫瘍
	C 筋	ア 筋の萎縮と代表的な疾患 筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、進行性 筋ジストロフィー、廃用性萎縮、末梢 神経性萎縮
	D 骨・関節	ア 体表から触知できる骨性目標〔解剖学 から出題〕 イ 骨折の固有症状〔柔道整復理論から出 題〕 ウ 関節部の熱感・圧痛・腫脹
	E 胸部	ア 胸部における結節・腫瘍・圧痛・骨の 異常
	F 腹部	ア 主要臓器の位置 イ 腹壁の緊張異常・圧痛・腫瘍
	G リンパ節	ア リンパ節の触知部位 イ リンパ節の腫脹を呈する代表的な疾患 悪性リンパ腫、リンパ節炎、悪性腫瘍 のリンパ節転移

大項目	中項目	小項目
6) 生命徴候	A 体温	ア 測定部位 イ 正常体温と生理的変動 ウ 典型的な熱型と代表的な疾患 ①稽留熱 髄膜炎、肺炎 ②弛張熱 敗血症、肝膿瘍 ③間欠熱 ④波状熱 ホジキン (Hodgkin) 病 ⑤周期的発熱 マラリア エ 微熱の持続 バセドウ (Basedow) 病、貧血、結核 オ 低体温
	B 血圧	ア 測定方法 イ 血圧基準 ウ 高血圧の分類と低血圧 ①本態性高血圧症 ②二次性高血圧症 腎性、内分泌性
	C 脈拍	ア 検脈部位 イ 脈拍異常の種類と代表的な疾病 ①頻脈 バセドウ (Basedow) 病、貧血 ②徐脈 脳圧亢進、スポーツ心臓、迷走神経反射、アダムス-ストークス (Adams-Stokes) 症候群 ③速脈 大動脈弁閉鎖不全症 ④遅脈 大動脈弁狭窄症 ⑤大脈 大動脈弁閉鎖不全症 ⑥小脈 大動脈弁狭窄症 ⑦交互脈 心筋梗塞、心筋炎
	D 呼吸	ア 異常呼吸 チェーン-ストークス (Cheyne-Stokes) 呼吸、クスマウル (Kussmaul) 呼吸、ビオー (Biot) 呼吸、過換気呼吸
7) 感覚検査	A 意義	
	B 表在感覚	ア 種類と検査法
	C 深部感覚	ア 種類と検査法

大項目	中項目	小項目
		イ 病的意義
8) 反射検査	A 意義	
	B 反射の種類	
	C 表在反射	ア 種類 イ 反射中枢 ウ 病的意義
	D 深部反射	ア 種類 イ 反射中枢 ウ 病的意義
	E 病的反射	ア 意義 イ 種類 バビンスキー (Babinski) 反射、オッペンハイム (Oppenheim) 反射、チャドック (Chaddock) 反射、トレムナー (Trömner) 反射、ワルテンベルグ (Wartenberg) 反射
	F クローヌス	ア 定義
	G 自律神経反射	ア 意義 イ 種類 瞳孔反射、アシュネル (Aschner) 反射、頸動脈洞反射、立毛筋反射 ウ 病的意義
3. 検査法 1) 生体機能検査	A 心電図	[生理学から出題]
	B 脳波	[生理学から出題]
	C 筋電図	[運動学から出題]
	D 呼吸機能	[生理学から出題]
2) 運動機能検査		[リハビリテーション医学から出題]
4. 主要な疾患 1) 消化器疾患	A 食道癌	ア 定義、症状、予後
	B 胃炎 (急性・慢性胃炎)	ア 定義、病因、症状
	C 消化性潰瘍 (胃・十二指腸潰瘍)	ア 定義、病因、疫学 (好発年齢)、症状
	D 胃癌	ア 定義、症状、予後
	E 急性虫垂炎	ア 定義、症状
	F 腸閉塞	ア 定義、症状
	G 大腸癌 (結腸癌、直腸癌)	ア 定義、症状
	H 潰瘍性大腸炎	ア 定義、症状、鑑別診断 [クローン (Crohn) 病]
	I 肝炎 (急性ウイルス性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎)	ア 定義、病因、分類、症状、予後
	J 肝硬変	ア 定義、病因、症状、合併症

大項目	中項目	小項目
	K 肝癌	ア 定義、病因、症状
	L 胆石症	ア 定義、分類、症状
	M 胆嚢炎	ア 定義、病因、症状
	N 膵炎	ア 定義、病因、症状
	O 膵癌	ア 定義、症状、予後
2)呼吸器疾患	A かぜ症候群	ア 定義、病因、症状
	B 急性気管支炎	ア 定義、病因、症状
	C 慢性気管支炎	ア 定義、病因、症状
	D 肺炎	ア 定義、病因、症状
	E 肺結核	ア 定義、病因、疫学、症状、合併症
	F 気管支喘息	ア 定義、病因、症状、検査（痰）
	G 肺気腫	ア 定義、病因、症状
	H 肺癌	ア 定義、疫学、症状、合併症
3)循環器疾患	A 狭心症	ア 定義、病因、分類、症状
	B 心筋梗塞	ア 定義、病因、疫学、症状、合併症
	C 心臓弁膜症 (僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症)	ア 定義、病因、症状
	D 先天性心疾患 〔ファロー(Fallot)四徴症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症〕	ア 定義、症状
	E うっ血性心不全	ア 定義、病因、症状
	F 本態性高血圧症	ア 定義、疫学、症状、予防
	G 大動脈瘤	ア 定義、病因、分類
	H 大動脈解離 (解離性大動脈瘤)	ア 定義、症状
	I 閉塞性動脈硬化症	ア 定義、疫学、症状
4)血液疾患	A 鉄欠乏性貧血	ア 定義、症状
	B 悪性貧血	ア 定義、症状
	C 再生不良性貧血	ア 定義、病因、症状
	D 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)	ア 定義、症状
	E 血友病	ア 定義、分類、症状、社会医学的事項
	F 急性白血病	ア 定義、分類、症状、合併症
	G 慢性白血病	ア 定義、分類、症状、合併症
	H 悪性リンパ腫	ア 定義、分類、症状
5)内分泌・代謝疾患	A 末端肥大症 (巨人症)	ア 定義、症状
	B 低身長症	ア 定義、分類
	C 尿崩症	ア 定義、分類

大項目	中項目	小項目
	D 原発性アルドステロン症	ア 定義、症状
	E クッシング (Cushing) 症候群	ア 定義、分類、症状
	F アジソン (Addison) 病	ア 定義、症状
	G 褐色細胞腫	ア 定義、症状
	H バセドウ (Basedow) 病	ア 定義、症状、合併症
	I 甲状腺機能低下症 (クレチン症を含む)	ア 定義、症状
	J 橋本病	ア 定義、症状
	K 糖尿病	ア 定義、分類、症状、合併症
	L 痛風	ア 定義、症状
	M 脂質異常症	ア 定義、症状
6) 膠原病	A リウマチ熱	ア 定義、疫学、症状、合併症
	B 関節リウマチ	ア 定義、疫学、症状、合併症
	C 全身性エリテマトーデス (SLE)	ア 定義、疫学、症状、合併症
	D 多発性筋炎、皮膚筋炎	ア 定義、疫学、症状
	E 全身性硬化症 (強皮症)	ア 定義、疫学、症状
	F 結節性多発動脈炎	ア 定義、疫学、症状
	G ベーチェット (Behçet) 病	ア 定義、疫学、症状
7) 腎・尿路疾患	A 糸球体腎炎 (急性・慢性)	ア 定義、病因、症状
	B ネフローゼ症候群	ア 定義、病因、症状
	C 腎不全 (急性・慢性)	ア 定義、病因、症状、合併症
	D 膀胱炎	ア 定義、症状
	E 腎盂腎炎	ア 定義、症状
	F 尿路結石症	ア 定義、症状
	G 前立腺肥大症	ア 定義、症状
8) 神経系疾患	A 脳出血	ア 定義、病因、疫学、症状、合併症
	B 脳梗塞	ア 定義、病因、疫学、症状、合併症
	C くも膜下出血	ア 定義、病因、疫学、症状、合併症
	D パーキンソン (Parkinson) 病	ア 定義、病因、症状
	E 重症筋無力症	ア 定義、病因、症状
	F 進行性筋ジストロフィー	ア 定義、症状
	G 筋萎縮性側索硬化症	ア 定義、症状

大項目	中項目	小項目
	(ALS)	
	H 髄膜炎	ア 定義、分類、症状
	I ギラン-バレー (Guil- lain-Barré)症候群	ア 定義、症状、予後
	J 認知症〔アルツハイ マー (Alzheimer) 病を含む〕	ア 定義、症状
9) その他の疾患	A 後天性免疫不全症候 群 (AIDS)	ア 疫学、症状、予後

外科学概論

大項目	中項目	小項目	
1. 損傷	A 損傷	ア 開放性損傷、非開放性損傷 イ 重傷度の判定	
	B 創傷の治癒過程	ア 肉芽組織、瘢痕組織 イ 治癒形式 一次の治癒、二次的治癒、痂皮下治癒 〔病理学概論から出題〕	
	C 創傷の処置	ア 止血法 イ ショック・呼吸障害対策 ウ 創傷処置〔デブリドマンを含む〕 エ ドレッシング	
	D 熱傷	ア 程度による分類、症状、合併症（熱傷ショックなど）、治療	
	E 凍傷	ア 程度による分類、治療	
	F びらん	ア 概念、原因	
	G 潰瘍	ア 概念、原因	
	H 瘻孔	ア 概念、原因	
	I 裂傷	ア 概念、原因	
	J 壊死	ア 概念、原因	
	K 壊疽	ア 概念、原因	
	2. 炎症	A 定義	〔病理学概論から出題〕
		B 分類	〔病理学概論から出題〕
C 原因		〔病理学概論から出題〕	
D 全身的变化		〔病理学概論から出題〕	
E 局所的变化		〔病理学概論から出題〕	
3. 外科的感染症	A 感染の概念	〔病理学概論から出題〕	
	B 菌血症	ア 概念、原因	
	C 敗血症	ア 概念、原因	
	D 蜂巣炎（蜂窩織炎）	ア 概念、原因、症状	
	E 膿瘍	ア 概念、症状	
	F 癰（よう）・癤（せつ）	ア 概念、症状	
	G 丹毒	ア 概念、症状	
	H リンパ管炎・リンパ節炎	ア 概念	
	I 化膿性骨髄炎	ア 概念、原因、症状	
	J 結核	ア 概念、病理、症状	
	K 梅毒	ア 概念、原因、分類、症状	
	L ガス壊疽	ア 原因、症状、予後	
	M 破傷風	ア 原因、症状、予後	
	N 咬傷（狂犬病含む）	ア 原因、症状、予後	
	O 放線菌症	ア 概念、原因	

大項目	中項目	小項目
	P その他の真菌症	ア 概念
	Q 外科感染症の治療	
4. 腫瘍	A 定義	〔病理学概論から出題〕
	B 分類	〔病理学概論から出題〕
	C 診断	ア 症状 イ 診断
	D 治療法	ア 手術療法 イ 放射線療法 ウ 化学療法 エ 内分泌療法 オ 免疫療法 カ 温熱療法
5. ショック	A 定義	
	B 発生機序による分類	ア 循環血液量減少性ショック イ 心原性ショック ウ 血液分布異常性ショック エ 閉塞性ショック
	C 臨床上的分類	ア 可逆性ショック、不可逆性ショック イ 一次ショック、二次ショック
	D 症状	
	E 応急処置	
	F 治療	
6. 失血と輸血・輸液	A 失血	
	B 輸血・輸液の目的・適応	
	C 輸血・輸液の種類	
	D 血液型	ア ABO 式 イ Rh 式 ウ 交差適合試験
	E 不適合輸血	
	F 副作用	
7. 滅菌法と消毒法	A 必要性	
	B 種類	〔衛生学・公衆衛生学から出題〕
8. 手術	A 患者の病期からみた分類	ア 早期手術 イ 晩期手術 ウ 救急手術
	B 手術侵襲度からみた分類	ア 大手術 イ 小手術
	C 手術の根治性からみた分類	ア 根治的手術 イ 姑息的手術
	D 術式の概念	ア 皮膚切開法 イ 止血術 ウ 縫合法

大項目	中項目	小項目
		エ 穿刺術 オ 切開術 カ 切除術 キ 摘出術 ク 切断術 ケ 吻合術
9.麻酔	A 歴史	
	B 術前患者管理	ア 状態評価 イ 麻酔前投薬 ウ 麻酔と合併症
	C 全身麻酔の概念	ア 吸入麻酔 イ 静脈麻酔
	D 局所麻酔の概念	ア 表面麻酔 イ 浸潤麻酔 ウ 腰椎麻酔 エ 硬膜外麻酔 オ 神経ブロック
10.移植	A 種類	ア 自家移植 イ 同系移植 ウ 同種移植 エ 異種移植
	B 皮膚移植	ア 遊離植皮術 表皮植皮、中間層植皮、全層植皮 イ 有茎植皮術 ウ 遊離皮弁
	C 骨移植	[整形外科学から出題]
	D 臓器移植	
	E 問題点	ア 組織適合性抗原 イ 拒絶反応 ウ 感染症 エ 脳死判定
11.止血	A 出血の種類	ア 動脈性出血 イ 静脈性出血 ウ 毛細血管性出血
	B 外出血	ア 開放性出血 イ 鼻出血 ウ 耳出血 エ 咯血 オ 吐血・下血 カ 血尿 キ 性器出血
	C 内出血	ア 胸腔内出血 イ 腹腔内出血 ウ 頭蓋内出血 エ 骨折出血

大項目	中項目	小項目
	D 止血法	ア 機械的止血 イ 物理的止血 ウ 化学的止血
12.心肺蘇生法(救急法)	A 呼吸停止に対する処置	ア 人工呼吸法 ①種類 ②方法
	B 心停止に対する処置	ア 胸骨圧迫 イ AED
13.頭部・顔面部外傷(救急法)	A 頭皮の損傷	ア 原因、症状、合併症
	B 顔面の損傷	ア 原因、症状、合併症
	C 頭蓋冠骨折	ア 原因、診断、合併症
	D 頭蓋底骨折	ア 原因、診断、合併症
	E 脳しんとう	ア 概念、原因、病態生理、症状、診断、救急処置
	F 脳挫傷	ア 概念、原因、病態生理、症状、診断、救急処置
	G 外傷性頭蓋内血腫	ア 概念、原因、分類、症状、診断、救急処置
14.意識障害(救急法)	A 分類(ジャパンコーマ・スケールを含む)	[一般臨床医学から出題]
15.けいれん(救急法)	A 分類	[一般臨床医学から出題]
16.脳卒中(救急法)	A 脳出血	ア 概念、原因、症状、救急処置
	B 脳梗塞	ア 概念、原因、症状、救急処置
	C くも膜下出血	ア 概念、原因、症状、救急処置
17.脊柱損傷(救急法)	A 脊椎骨折	[整形外科から出題]
	B 脊髄損傷	[整形外科から出題]
18.胸部外傷(救急法)	A 胸壁の損傷	
	B 気管・気管支および肺の損傷	ア 原因、症状、合併症、救急処置
	C 縦隔内損傷	ア 原因、症状、合併症、救急処置
19.腹部外傷(救急法)	A 腹壁の損傷	
	B 腹腔内臓器の損傷	ア 原因、症状、合併症、救急処置

整形外科(総論)

大項目	中項目	小項目	
1. 整形外科とは	A 意義	ア 整形外科の役割 イ 整形外科の内容	
	B 歴史		
2. 整形外科診察法	A 診療の基本	ア 診療の心得〔一般臨床医学から出題〕 イ 診療記録〔一般臨床医学から出題〕 ウ 医療面接の仕方〔一般臨床医学から出題〕	
	B 姿勢評価	ア 立位姿勢の安定性 イ 起立姿勢の異常	
	C 体幹と四肢のバランス	ア 身長 イ 体型 ウ 骨格系の所見 エ 骨格系以外の所見	
	D 四肢の計測	ア 上肢長〔リハビリテーション医学から出題〕 イ 下肢長〔リハビリテーション医学から出題〕 ウ 上肢周径〔リハビリテーション医学から出題〕 エ 下肢周径〔リハビリテーション医学から出題〕	
	E 跛行(異常歩行)	ア 下肢長差による異常歩行 イ 関節拘縮による異常歩行 ウ (先天性)股関節脱臼と内反股による異常歩行 エ 逃避性歩行 オ 麻痺性歩行 カ 瘻性歩行	
	F 関節拘縮と関節強直	ア 関節拘縮 イ 関節強直	
	G 徒手筋力テスト	〔リハビリテーション医学から出題〕	
	H 感覚の診断	ア 触覚・痛覚〔一般臨床医学から出題〕 イ 二点識別覚(2PD)〔一般臨床医学から出題〕 ウ 温冷覚〔一般臨床医学から出題〕 エ 振動覚〔一般臨床医学から出題〕	
	I 反射	ア 深部反射(腱反射)〔一般臨床医学から出題〕 イ 表在反射〔一般臨床医学から出題〕 ウ 病的反射〔一般臨床医学から出題〕	
	3. 整形外科的検査法	A 検査の進め方	
		B 画像検査	ア エックス線検査(単純撮影、コンピュータ断層撮影CT) イ 磁気共鳴画像(MRI) ウ 超音波画像 エ 関節造影検査

大項目	中項目	小項目
		オ 血管造影検査 カ 核医学検査 キ 画像検査の選択
	C 骨密度測定	ア 方法（MD 法、DEXA 法、QCT 法、QUS 法） イ 結果の評価法 ウ 診断的意義
	D 電気生理学的検査	ア 筋電図検査（EMG）〔リハビリテーション医学から出題〕 イ 神経伝導速度検査〔リハビリテーション医学から出題〕
	E 関節鏡検査	
	F その他の検査	ア 血液・尿生化学検査〔一般臨床医学から出題〕 イ 微生物検査〔一般臨床医学から出題〕 ウ 関節液検査 エ 脳脊髄液検査 オ 生検
4. 整形外科的治療法	A 保存療法	ア 安静 イ 薬物療法 ウ 徒手整復・徒手矯正 エ 牽引療法 オ 固定法 カ 理学療法〔リハビリテーション医学から出題〕 キ 作業療法〔リハビリテーション医学から出題〕
	B 手術療法	ア 皮膚の手術 イ 関節の手術 ウ 腱の手術 エ 神経の手術 オ 骨の手術 カ 筋肉の手術 キ 靭帯の手術
5. 骨・関節の損傷	A 骨折総論	ア 骨折の定義と分類 イ 骨折の症状と診断 ウ 骨折の治癒 エ 骨折の治療（持続牽引法による整復、手術による整復固定法） オ 小児骨折の特徴 カ 開放骨折 キ 疲労骨折と病的骨折 ク 骨折の合併症
	B 関節の損傷	ア 捻挫と靭帯損傷 イ 外傷性脱臼 ウ 繰り返しの脱臼

大項目	中項目	小項目
		エ 病的脱臼
6.スポーツ整形外科	A スポーツ整形外科の位置付け	ア 競技スポーツ イ 学校体育等 ウ 市民スポーツ エ 生活習慣病等 オ 障害者スポーツ
	B スポーツ外傷・障害	ア 発生頻度 イ 種目と特徴的な外傷・障害 ウ スポーツ外傷・障害の特殊性
	C 診療と治療上の基本	ア メディカルチェック イ 診療上のポイント ウ リハビリテーション〔リハビリテーション医学から出題〕
7.リハビリテーション	A 運動器疾患のリハビリテーション	〔リハビリテーション医学から出題〕
	B 義肢	〔リハビリテーション医学から出題〕

整形外科(疾患別各論)

大項目	中項目	小項目
1. 感染性疾患	A 軟部組織感染症	
	B 骨髄炎	ア 急性化膿性骨髄炎 (症状、検査・診断、治療) イ 慢性骨髄炎 (症状、治療) ウ ブロディ (Brodie) 骨膿瘍
	C 化膿性関節炎	ア 症状、検査・診断、治療
	D 骨関節結核	ア 症状、検査・診断、治療
2. 骨および軟部腫瘍	A 骨腫瘍	ア 好発年齢 イ 好発部位 ウ 画像診断 エ 病理組織診断
	B 悪性骨腫瘍	ア 骨肉腫 (概念、症状、検査、診断) イ 軟骨肉腫 (概念、エックス線像) ウ ユーイング (Ewing) 肉腫 (症状、エックス線像) エ 骨髄腫 (症状、検査、診断) オ 癌の骨転移 (概念、症状、エックス線像)
	C 良性骨腫瘍	ア 骨巨細胞腫 (概念、エックス線像) イ 骨軟骨腫 (概念、治療) ウ 内軟骨腫 (概念、エックス線像、治療) エ 孤立性骨嚢腫 (概念、エックス線像、治療) オ 線維性骨異形成 (概念、エックス線像)
	D 悪性軟部腫瘍	
	E 良性軟部腫瘍	ア 脂肪腫 (概念、症状、検査、診断) イ 血管腫 (概念、症状、検査、診断) ウ 神経鞘腫 (概念、症状) エ グロームス腫瘍 (概念、症状) オ ガングリオン (概念、症状、診断、治療) カ 粉瘤 (表皮嚢腫) (概念、症状、治療)
3. 非感染性軟部・骨関節疾患	A 関節疾患	ア 変形性関節症疾患 (概念、症状、診断、治療) イ 関節リウマチ・悪性関節リウマチ (概念、症状、診断、治療) ウ 痛風 (概念、症状、診断、治療) エ 偽〔性〕痛風と石灰沈着性滑液包炎・石灰沈着性腱炎 (概念、症状、診断、治療) オ 血友病性関節症 (概念、症状、診断) カ 離断性骨軟骨炎 (概念、症状、診断、治療) キ 関節遊離体／関節ねずみ (概念、症状、診断、治療)
	B その他の関節炎	ア 強直性脊椎炎 (概念、症状、診断)

大項目	中項目	小項目
		イ 血清反応陰性脊椎関節症（概念、症状、診断） ウ 掌蹠膿疱症性骨関節炎（概念、症状、診断） エ 神経障害性（神経病性）関節症（概念、症状、診断）
	C 骨粗鬆症	ア 骨粗鬆症（概念、症状、診断、治療） イ 脆弱性骨折
4.全身性の骨・軟部疾患	A 先天性骨系統疾患	ア 概念、症状、検査 イ 軟骨無形成症（概念、症状、エックス線像） ウ モルキオ（Morquio）病（概念、症状、エックス線像） エ 骨形成不全症（概念、症状、病型分類、エックス線像） オ マルファン（Marfan）症候群（概念、症状） カ 多発性神経線維腫症〔フォン・レックリングハウゼン（Von Recklinghausen）病〕（概念、症状） キ くる病（概念、症状、エックス線像） ク 巨人症（概念、症状、エックス線像） ケ 下垂体性小人症（概念、症状、エックス線像）
5.骨端症	A 骨端症	ア ペルテス（Perthes）病（疾患概念、症状、診断、治療） イ オスグッド・シュラッター（Osgood-Schlatter）病（疾患概念、症状、診断、治療） ウ ブラント（Blount）病（疾患概念、症状、診断） エ 踵骨骨端症〔セーバー（Sever）病〕（疾患概念、症状、診断、治療） オ 月状骨軟化症〔キーンベック（Kienböck）病〕（疾患概念、症状、診断、治療） カ ケーラー（Köhler）病（疾患概念、症状、診断、治療） キ フライバーグ（Freiberg）病（疾患概念、症状、診断、治療）
6.四肢循環障害	A 末梢動脈疾患	ア 閉塞性動脈硬化症〔一般臨床医学から出題〕
	B レイノー症候群	ア レイノー症候群（疾患概念、疾患分類、症状、診断）〔一般臨床医学から出題〕
	C 深部静脈血栓症	ア 深部静脈血栓症（疾患概念、病因、症状、診断、治療）
	D 静脈瘤	ア 静脈瘤（疾患概念、症状、診断、治療）

大項目	中項目	小項目
7.神経・筋疾患	A 神経麻痺と絞扼性神経障害	ア 疾患概念、症状、診断、治療 イ 上肢の神経麻痺と絞扼性神経障害〔橈骨神経麻痺、後骨間神経麻痺、正中神経麻痺、手根管症候群、尺骨神経麻痺、肘部管症候群、ギヨン（Guyon）管症候群〕 ウ フォルクマン（Volkmann）拘縮 エ 胸郭出口症候群（疾患概念、症状、原因、治療） オ 下肢の神経麻痺と絞扼性神経障害〔総腓骨神経麻痺、前脛骨コンパートメント症候群、足根管症候群、モートン（Morton）病〕
	B 腕神経叢損傷・分娩麻痺	ア 腕神経叢損傷（疾患概念、症状、診断、治療） イ 分娩麻痺（疾患概念、症状、診断、治療）
	C 全身性神経・筋疾患	ア 脳性麻痺（疾患概念、症状） イ 脊髄性小児麻痺（ポリオ）（疾患概念、症状） ウ 筋萎縮性側索硬化症（ALS）（疾患概念、症状）〔一般臨床医学から出題〕 エ 進行性筋ジストロフィー（疾患概念、症状）〔一般臨床医学から出題〕
	D 脊髄腫瘍	ア 疾患概念、症状、診断、治療
	E 脊髄損傷	ア 疾患概念、症状、診断、治療

整形外科(身体部位別疾患各論)

大項目	中項目	小項目
1. 体幹	A 手術適応を考慮する 頸部の脱臼・骨折	ア 環軸関節脱臼 イ 環椎骨折〔ジェファーソン (Jefferson) 骨折〕 ウ 軸椎歯突起骨折 エ 環軸関節突起間骨折〔ハングマン (hangman) 骨折〕 オ 中・下位頸椎損傷
	B 頸部の疾患	ア 変形性頸椎症 (疾患概念、症状、診断、治療) イ 頸椎後縦靭帯骨化症 (疾患概念、症状、診断、治療) ウ 筋性斜頸 (疾患概念、症状、治療) エ 環軸関節回旋位固定 (疾患概念、症状、治療) オ 炎症性斜頸 (疾患概念) カ 骨性斜頸 (疾患概念)
	C 手術適応を考慮する 脊椎の脱臼・骨折	ア 胸椎損傷 イ 胸腰椎移行部損傷 ウ 腰椎損傷
	D 胸部の疾患	ア 胸椎黄色靭帯骨化症 (疾患概念、症状) イ シュモール (Schmorl) 結節 (疾患概念、症状) ウ 脊柱側弯症 (疾患概念、症状、診断、治療) エ 結核性脊椎炎 (疾患概念、症状、診断) オ 強直性脊椎炎 (疾患概念、症状、診断) カ 胸郭の形態異常 ①漏斗胸 (疾患概念) ②鳩胸 (疾患概念) ③テーターツェ (Tietze) 病 (疾患概念)
	E 腰部の疾患	ア 腰椎椎間板ヘルニア (疾患概念、症状、診断、画像診断法、治療) イ 腰椎分離症 (疾患概念、症状、診断、治療) ウ 腰椎 (分離) すべり症 (疾患概念、症状、診断、治療) エ 変形性腰椎症 (疾患概念、症状、診断) オ 腰部脊柱管狭窄症 (疾患概念、症状、診断) カ 腰痛症 (疾患概念、診断、治療)
2. 肩・肩甲帯	A 手術適応を考慮する 肩関節・肩甲帯の骨折	ア 烏口突起骨折 イ 肩甲骨関節窩骨折 ウ 鎖骨骨幹部骨折 エ 鎖骨外側端部骨折
	B 手術適応を考慮する 上腕骨近位部の骨折	ア 外科頸骨折 イ 大結節骨折

大項目	中項目	小項目
		ウ 上腕骨近位骨端線離開
	C 手術適応を考慮する肩関節・肩甲帯の損傷	ア 腱板損傷・腱板断裂 イ 肩鎖関節脱臼 ウ 肩関節脱臼
	D 肩関節・肩甲帯の疾患	ア 肩関節周囲炎・五十肩（疾患概念、病因、症状、検査、治療） イ 動揺性肩関節症・肩関節不安定症（疾患概念、診断、治療） ウ 野球肩・スポーツ障害肩 エ 変形性肩関節症・変形性肩鎖関節症
3.上腕・肘関節	A 手術適応を考慮する上腕骨幹部の骨折	ア 投球骨折 イ 骨幹部粉碎骨折
	B 手術適応を考慮する上腕骨遠位部の骨折	ア 上腕骨顆上骨折 イ 上腕骨内側上顆骨端線離開
	C 手術適応を考慮する肘関節内骨折	ア 上腕骨通顆骨折 イ 上腕骨外顆骨折 ウ 上腕骨小頭骨折 エ 上腕骨遠位端部 Y 字または T 字型骨折 オ 橈骨頭骨折 カ 橈骨頸部骨折 キ 肘頭骨折 ク 尺骨鉤状突起骨折 ケ 肘頭骨端線離開
	D 手術適応を考慮する上腕部の損傷	ア 上腕二頭筋および腱断裂 イ 上腕三頭筋および腱断裂
	E 骨軟骨障害	ア 上腕骨小頭障害（離断性骨軟骨炎）（疾患概念、検査、治療） イ 関節ねずみ（疾患概念、症状、治療） ウ 変形性肘関節症（疾患概念、症状、治療）
	F 手術適応を考慮する肘関節部の損傷	ア 内側側副靭帯断裂
	G 肘内障	
	H 筋腱の損傷	ア 上腕骨外側上顆炎（テニス肘）（疾患概念、症状、検査、治療） イ 上腕骨内側上顆炎（野球肘）（疾患概念、症状、検査、治療）
4.前腕	A 手術適応を考慮する前腕骨幹部の骨折	ア 骨幹部骨折 イ モンテギア（Monteggia）骨折
	B 手術適応を考慮する前腕の損傷	ア フォルクマン（Volkman）拘縮
5.手関節	A 手術適応を考慮する手関節の骨折	ア 橈骨遠位端骨折 イ 舟状骨骨折
	B 骨関節の疾患	ア キーンベック（Kienböck）病

大項目	中項目	小項目
		イ TFCC 損傷 ウ ガングリオン エ マーデルング (Madelung) 変形 (疾患概念、症状、診断、治療)
	C 手術適応を考慮する 手関節部の損傷	ア 指伸筋腱皮下断裂 イ 長母指伸筋腱皮下断裂
	D 腱鞘炎	ア ド・ケルバン (de Quervain) 病 (疾患概念、症状、診断、治療)
6.手・手指	A 手術適応を考慮する 手・手指の骨折	ア ベネット (Bennett) 骨折 イ その他の指節骨骨折 ウ 槌指
	B 手指の変形	ア 槌指 (マレットフィンガー) (疾患概念、症状、診断、治療) イ スワンネック変形 (疾患概念、症状、診断、治療) ウ ボタン穴変形 (疾患概念、症状、診断、治療) エ ヘバーデン (Heberden) 結節 (疾患概念、症状、診断、治療)
	C 手術適応を考慮する 手指部の損傷	ア 屈筋腱断裂 (深指屈筋腱) イ 伸筋腱断裂
	D 腱鞘炎	ア ばね指 (弾発指) (疾患概念、病因、症状、診断、治療)
	E 拘縮	ア デュピュイトラン (Dupuytren) 拘縮 (疾患概念、症状、診断、治療)
	F 手指の先天異常	ア 合指症 (疾患概念、症状、治療) イ 多指症 (疾患概念、症状、治療)
7.骨盤・股関節	A 手術適応を考慮する 骨盤・股関節の骨折・脱臼	ア 大腿骨頸部骨折 イ 大腿骨転子部骨折 ウ 骨盤寛骨臼骨折 エ 大腿骨近位骨端線離開、大腿骨頭すべり症 オ 外傷性股関節脱臼
	B 骨盤・股関節の損傷	ア 先天性股関節脱臼 (発育性股関節脱臼) と臼蓋形成不全 (疾患概念、症状、診断、治療、予後) イ 化膿性股関節炎 (疾患概念、診断) ウ 単純性股関節炎 (疾患概念、診断) エ ペルテス (Perthes) 病 オ ばね股 (弾発股) (疾患概念、病態、症状、診断、治療、予後) カ 大腿骨頭壊死 (疾患概念、症状、診断、治療) キ 変形性股関節症 (疾患概念、症状、診断、治療) ク groin pain 症候群 (単径部痛) (疾患概

大項目	中項目	小項目
		念、素因) ケ 骨盤骨折 コ 坐骨神経痛 (疾患概念)
8. 大腿・膝関節	A 手術適応を考慮する 大腿・膝関節の骨折	ア 大腿骨骨幹部骨折 イ 膝蓋骨骨折 ウ 大腿骨顆部骨折 エ 脛骨近位端部骨折
	B 手術適応を考慮する 大腿・膝関節の損傷	ア 大腿四頭筋損傷 イ 膝側副靭帯損傷 ウ 十字靭帯損傷 エ 半月板損傷 オ 骨化性筋炎
	C 大腿・膝関節の疾患	ア 膝蓋腱炎 (ジャンパー膝) (成因、症状、診断、治療) イ 腸脛靭帯炎 (成因、症状、診断、治療) ウ 鵞足炎 (成因、診断、治療) エ 反復性膝蓋骨脱臼・亜脱臼 オ 有痛性分裂膝蓋骨 (成因、診断) カ 内側ヒダ障害 (タナ障害) (成因、診断、治療) キ 膝窩嚢胞 [ベイカー (Baker) 嚢胞] (成因、病態、診断) ク 変形性膝関節症 (成因、症状、診断、治療) ケ 大腿骨顆部骨壊死 (成因、病態、診断) コ 大腿部肉ばなれ
9. 下腿・足関節	A 手術適応を考慮する 下腿・足関節の骨折	ア 下腿骨骨幹部骨折 イ 足関節果部骨折
	B 手術適応を考慮する 下腿・足関節の損傷	ア コンパートメント症候群 イ アキレス腱断裂 ウ 足関節捻挫
	C 下腿・足関節の損傷	ア 下腿疲労骨折 イ 脛骨過労性骨膜炎 (シンスプリント) (疾患概念、症状、診断、治療) ウ アキレス腱周囲炎 (疾患概念、症状、診断、治療) エ 足関節衝突性外骨腫症 (疾患概念、症状、診断、治療) オ 三角骨障害 (疾患概念、症状、診断、治療)
10. 足・足趾	A 手術適応を考慮する 足・足趾の骨折	ア 踵骨骨折 イ 距骨骨折 ウ 中足骨・足趾骨折
	B 足・足趾の疾患	ア 足の変形 (扁平足、凹足、内反足、尖足、踵足) イ 足趾の変形 (外反母趾、内反小趾) ウ 有痛性踵骨棘 (疾患概念、症状、診断)

大項目	中項目	小項目
		エ 立方骨症候群（疾患概念） オ 中足骨疲労骨折（行軍骨折） カ 種子骨炎・種子骨障害（疾患概念、症状）
	C 足の末梢神経障害	ア 足根管症候群 イ モートン（Morton）病 ウ 深腓骨神経麻痺（疾患概念、症状） エ 浅腓骨神経麻痺（疾患概念、症状）

リハビリテーション医学

大項目	中項目	小項目
1. リハビリテーションの概念と歴史	A 概念	ア 語源 イ 定義 ウ 理念
	B 歴史	
2. リハビリテーション医学の対象	A リハビリテーション医学の対象	ア 障害の3つのレベル イ 障害の3つのレベルの相互関係 ウ 障害の3つのレベルに対するリハビリテーション医学の対応 エ 障害の受容 オ リハビリテーション医学の流れ カ リハビリテーション医学の対象疾患
3. リハビリテーション医学の基礎医学	A 運動学と機能解剖	[運動学から出題]
	B 障害学	ア 関節拘縮 イ 関節の変形 ウ 筋萎縮 エ 神経麻痺
	C 治療学	ア 拘縮治療 イ 筋力増強訓練 ウ バイオフィードバック エ 痛みの治療
4. リハビリテーション医学の評価と診断	A 患者のとらえ方	ア 障害モデルにおける評価 イ ゴール設定 ウ 評価の目的 エ 病歴による障害評価
	B 身体計測	ア 四肢長 イ 四肢周径
	C 関節可動域 (ROM) 測定法	
	D 徒手筋力テスト (MMT)	
	E 中枢性運動障害の評価法	
	F 痙縮の評価法	
	G 小児運動発達の評価法	ア 粗大運動の発達 イ 微細運動
	H 協調性テスト	ア 運動失調
	I 失認と失行の評価法	ア 失認 イ 失行 ウ 高次機能の局在
	J 日常生活動作の評価	
	K 電気生理学的診断法	ア 神経伝導検査 イ 針筋電図 ウ 脳波

大項目	中項目	小項目
	L 画像診断	ア CTによる脳卒中病型の診断 イ MRI (脳の病変) ウ SPECT / PET (脳の病変)
5. リハビリテーションの治療	A 理学療法	ア 運動療法 (総説等) ①関節可動域 (ROM) 訓練 ②筋力増強訓練 ③筋再教育訓練 ④その他の運動療法 イ 物理療法 ①温熱療法 ②寒冷療法 ③電気療法 ④水治療法 ⑤その他の物理療法 ウ 牽引、マッサージ、マニピュレーション ①牽引療法〔整形外科から出題〕 ②マッサージ ③マニピュレーション
	B 作業療法	ア 歴史と定義 イ 対象と治療環境 ウ 作業療法の進め方 エ 作業療法の実際 ①身体障害作業療法 ②精神科作業療法
	C 補装具	ア 装具 イ 義肢 ウ 移動補助具 ①歩行補助具 ②車いす エ 自助具と介助機器 ①自助具 ②介助機器
6. リハビリテーション医学と関連職種	A 医師	
	B 理学療法士	
	C 作業療法士	
	D 看護師	
	E 言語聴覚士	
	F 臨床心理士	
	G 社会福祉士	
	H 義肢装具士	
7. リハビリテーションの実際	A 脳卒中	ア 分類 イ 障害 ウ リハビリテーション (時期による治療差異、留意点)
	B 脊髄損傷	ア 病態 イ 合併症

大項目	中項目	小項目
		ウ リハビリテーション（時期による治療差異、留意点）
	C 脳性麻痺	ア 分類、症状
	D 老人のリハビリテーション	ア 老人とその疾患の特徴 イ 老人のリハビリテーションの特徴と問題点 ウ 地域リハビリテーション エ 寝たきり老人のリハビリテーション オ パーキンソン（Parkinson）病のリハビリテーション
8. リハビリテーションと福祉	A 社会福祉法	〔関係法規は必修問題から出題〕
	B 身体障害者福祉法	〔関係法規は必修問題から出題〕
	C 児童福祉法	〔関係法規は必修問題から出題〕
	D 老人福祉法	〔関係法規は必修問題から出題〕
	E 介護保険法	〔衛生学・公衆衛生学から出題〕

柔道整復理論(総論)

大項目	中項目	小項目
1.業務	A 業務範囲	
	B 医師との連携	ア 施術の同意 イ 対診
2.運動器損傷の診察	A 医療面接	ア 身だしなみ イ 患者の確認 ウ 言葉遣い エ 共感的態度
	B 全身の観察	ア 姿勢の観察 イ 歩行の観察 ウ 全身状態の観察
	C 病歴聴取	ア 主訴の聴取 イ 発生原因の聴取 ウ 既往歴・家族歴の聴取 エ 生活様式の聴取 オ 障害の状況の聴取 カ 疼痛の部位および出現状況の聴取
	D 患部の観察	ア 診察環境の整備 イ 損傷部にみられる典型的な所見
	E 触診	ア 腫脹・血腫 イ 筋の緊張 ウ 圧痛 エ 変形の触知 オ 熱感 カ 感覚の異常 キ 雑音
	F 機能的診察	ア 可動域制限 イ 動作に伴う疼痛 ウ 異常な動き エ 運動神経の機能 オ トリックモーション
	G 計測	ア 関節可動域 イ 筋力評価 ウ 計測（長さ・周径）
	H 徒手検査〔各論から出題〕	
3.説明と同意	A 損傷や疾患の説明	
	B 経過の説明	
	C 応急的治療の必要性の説明	
	D 治療法の説明	ア 保存療法の概要と適応 イ 手術療法の概要と適応
4.施術前の確認	A 全身状態の確認	
	B 施術の適否の確認	ア 施術適応疾患 イ 施術非適応疾患

大項目	中項目	小項目
	C 皮膚損傷の有無の確認	
	D 神経損傷の有無の確認	
	E 血管損傷の有無の確認	
	F 臓器損傷の有無の確認	
5. 痛みの基礎〔生理学から出題〕	A 痛みの種類	ア 侵害受容性疼痛 イ 神経因性疼痛 ウ 心因性疼痛
	B 痛みのメカニズム(運動器)	
	C 急性痛と慢性痛	ア 急性痛 イ 慢性痛
	D 痛みの評価	
	E 痛みへのアプローチ	ア 運動療法 イ 物理療法 ウ 手技療法 エ その他の療法
6. 骨折	A 定義	
	B 骨のモデリングとリモデリング	ア 骨のモデリング イ 骨のリモデリング
	C 分類	ア 骨の性状 イ 骨折の程度 ウ 骨折線の方向 エ 骨折の数 オ 骨折の原因 ①外力の働いた部位 ②外力の働き方 カ 骨折部と外創との交通の有無 キ 骨折の部位 ク 骨折の経過
	D 症状	ア 局所症状 ①一般外傷症状 ②骨折固有症状 イ 全身症状
	E 小児骨損傷・高齢者骨損傷の特徴	ア 小児骨損傷の特徴 イ 高齢者骨損傷の特徴
	F 治癒経過	ア 炎症期 イ 仮骨形成期 ウ 仮骨硬化期 エ リモデリング期 オ 治癒過程の異常経過
	G 治癒に影響を与える	ア 好適な条件

大項目	中項目	小項目
	因子	イ 不適な条件
	H 合併症	ア 併発症（狭義の合併症） イ 続発症 ウ 後遺症
	I 予後	
7.脱臼	A 定義	
	B 分類	ア 関節の性状 イ 脱臼の程度 ウ 関節相互の位置 エ 脱臼数 オ 脱臼の原因 カ 脱臼の経過 キ 脱臼の頻度と機序
	C 症状	ア 一般外傷症状 イ 脱臼固有症状
	D 合併症	
	E 整復障害	
	F 予後	
8.関節の損傷	A 関節損傷の概要	
	B 関節損傷の分類	ア 関節の性状 イ 損傷の程度 ウ 損傷部と外界の交通 エ 外力の働いた部位 オ 外力の働き方 カ 経過
	C 損傷される組織	
	D 関節軟骨損傷	ア 発生頻度 イ 発生機序 ウ 分類 エ 症状 オ 合併症 カ 治癒機序 キ 後遺症と予後
	E その他の構成組織の損傷	ア 関節唇 イ 関節半月、関節円板 ウ 滑液包
	F 関節拘縮と関節強直	ア 関節拘縮 イ 関節強直
9.軟部組織損傷	A 筋損傷	ア 筋損傷の概要 イ 筋損傷の分類 ウ 筋損傷の症状 エ 筋損傷の治癒機序 オ 筋損傷の予後
	B 腱損傷	ア 腱損傷の概要 イ 腱損傷の分類

大項目	中項目	小項目
		ウ 腱損傷の症状 エ 腱損傷の治癒機序
	C 靭帯損傷	ア 靭帯損傷の概要 イ 靭帯損傷の分類 ウ 靭帯損傷の症状 エ 靭帯損傷の治癒機序
	D 末梢神経損傷	ア 神経損傷の概要 イ 神経損傷の分類 ウ 神経損傷の症状
10. 評価・施術録	A 評価の目的	
	B 評価の時期	ア 初期評価 イ 中間評価 ウ 最終評価
	C 施術録の取り扱い	ア 記載事項 イ 記載法 ウ 保管
11. 初期の施術	A 徒手整復の適応	ア 徒手整復の適応がある骨折 イ 徒手整復の適応がない骨折 ウ 徒手整復の適応がある脱臼 エ 徒手整復の適応がない脱臼
	B 整復法	ア 骨折 イ 脱臼
	C 整復後の確認	ア 全身状態の確認 イ 骨折の整復状態の確認 ウ 脱臼の整復状態の確認 エ 神経・血管の二次的損傷発生の確認
	D 軟部組織損傷の初期処置	ア 捻挫（靭帯損傷）の初期処置 イ 筋損傷の初期処置 ウ 腱損傷の初期処置 エ 神経損傷の初期処置
	E 固定法	ア 目的 イ 内固定・創外固定 ウ 外固定 エ 外固定の肢位 オ 外固定の範囲 カ 外固定の期間 キ 外固定の材料 ク 内固定の材料
	F 固定後の確認	ア 骨折の固定状態の確認 イ 脱臼の固定状態の確認 ウ 神経・血管の二次的損傷発生の確認
12. 後療法	A 固定の継続	ア 必要性 イ 包帯交換 ウ 包帯交換時の注意 エ 固定の変更 オ 固定期間中の患肢の運動

大項目	中項目	小項目
		カ 固定の除去
	B 手技療法	ア 意義 イ 基本型（軽擦法、強擦法、揉捏法、叩打法、振戦法、圧迫法、伸長法） ウ 適応 エ 禁忌
	C 運動療法	
	D 物理療法	
	E 後療法の適否の確認	ア 固定の適否の確認 イ 手技療法の適否の確認 ウ 運動療法の適否の確認 エ 物理療法の適否の確認
13. 施術終了の判断	A 治癒の判断	ア 骨折の治癒 イ 脱臼の治癒 ウ 軟部組織損傷の治癒
	B 施術を中止する判断	ア 骨折の施術を中止する条件 イ 脱臼の施術を中止する条件 ウ 軟部組織損傷の施術を中止する条件
14. 包帯法〔包帯法は必修問題から出題〕	A 包帯各部の名称	
	B 包帯の種類	ア 晒・包帯・ギプス・三角巾・テープ イ 単頭帯・多頭帯・腹帯
	C 包帯の巻き方	ア 表巻き・裏巻き イ 包帯の走行
	D 基本包帯法の種類と適応	ア 環行帯 イ 螺旋帯 ウ 蛇行帯 エ 麦穂帯 オ 亀甲帯 カ 折転帯
	E 冠名包帯法の種類と適応	ア デゾー包帯 イ ヴェルポー包帯 ウ ジュール包帯

柔道整復理論(各論・骨折)

大項目	中項目	小項目
1. 頭部・体幹	A 頭蓋骨骨折	ア 原因、症状、合併症
	B 上顎骨骨折	ア 原因、症状
	C 下顎骨骨折	ア 原因、分類、症状
	D 頬骨・頬骨弓骨折	ア 原因、症状
	E 鼻骨骨折	ア 原因、症状、治療
	F 頸椎骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療
	G 胸骨骨折	ア 原因、症状、合併症、治療、予後
	H 肋骨骨折〔肋骨骨折の固定は必修問題から出題〕	ア 原因、症状、合併症、治療、予後
	I 胸椎骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療
	J 腰椎骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療
	K 尾骨骨折	ア 原因、症状、治療
2. 上肢	A 鎖骨骨折〔定型的鎖骨骨折の診察および整復、固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	B 肩甲骨骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、治療、予後
	C 上腕骨近位部骨折〔上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	D 上腕骨骨幹部骨折〔上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、合併症、治療、予後
	E 上腕骨遠位部骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	F 前腕骨近位部骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	G 前腕骨骨幹部骨折	ア 原因、分類、症状、合併症、治療、予後
	H 前腕骨遠位部骨折〔コーレス (Colles) 骨折の診察および整復、固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後

大項目	中項目	小項目
	I 手根骨骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	J 中手骨骨折〔第5中手骨頸部骨折の固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、治療
	K (手の) 指骨骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、治療、予後
3. 下肢	A 骨盤骨骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	B 大腿骨近位部骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	C 大腿骨骨幹部骨折	ア 原因、分類、症状、合併症、治療、予後
	D 大腿骨遠位部骨折	ア 原因、分類、症状、合併症、治療、予後
	E 膝蓋骨骨折	ア 原因、分類、症状、治療、予後
	F 下腿骨近位部骨折	ア 原因、分類、症状、治療、予後
	G 下腿骨骨幹部骨折〔下腿骨骨幹部骨折の固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、治療、予後
	H 下腿骨遠位部骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	I 足根骨骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、治療、予後
	J 中足骨骨折	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、治療
	K (足の) 趾骨骨折	ア 原因、分類、症状、治療、予後

柔道整復理論(各論・脱臼および骨折を伴う脱臼)

大項目	中項目	小項目
1. 頭部・体幹	A 顎関節脱臼	ア 原因、分類、症状、治療
	B 頸椎脱臼・脱臼骨折	[整形外科学から出題]
	C 胸鎖関節脱臼	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	D 胸腰椎脱臼・脱臼骨折	[整形外科学から出題]
2. 上肢	A 肩鎖関節脱臼〔肩鎖関節上方脱臼の診察および整復、固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	B 肩関節脱臼〔肩関節烏口下脱臼の診察および整復、固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	C 肘関節脱臼〔肘関節後方脱臼の診察および整復、固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	D 肘関節付近の骨折を伴う脱臼	ア 鑑別診断
	E 肘内障〔肘内障の診察および整復は必修問題から出題〕	ア 原因、症状、鑑別診断、治療
	F 手関節脱臼	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、治療
	G 手関節付近の骨折を伴う脱臼	ア 鑑別診断
	H 手根骨脱臼	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療
	I 手根中手関節脱臼	ア 原因、症状、治療
	J 手部の骨折を伴う脱臼	ア 鑑別診断
	K 中手指節関節脱臼	ア 原因、症状、鑑別診断、治療
	L (手の) 指節間関節脱臼〔示指 PIP 関節背側脱臼の固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、治療
3. 下肢	A 股関節脱臼	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	B 股関節付近の骨折を伴う脱臼	ア 鑑別診断
	C 膝関節脱臼	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	D 膝蓋骨脱臼	ア 原因、分類、症状、治療、予後

大項目	中項目	小項目
	E 足関節脱臼	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	F 足関節付近の骨折を伴う脱臼	ア 鑑別診断
	G 足根骨脱臼	ア 原因、分類、症状、鑑別診断、合併症、治療、予後
	H 中足骨脱臼	ア 原因、分類、症状、合併症、治療、予後
	I (足の) 指節間関節脱臼	ア 原因、分類、症状、治療

柔道整復理論(各論・軟部組織損傷)

大項目	中項目	小項目
1. 頭部・体幹	A 顎関節症	ア 原因、症状、治療
	B 胸肋関節付近の損傷	ア 原因、症状、鑑別診断
	C 肋間筋損傷	ア 原因、症状
	D 頸部捻挫	ア 原因、症状、鑑別診断
	E 胸背部の軟部組織損傷	ア 原因、症状、鑑別診断
	F 腰部の軟部組織損傷	ア 原因、症状、鑑別診断
2. 上肢	A 肩部の軟部組織損傷〔肩腱板損傷の診察は必修問題から出題〕	ア 原因、症状、検査、鑑別診断、治療
	B 上腕部の軟部組織損傷〔上腕二頭筋長頭腱損傷の診察は必修問題から出題〕	ア 原因、症状、治療
	C 肘部の軟部組織損傷	ア 原因、症状、検査、鑑別診断、治療
	D 前腕部の軟部組織損傷	ア 原因、症状、治療
	E 手関節部・手指部の軟部組織損傷	ア 原因、症状、検査、鑑別診断、治療
	F 手関節部・手指部の変形および腱損傷	ア 原因、症状、治療
3. 下肢	A 股関節部の軟部組織損傷	ア 原因、症状、検査、鑑別診断、治療
	B 大腿部の軟部組織損傷〔大腿部打撲・肉ばなれ・大腿四頭筋、ハムストリングの診察は必修問題から出題〕	ア 原因、症状、治療
	C 膝関節部の軟部組織損傷〔膝関節側副靭帯損傷の診察、膝関節十字靭帯損傷の診察、膝関節半月板損傷の診察、膝関節内側側副靭帯損傷の固定は必修問題から出題〕	ア 原因、分類、症状、検査、鑑別診断、治療
	D 下腿部の軟部組織損傷〔下腿三頭筋肉ばなれの診察、アキレス腱断裂の固定は必修問題から出題〕	ア 原因、症状、検査、治療
	E 足部の軟部組織損傷	ア 原因、症状、検査、治療

大項目	中項目	小項目
	〔足関節外側靭帯損傷の診察、足関節外側靭帯損傷の固定は必修問題から出題〕	

【索 引】

邦文索引

あ

アキレス腱周囲炎……………81
 アキレス腱断裂……………81
 アキレス腱断裂の固定……………23
 悪液質……………58
 悪性関節リウマチ……………75
 悪性骨腫瘍……………75
 悪性腫瘍……………52
 悪性腫瘍のリンパ節転移……………62
 悪性上皮性腫瘍……………53
 悪性新生物……………55
 悪性軟部腫瘍……………75
 悪性非上皮性腫瘍……………53
 悪性貧血……………61,65
 悪性リンパ腫……………53,62,65
 アジソン病……………58,61,66
 足の筋……………34
 (足の) 趾骨骨折……………92
 (足の) 指節間関節脱臼……………94
 足の変形……………81
 アシュネル反射……………64
 アダムス・ストークス症候群……………63
 圧覚……………39
 圧痛……………86
 アテトーゼ様運動……………59
 アナフィラキシー型反応……………52
 アヒル歩行……………59
 アフタ……………61
 アポトーシス……………50
 アランチウス管……………35
 アルコール中毒……………61
 アルツハイマー病……………67
 アレルギー……………41,52
 安静……………73
 アンドロゲン……………43

い

胃……………35
 胃液……………42
 胃炎……………64
 イオン組成……………41
 胃潰瘍……………64
 胃癌……………64
 異型性……………52
 医原病……………49
 移行上皮癌……………53
 意識障害……………58,71
 意識状態……………59
 医師法……………6
 異種移植……………51,70

萎縮……………49
 異常運動……………59
 異常呼吸……………63
 異常呼吸音……………62
 異常心音……………62
 異常成分……………56
 異常体質……………49
 異常な動き……………86
 異常歩行……………48,59,72
 移植……………51,70
 移植片対宿主病……………51
 胃腺……………35
 イタイイタイ病……………57
 痛み……………87
 痛みの基礎……………87
 痛みの治療……………83
 痛みの評価……………87
 痛みのメカニズム……………87
 痛みへのアプローチ……………87
 イチゴ舌……………61
 一次ショック……………69
 一次的治癒……………68
 一次予防……………54
 一般外傷症状……………87
 一般的素因……………49
 一般廃棄物……………57
 一般病床……………6
 一歩……………48
 遺伝……………49
 遺伝子異常……………53
 遺伝性疾患……………49
 移動補助具……………84
 違反行為と罰則……………5
 衣服の目的と衛生的条件……………56
 異物の処理……………51
 胃壁……………35
 医療過誤……………3
 医療計画……………54
 医療事故……………3
 医療事故調査制度……………3
 医療におけるリスクマネジメント……………3
 医療の定義……………6
 医療法……………6
 医療面接……………58,72,86
 陰核……………38
 陰茎……………37
 陰茎海綿体……………37
 インスリン……………43
 陰性徴候……………47
 咽頭……………35
 院内感染……………56
 陰囊……………37
 インフォームド・アセント……………3

インフォームド・コンセント……………3
 陰部神経叢……………39

う

ウイルス……………52,55
 ウイルソン病……………59
 ヴェルポー包帯……………26,90
 受け身……………3
 烏口突起骨折……………78
 烏口腕筋……………32
 うっ血……………50
 うっ血性心不全……………65
 うつ熱……………43
 右葉……………36
 裏巻き……………26,90
 右リンパ本幹……………35
 運動解析……………47
 運動学……………47
 運動学習……………48
 運動器……………47
 運動器系……………31
 運動技能……………48
 運動機能検査……………64
 運動行動の3階層……………47
 運動軸……………47
 運動軸数……………31
 運動失調……………59,83
 運動神経の機能……………86
 運動能力……………48
 運動の第1、第2、第3の法則……………47
 運動の発現と制御……………47
 運動の表示方法……………47
 運動発達……………48
 運動発達指標……………48
 運動プログラム……………47
 運動面……………47
 運動療法……………84,87,90

え

衛生学・公衆衛生学……………54
 衛生行政……………55
 衛生上必要な措置……………5
 衛生統計……………54
 栄養……………55
 栄養障害……………49
 栄養状態……………58
 栄養素の代謝……………42
 栄養と代謝……………42
 腋窩温……………43
 疫学……………54
 疫学研究……………54

- 疫学指標……………54
 腋窩動脈……………40
 〔体〕液性免疫……………41
 液性免疫……………52
 エクソサイトーシス……………41
 壊死……………50, 68
 壊死巣の転帰……………50
 エストロゲン……………44
 壊疽……………50, 68
 壊疽性炎……………52
 エックス線検査……………72
 エネルギー代謝……………42
 エビ姿勢……………58
 遠位指節間関節……………32
 円回内筋……………33
 炎症……………51, 68
 炎症期……………87
 炎症性斜頸……………61, 78
 延髄……………38, 44
 塩素イオン……………56
 エンドサイトーシス……………41
- お**
- 横隔膜……………32
 応急的治療の必要性の説明……………86
 応招義務……………6
 凹足……………81
 黄体……………38
 黄体形成ホルモン……………43
 黄疸……………60, 61
 横紋筋腫……………53
 オキシトシン……………43, 44
 屋内環境……………56
 オスグッド・シュラッター病……………76
 オゾン層破壊……………57
 オッペンハイム反射……………64
 小野寺点……………62
 表巻き……………26, 90
 温度……………49
 温度覚……………39
 温熱因子……………56
 温熱療法……………69, 84
 温冷覚……………72
- か**
- 外因……………49
 外陰部……………37, 38
 回外筋……………33
 外寛骨筋……………33
 下位頸椎損傷……………78
 外固定……………89
 介護保険法……………55, 85
 介護予防……………55
 外耳……………39, 45
 概日リズム……………43, 45
 外耳道……………39
 外出血……………70
 外傷性股関節脱臼……………80
 外傷性脱臼……………73
 外傷性頭蓋内血腫……………71
 介助機器……………84
 回旋〔筋〕腱板……………32
 回腸……………36
 外套……………38
 解糖系……………42
 外反母趾……………81
 外皮……………39
 外鼻……………36
 外部環境……………56
 外分泌部……………36
 外閉鎖筋……………34
 解剖学……………31
 解剖学用語……………31
 開放骨折……………73
 開放性出血……………70
 開放性損傷……………68
 回盲弁……………36
 潰瘍……………60, 68
 潰瘍性大腸炎……………64
 解離性大動脈瘤……………65
 外力……………87
 外肋間筋……………32
 下顎骨骨折……………91
 化学的外因……………49
 化学的止血……………71
 化学的消毒法……………56
 化学的な要因による健康障害……………54
 化学物質……………52, 55
 化学療法……………69
 過換気呼吸……………63
 下気道……………36
 可逆性ショック……………69
 蝸牛……………39
 核医学検査……………73
 顎関節……………31
 顎関節症……………95
 顎関節脱臼……………93
 顎関節の運動……………47
 拡散……………41
 核酸……………44
 覚醒……………45
 拡張性増殖……………52
 過形成……………51
 下行性伝導路……………39
 仮骨形成期……………87
 仮骨硬化期……………87
 下肢……………33
 下肢周径……………72
 下肢伸展反射……………48
 下肢帯の筋……………33
 下肢長……………72
 下肢長さによる異常歩行……………72
 下肢のうっ血……………50
 下肢の関節と靭帯……………33
 下肢の骨……………33
 下肢の静脈……………35
 下肢の動脈……………34
 下垂体……………38, 43
 下垂体機能亢進症……………58
 下垂体機能低下症……………58
 下垂体性小人症……………76
 下垂体のホルモン……………43
 ガス壊疽……………68
 ガス交換……………42
 化生……………51
 仮性球麻痺……………59
 仮性肥大……………51
 かぜ症候群……………65
 画像検査……………72
 画像診断……………84
 鷺足……………34
 鷺足炎……………81
 家族計画……………54
 下腿骨遠位部骨折……………92
 下腿骨近位部骨折……………92
 下腿骨骨幹部骨折……………81, 92
 下腿骨骨幹部骨折の固定……………25
 下腿三頭筋……………34
 下腿三頭筋肉ばなれの診察……………23
 下大静脈……………35
 下大静脈血栓症……………62
 下腿の筋……………34
 下腿疲労骨折……………81
 下腿部の軟部組織損傷……………95
 肩関節……………32
 肩関節烏口下脱臼の固定……………14
 肩関節烏口下脱臼の診察および整復……………14
 肩関節周囲炎……………79
 肩関節脱臼……………79, 93
 肩関節の運動……………47
 肩関節不安定症……………79
 肩腱板損傷……………79
 肩腱板損傷の診察……………18
 片麻痺歩行……………59
 カタル性炎……………52
 顎下三角……………32
 喀血……………50, 70
 学校教育法……………54
 学校体育……………74
 学校において予防すべき感染症……………54
 学校保健……………54
 学校保健安全法……………54
 褐色細胞腫……………66
 活性汚泥法……………57
 活動電位……………44

合併症	49	環軸関節回旋位固定	78	灌流圧	42
滑膜性の連結	31	環軸関節脱臼	78	寒冷療法	84
可動域制限	86	環軸関節突起間骨折	78	関連痛	46
下橈尺関節	32	患者の確認	86	き	
化膿性炎	52	患者の権利	3	気圧	49
化膿性関節炎	75	感受性	55	キーンバック病	76, 79
化膿性股関節炎	80	感情状態	59	既往歴・家族歴の聴取	86
化膿性骨髄炎	68	冠状動脈	34	記憶	45
痂皮下治癒	68	肝小葉	36	飢餓	49
仮面様顔貌	60	眼振	61	機械的原因	49
ガラント反射	48	関節	31, 47	機械的止血	71
カルシウム代謝	44	関節液検査	73	器官	41
カルシウム代謝障害	50	関節炎	75	気管	36
カルシトニン	44	関節可動域	86	気管・気管支および肺の損傷	71
加齢	50	関節可動域訓練	84	器官系	31
加齢と健康状態	55	関節可動域測定法	83	気管支	36
癌	52	関節鏡検査	73	気管支喘息	58, 60, 65
肝うっ血	50	関節強直	72, 88	奇形	53
肝炎	60, 64	関節拘縮	72, 83, 88	気候馴化	43
肝炎ウイルス	56	関節拘縮による異常歩行	72	気候と健康	56
陥凹	61	関節疾患	75	起坐位	58
眼窩	39	関節造影検査	72	義肢	74, 84
感覚	45	関節ねずみ	75, 79	器質化	51
感覚温度	56	関節の手術	73	器質性疾患	49
感覚器系	39	関節の損傷	73, 88	奇静脈	35
感覚検査	63	関節の変形	83	寄生虫	55
感覚の異常	86	関節面の形状	31	偽性痛風	75
感覚の診断	72	関節遊離体	75	季節と疾病	56
感覚の生理	45	関節リウマチ	52, 66, 75	規則抗体	41
肝癌	60, 65	汗腺	39	亀甲帯	26, 90
換気	42, 56	感染型	55	機能肢位	47
眼球	39	感染経路	55	機能性疾患	49
眼球および眼瞼における特有な症状	60	感染源	55	機能的診察	86
眼球結膜黄染	61	感染症	49, 55, 70	ギプス	26, 90
眼球突出	61	感染症対策	55	基本肢位	47
眼球付属器	39	感染症の予防	56	基本姿勢	47
環境	54	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	56	基本包帯法	26, 90
環境衛生	56	感染性疾患	75	白蓋形成不全	80
環境汚染	49	感染性心内膜炎	60	嗅覚	45
環境と健康	54, 56	感染性廃棄物処理	57	嗅覚器	40, 45
環境と適応	56	感染の種類	56	救急・災害医療	54
換気量	42	肝臓	36, 42	救急手術	69
眼筋	39	環椎骨折	78	吸収	42
ガングリオン	75, 80	乾熱滅菌法	56	急性胃炎	64
関係法規	5	間脳	38	急性ウイルス性肝炎	64
間欠性跛行	59	肝膿瘍	63	急性化膿性骨髄炎	75
間欠熱	63	癌の骨転移	75	急性気管支炎	65
眼瞼	39	肝の打診	62	急性糸球体腎炎	66
眼瞼下垂	61	患部の観察	86	急性腎不全	66
眼瞼結膜蒼白	61	冠名包帯法	26, 90	急性虫垂炎	64
眼瞼裂周囲の筋	31	顔面神経麻痺	61	急性痛	87
環行帯	26, 90	顔面頭蓋	31	急性白血病	65
肝硬変	59, 60, 61, 64	顔面動脈	40	急性汎発性腹膜炎	61
寛骨	33	顔面の損傷	71	吸入麻酔	70
間細胞	37	がん抑制遺伝子	52		

嗅脳	38	距骨骨折	81	訓練と練習	48
球麻痺	59	巨人症	58, 65, 76	け	
橋	38, 44	拒絶反応	51, 70	毛	39
業	4	距腿関節	33	経過	49
胸郭	32	棘下筋	32	経過の説明	86
胸郭出口症候群	77	許容濃度	56	脛骨	33
胸郭の運動	47	ギヨン管症候群	77	脛骨過労性骨膜炎	81
胸郭の形態異常	78	ギラン・バレー症候群	59, 67	脛骨近位端部骨折	81
胸管	35	起立姿勢の異常	72	痙縮の評価法	83
共感的態度	86	筋	31	頸神経	39
競技スポーツ	74	近位指節間関節	32	頸神経叢	39
胸腔内出血	70	筋萎縮	83	痙性歩行	72
狂犬病	68	筋萎縮性側索硬化症	59, 62, 66, 77	計測	86
凝固壊死	50	菌血症	68	頸椎	32
凝固系	41	菌交代現象	49	頸椎後縦靱帯骨化症	78
胸骨圧迫	71	筋・骨格系	47	頸椎骨折	91
頬骨弓骨折	91	筋再教育訓練	84	頸椎脱臼	93
胸骨骨折	91	筋細胞膜の興奮	45	頸椎脱臼骨折	93
頬骨骨折	91	筋収縮	45	頸動脈三角	32
胸鎖関節	32	筋性斜頸	78	頸動脈洞反射	64
胸鎖関節脱臼	93	筋組織	31	脛腓関節	33
胸鎖乳突筋	32	筋損傷	88	脛腓靱帯結合	33
胸神経	39	筋電図	45, 64	頸部	31
狭心症	65	筋電図検査	73	頸部交感神経麻痺	61
胸腺	35	筋肉の機能	45	頸部における特有な形態	61
胸大動脈	34	筋肉の手術	73	頸部捻挫	95
協調性テスト	83	筋の萎縮	62	頸部の運動	47
強直性脊椎炎	58, 75, 78	筋の緊張	86	頸部の筋	31
胸椎	32	筋の神経支配	31	鶏歩	59
胸椎黄色靱帯骨化症	78	筋紡錘	45	傾眠	58
胸椎骨折	91	筋力増強訓練	83, 84	稽留熱	63
胸椎損傷	78	筋力評価	86	けいれん	59, 71
共同運動	47	く		ケーラー病	76
共同偏視	61	クインケ浮腫	60	外科学概論	68
胸背部の軟部組織損傷	95	空気塞栓	50	外科頸骨折	78
強皮症	66	空気の性状	56	外科手術の禁止	4
胸部外傷	71	空腸	36	外科的感染症	68
胸部の運動	47	クスマウル呼吸	63	劇症肝炎	64
胸部の筋	32	屈筋腱断裂	80	下血	50, 70
胸壁の損傷	71	クッシング症候群	58, 60, 62, 66	下水処理法	56
胸膜	37	くも状血管腫	60	下水の排水基準	57
胸膜腔	37	クモ膜	38	血圧	41, 63
胸膜腔内圧	42	くも膜下出血	66, 71	血液	31, 41
胸膜洞	37	クラインフェルター症候群	53	血液型	41, 44, 69
業務	4, 86	クラミジア	55	血液凝固	50
業務独占	4	繰り返しの脱臼	73	血液膠質浸透圧	51
胸腰椎移行部損傷	78	グル音	62	血液疾患	65
胸腰椎脱臼	93	グルカゴン	43	血液・尿生化学検査	73
胸腰椎脱臼骨折	93	くる病	58, 76	血液分布異常性ショック	69
胸肋関節付近の損傷	95	車いす	84	結核	52, 63, 68
棘上筋	32	クレチン症	66	欠格事由	3
局所症状	87	クローヌス	64	結核性脊椎炎	78
局所性調節	42	グロームス腫瘍	75	血管	34, 41
局所麻酔	70	クローン病	64	血管雑音	62
虚血	50				
虚血性梗塞	51				

呼吸器系	36	骨年齢	44	鎖骨外側端部骨折	78
呼吸器疾患	65	骨の手術	73	鎖骨下筋	32
呼吸機能	64	骨の性状	87	鎖骨骨幹部骨折	78
呼吸障害	51	骨の生理	44	鎖骨骨折	91
呼吸中枢	42	骨のモデリング	87	坐骨神経痛	58, 81
呼吸調節	42	骨のリモデリング	87	雑音	86
呼吸の異常	42	骨の連結	31	雑則	5
呼吸部	36	骨盤	33, 48	砂漠化	57
国際保健組織	55	骨盤寛骨臼骨折	80	左右移動	48
黒色斑	61	骨半規管	39	左葉	36
国民医療費	6	骨盤筋	33	晒	26, 90
鼓室	39	骨盤・股関節の運動	47	サルコイドーシス	52
五十肩	79	骨盤骨骨折	81, 92	酸塩基平衡	41, 43
個人情報	3	骨盤部の動脈	34	三角巾	26, 90
個人的素因	49	骨密度測定	73	三角筋	32
姑息的手術	69	骨迷路	39	三角骨障害	81
鼓腸	62	固定後の確認	89	酸化のリン酸化反応	42
骨	31, 44, 47	固定の継続	89	産業廃棄物	57
骨移植	70	固定法	73, 89	産業疲労	55
骨格筋	45, 47	言葉遣い	86	産業保健	54
骨格系以外の所見	72	コプリック斑	61	産業保健対策	55
骨格系の所見	72	鼓膜	39	残気量	42
骨化性筋炎	81	固有口腔	35	三次予防	54
骨関節結核	75	孤立性骨嚢腫	75	酸性雨	57
骨幹部骨折	79	根治的手術	69	酸素解離曲線	41
骨幹部粉碎骨折	79	昏睡	58		
骨吸収	44	コンパートメント症候群	81	し	
骨巨細胞腫	75	コンピュータ断層撮影 CT	72	死	50
骨形成	44	昏迷	58	シアン	56
骨形成不全症	76			シーハン症候群	58
骨腫	53	さ		シェーグレン症候群	52
骨腫瘍	75	細菌	55	ジェファーソン骨折	78
骨髄炎	75	採光	56	耳介	39
骨髄腫	60, 75	最終評価	89	自家移植	70
骨髄塞栓	50	臍静脈	35	紫外線消毒	56
骨数	31	再生	51	視覚	45
骨性斜頸	78	再生能	51	視覚器	39
骨性目標	62	再生不良性貧血	60, 65	耳管	39
骨折	62, 73, 87	再疎通	50	磁気共鳴画像	72
骨折固有症状	87	最適条件	56	色素代謝障害	50
骨折出血	70	臍動脈	35	敷地	56
骨折線の方向	87	サイトカイン	52	子宮	38
骨折の数	87	最内肋間筋	32	糸球体腎炎	66
骨折の合併症	73	細胞	31, 41	糸球体ろ過	43
骨折の経過	87	細胞周期	31	子宮粘膜	38
骨折の原因	87	細胞傷害型反応	52	子宮壁	38
骨折の治癒	51	細胞性免疫	41, 52	死腔	42
骨折の程度	87	細胞内小器官	31, 41	軸椎歯突起骨折	78
骨折の部位	87	細胞分裂	31	刺激型反応	52
骨折部と外創との交通の有無	87	細胞膜	41	刺激伝導系	34
骨組織	31	作業態様に起因する健康障害	55	止血	41, 70
骨粗鬆症	76	作業肥大	51	止血術	69
骨端症	76	作業療法	73, 84	止血法	68, 71
骨軟骨異形成症	58	鎖骨	32	試験	4
骨軟骨腫	75	坐骨	33	試験の実施	4
骨肉腫	53, 75				

試験の無効等	4	失調性歩行	60	終脳	38
自己移植	51	失認	83	ジュール包帯	26, 90
指骨	32	失認と失行の評価法	83	手関節・手指の運動	47
趾骨	33	疾病	49	手関節脱臼	93
(手の) 指骨骨折	92	疾病予防	54	手関節付近の骨折を伴う脱臼	93
(足の) 趾骨骨折	92	指定試験機関	4	手関節部・手指部の軟部組織損傷	95
自己免疫異常	52	児童虐待	54	手関節部・手指部の変形および腱損傷	95
視細胞	45	児童虐待の防止等に関する法律	54	手技療法	87, 90
死産率	54	児童福祉法	85	宿主	54
四肢周径	83	シナプス伝達	44	受験資格	4
四肢循環障害	76	紫斑	50, 60	受験停止	4
示指伸筋	33	紫斑病	60	踵骨骨折	81
示指PIP関節背側脱臼の固定	17	脂肪腫	53, 75	手根管	32
支持組織	31	脂肪塞栓	50	手根間関節	32
四肢長	83	脂肪肉腫	53	手根管症候群	77
脂質	42	脂肪変性	50	手根骨	32
脂質異常症	66	死亡率	54	手根骨骨折	92
四肢の計測	72	市民スポーツ	74	手根骨脱臼	93
耳出血	70	社会福祉法	85	手根中手関節	32
施術前の確認	86	斜角筋隙	32	手根中手関節脱臼	93
視床下部	44	尺骨神経麻痺	77	種子骨炎	82
視床下部のホルモン	43	尺骨動脈	40	種子骨障害	82
耳小骨	39	尺側手根屈筋	33	主疾患	49
自助具	84	尺側手根伸筋	33	手術	69
視診	58	斜頸	61	手術による整復固定法	73
指伸筋腱皮下断裂	80	射精	44	手術療法	69, 73
姿勢	47	尺骨	32	手術療法の概要と適応	86
姿勢性側弯	58	尺骨鉤状突起骨折	79	手術療法の詳細	48
姿勢の観察	86	ジャパンコーマ・スケール	58, 71	受精	31, 44
姿勢評価	72	煮沸法	56	主訴の聴取	86
姿勢保持	48	ジャンパー膝	81	腫脹・血腫	86
(手の) 指節間関節脱臼	93	主因	49	出血	50
(足の) 指節間関節脱臼	94	縦隔	37	出血性炎	52
指節骨折	80	縦隔内損傷	71	出血性梗塞	51
脂腺	39	周期的発熱	63	出血性素因	50
自然毒	55	住居・衣服と健康	56	出血の種類	70
持続牽引法による整復	73	充血	50	受動輸送	41
弛張熱	63	周産期死亡率	54	守秘義務	5
膝蓋腱炎	81	十字靭帯損傷	81	手部の骨折を伴う脱臼	93
膝蓋骨	33	収縮の加重と強縮	45	シュモール結節	78
膝蓋骨骨折	81, 92	重症筋無力症	61, 66	腫瘍	52, 69
膝蓋骨脱臼	94	舟状骨骨折	79	腫瘍細胞骨格	52
膝窩筋	34	重傷度の判定	68	腫瘍塞栓	50
膝窩動脈	40	重心	47	腫瘍マーカー	52
膝関節	33, 48	重心移動	48	受領委任払い	6
膝関節十字靭帯損傷の診察	21	柔道	3	順化	56
膝関節側副靭帯損傷の診察	20	柔道整復師	3	循環	41
膝関節脱臼	93	柔道整復師法	3	循環器系	34
膝関節内側側副靭帯損傷の固定	22	柔道整復師名簿	4	循環器疾患	65
膝関節の運動	47	柔道整復理論	86	循環血液量減少性ショック	69
膝関節半月板損傷の診察	21	柔道の理念	3	循環障害	50
膝関節部の軟部組織損傷	95	柔道の歴史	3	循環の調節	41
失血	69	終動脈	34	順応	45
失行	83	十二指腸	36	小陰唇	38
実質性炎	52	十二指腸潰瘍	64	漿液性炎	52
実質性臓器	35	十二指腸堤筋	36		

小円筋	32	小腸	36	上腕二頭筋	32
消化	42	小腸壁	36	上腕二頭筋および腱断裂	79
障害者スポーツ	74	小殿筋	33	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	19
障害の3つのレベル	83	上橈尺関節	32	上腕の筋	32
障害の受容	83	消毒	56	上腕部の軟部組織損傷	95
障害の状況の聴取	86	消毒剤	56	初期の施術	89
障害モデルにおける評価	83	消毒法	56, 69	初期発生	31
消化液	42	消毒法の応用	56	初期評価	89
消化管	42	小児運動発達の評価法	83	職業病	54
消化管ホルモン	42	小児股関節結核	60	食事摂取基準	55
消化器	42	小児骨折	73	触診	62, 86
消化器系	35	小児骨損傷	87	褥瘡	60
消化器疾患	64	小児の歩行	48	食中毒	55
上顎骨骨折	91	小児保健	54	食道	35
消化性潰瘍	64	小脳	38, 44	食道癌	64
浄化槽	57	小脳腫瘍	59	食道壁	35
松果体	38	小脳変性症	59	職場における健康診断	55
消化と吸収	42	上皮小体	38	職場における健康増進	55
上気道	36	上皮小体(副甲状腺)のホルモン	43, 44	職場のメンタルヘルス対策	55
焼却法	56	上皮性腫瘍	52	食品衛生	55
小胸筋	32	上皮組織	31	食品衛生法	55
上下移動	48	小舞踏病	59	食品添加物	55
症候	49	小歩症	60	食品の管理	55
上行性伝導路	39	小脈	63	食物と栄養	42
上行大動脈	34	静脈	34	恕限度	56
猩紅熱	61	静脈管	35	女性化乳房	61
踵骨骨端症	76	静脈性出血	70	女性生殖器	37, 44
小坐骨孔	33	静脈麻酔	70	触覚	39, 72
上肢	32	静脈瘤	76	ショック	60, 69
小指外転筋	33	照明	56	ショック・呼吸障害対策	68
小指球筋	33	小網	36	シヨパール関節	33
小趾球筋	34	小菱形筋	32	徐脈	63
上肢周径	72	上腕筋	32	自律神経	39, 44
小指伸筋	33	上腕骨	32	自律神経反射	64
上肢帯の運動	47	上腕骨遠位端部T字型骨折	79	心因性疼痛	87
上肢帯の筋	32	上腕骨遠位端部Y字型骨折	79	腎盂腎炎	66
小指対立筋	33	上腕骨遠位部骨折	91	侵害受容性疼痛	87
上肢長	72	上腕骨外顆骨折	79	深胸筋	32
上肢の骨	32	上腕骨外側上顆炎	79	心筋	41, 45
上肢の静脈	35	上腕骨顆上骨折	79	真菌	55
上肢の動脈	34	上腕骨近位骨端線離開	79	心筋炎	63
小十二指腸乳頭	36	上腕骨近位部骨折	91	伸筋腱断裂	80
小手術	69	上腕骨外科頸外転型骨折の診察および 整復	8	心筋梗塞	63, 65
症状	87	上腕骨骨幹部骨折	91	真菌症	69
浄水	56	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨 折の固定	9	腎筋膜	37
上水道	56	上腕骨小頭骨折	79	神経	44
使用制限等	5	上腕骨小頭障害	79	神経因性疼痛	87
掌蹠膿疱症性骨関節炎	76	上腕骨通顆骨折	79	神経系	38, 47
常染色体	31	上腕骨内側上顆炎	79	神経系疾患	66
常染色体の異常	53	上腕骨内側上顆骨端線離開	79	神経終末	39
常染色体優性遺伝疾患	53	上腕三頭筋	33	神経症	59
常染色体劣性遺伝疾患	53	上腕三頭筋および腱断裂	79	神経障害性(神経病性)関節症	76
踵足	81	上腕動脈	40	神経鞘腫	53, 75
掌側骨間筋	33			神経性萎縮	50
上大静脈	34			神経性機序	42
小唾液腺	35			神経性食思(欲)不振症	58

神経性調節	41	振動覚	72	スワンネック変形	80
神経線維	44	腎・尿路疾患	66		
神経線維腫	53	深背筋	32	せ	
神経組織	31	心肺蘇生法	71	清音	62
神経損傷	59	審判規定に準じた服装・態度	3	生活習慣病	55, 74
神経損傷の有無の確認	87	深腓骨神経麻痺	82	生活の質	55
神経伝導検査	83	深部感覚	39, 46, 63	生活様式の聴取	86
神経伝導速度検査	73	深部静脈血栓症	76	精管	37
神経の手術	73	心不全	58, 60	性器出血	70
神経病性関節症	76	腎不全	60, 66	整形外科	72, 75, 78
神経ブロック	70	深部反射	64, 72	整形外科診察法	72
神経麻痺	77, 83	心房中隔欠損症	65	整形外科的検査法	72
心原性ショック	69	心膜	34	整形外科的治療法	73
進行癌	52	腎門	37	生検	73
人工呼吸法	71	診療	72	精索	37
進行性筋ジストロフィー	60, 62, 66, 77	診療記録	72	精子	37
人口静態統計	54	診療所	6	精子形成	44
進行性病変	51	診療放射線	5	静止膜電位	44
人口動態統計	54	診療放射線技師法	6	脆弱性骨折	76
診察	58, 86	診療録	6	正常心音	62
診察概論	58			正常成分	56
診察環境の整備	86	す		正常体温	63
深指屈筋	33	随意運動	47	正常歩行	48
心疾患	55	随意性跛行	60	生殖	44
心室中隔欠損症	65	髄液	45	生殖器系	37
心周期	41	膝炎	65	生殖細胞	31
人種素因	49	膝管	36	精神科作業療法	84
滲出性炎	52	膝痛	65	精神障害	55
浸潤性増殖	52	水系感染症	56	精神障害者	55
浸潤麻酔	70	水源	56	精神状態	59
シンスプリント	81	髄質	38	精神的健康の保持	55
振戦	59	水質基準	56	精神保健	55
心臓	34, 41	水腫	51	成人保健	55
腎臓	37, 43	膝臓	35, 36, 38	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	55
心臓のポンプ機能	41	膝臓のホルモン	43	性染色体	31
心臓壁	34	錐体外路	39	性染色体の異常	53
心臓弁膜症	60, 65	錐体路	39	性素因	49
靱帯	47	垂直移動	48	精巣	37, 38
身体運動と力学	47	水治療法	84	精巣上体	37
人体各部の名称	31	膝島	43	精巣のホルモン	43
人体区分線	40	水分喪失による脱水症	51	声帯	36
身体計測	83	水疱疹	60	生体機能検査	64
身体障害作業療法	84	髄膜	38	生体防御	41
身体障害者福祉法	85	髄膜炎	58, 63, 67	正中神経麻痺	77
靱帯損傷	73, 89	睡眠	45	成長ホルモン	43
人体の区分	31	髄様癌	52	精囊	37
靱帯の手術	73	頭蓋内出血	70	整復後の確認	89
人体の発生	31	スタンダードプリコーション	56	整復法	89
人体の方向と位置を示す用語	31	ストレス	49, 55	生物的外因	49
心濁音界	62	スプーン状爪	60	性分化	44
身長	72	スポーツ外傷	74	生命徴候	63
心電図	41, 64	スポーツ障害	74	生理学	41
浸透	41	スポーツ障害肩	79	生理的萎縮	50
振動	56	スポーツ心臓	63	生理的再生	51
浸透圧	41	スポーツ整形外科	74		

- 生理的変動……………43
 生理的弯曲……………32
 精路……………37
 セーバー病……………76
 赤色血栓……………50
 脊髓……………39,44
 脊髓腫瘍……………77
 脊髓神経……………39
 脊髓神経叢……………39
 脊髓性小児麻痺……………77
 脊髓損傷……………71,77,84
 脊髓反射……………45
 脊髓癆……………59
 脊柱……………32
 脊柱後弯姿勢……………58
 脊柱前弯姿勢……………58
 脊柱側弯姿勢……………58
 脊柱側弯症……………78
 脊柱損傷……………71
 脊椎カリエス……………58
 脊椎骨折……………71
 赤脾髄……………35
 施術終了の判断……………90
 施術所……………3,5
 施術適応疾患……………86
 施術の制限……………5
 施術の適否の確認……………86
 施術の同意……………86
 施術非適応疾患……………86
 施術録……………89
 施術を中止する判断……………90
 癩……………68
 舌……………35
 石灰化……………50
 切開術……………70
 石灰沈着性滑液包炎……………75
 石灰沈着性腱炎……………75
 赤血球……………41
 切除術……………70
 切断術……………70
 折転帯……………26,90
 舌乳頭……………35
 説明と同意……………86
 セルトリ細胞……………37
 線維化……………51
 線維腫……………53
 線維性骨異形成……………75
 線維性の連結……………31
 線維索性炎……………52
 線維素溶解系……………41
 線維肉腫……………53
 腺癌……………53
 浅胸筋……………32
 前鋸筋……………32
 浅頸筋……………32
 前頸筋……………32
 前脛骨筋……………34
 前脛骨筋麻痺……………59
 前脛骨コンパートメント症候群……………77
 仙骨……………32
 仙骨神経……………39
 仙骨神経叢……………39
 浅指屈筋……………33
 穿刺術……………70
 腺腫……………53
 染色体……………31,44
 染色体異常……………53
 全身症状……………87
 全身状態の確認……………86
 全身状態の観察……………86
 全身性エリテマトーデス……………52,60,66
 全身性硬化症……………52,66
 全身性疾患……………49
 全身の観察……………86
 全身麻酔……………70
 全層植皮……………70
 尖足……………81
 浅側頭動脈……………40
 腺組織……………31
 選択の自由……………3
 仙腸関節……………33
 前庭……………39
 先天性異常……………53
 先天性筋性斜頸……………61
 先天性股関節脱臼……………80
 (先天性)股関節脱臼と内反股による異常歩行……………72
 先天性骨系統疾患……………76
 先天性疾患……………49
 先天性心疾患……………60,65
 浅頭筋……………31
 浅背筋……………32
 浅腓骨神経麻痺……………82
 前腹筋……………32
 泉門……………31
 前立腺……………37
 前立腺肥大症……………66
 前腕骨遠位部骨折……………91
 前腕骨近位部骨折……………91
 前腕骨骨幹部骨折……………91
 前腕の筋……………33
 前腕部の軟部組織損傷……………95
- そ
- 騒音……………56
 創外固定……………89
 臓器……………35
 臓器移植……………70
 早期癌……………52
 早期手術……………69
 臓器素因……………49
 臓器損傷の有無の確認……………87
 装具……………84
 総頸動脈……………40
 走行……………48
 双子筋……………33
 総指伸筋……………33
 創傷処置……………68
 創傷治癒……………51
 創傷の処置……………68
 創傷の治癒過程……………68
 増殖……………51
 増殖性炎……………52
 臓側腹膜……………36
 総胆管……………36
 蒼白……………60
 総腓骨神経麻痺……………77
 僧帽筋……………32
 僧帽弁狭窄症……………65
 僧帽弁閉鎖不全症……………65
 足関節……………48
 足関節外側靭帯損傷の固定……………25
 足関節外側靭帯損傷の診察……………24
 足関節果部骨折……………81
 足関節衝突性外骨腫症……………81
 足関節・足部の運動……………47
 足関節脱臼……………94
 足関節捻挫……………81
 足関節付近の骨折を伴う脱臼……………94
 側頸筋……………32
 足根間関節……………33
 足根管症候群……………77,82
 足根骨……………33
 足根骨骨折……………92
 足根骨脱臼……………94
 足趾骨折……………81
 足趾の変形……………81
 塞栓……………50
 塞栓症……………50
 足底圧……………48
 足底筋……………34
 足底把握反射……………48
 側脳室……………38
 足背動脈……………40
 足背の筋……………34
 続発性疾患……………49
 側腹筋……………32
 側副血管……………34
 足部の軟部組織損傷……………95
 側方移動……………48
 速脈……………63
 単径管……………32
 単径靭帯……………33
 単径部痛……………80
 組織……………31,41
 組織活動性……………42
 組織適合性抗原……………70

粗大運動の発達	83	大腿四頭筋損傷	81	単純性ヘルペス	61
ソマトスタチン	43	大腿四頭筋の診察	19	単純性疱疹	60
損傷	68	体(大)循環	34	短小指屈筋	33
損傷部にみられる典型的な所見	86	大腿動脈	40	男性生殖器	37, 44
損傷や疾患の説明	86	大腿二頭筋	33	胆石症	58, 60, 65
		大腿の筋	33	胆道	42
た		大腿部打撲の診察	19	短橈側手根伸筋	33
ターナー症候群	53, 58, 61	大腿部肉ばなれ	81	単頭帯	26, 90
タール便	50	大腿部の軟部組織損傷	95	丹毒	68
第5中手骨頸部骨折の固定	11	大腿方形筋	33	短内転筋	34
体位	47	大唾液腺	35	胆嚢	36
体位と姿勢	58	大腸	36	胆嚢炎	65
大陰唇	38	大腸癌	64	蛋白質	42
体液	41	大腸菌群	56	蛋白質変性	50
体液性機序	42	大腸壁	36	弾発股	80
体液性調節	42	大殿筋	33	弾発指	80
〔体〕液性免疫	41	大動脈解離	65	短腓骨筋	34
体液量	41	大動脈弓	34	短母指外転筋	33
大円筋	32	大動脈弁狭窄症	63, 65	短母指屈筋	33
体温	43, 63	大動脈弁閉鎖不全症	63, 65	短母指伸筋	33
体温の調節	43	大動脈瘤	65		
体格と体型	58	大内転筋	34	ち	
体幹	32	大脳核	38	チアノーゼ	60
体幹と四肢のバランス	72	大脳動脈輪	34	地域保健・医療	54
大胸筋	32	大脳半球	38	地域保健法	54
体型	72	大脳皮質	44	チェーン・ストークス呼吸	63
大結節骨折	78	胎盤	35, 44	遅延型反応	52
退行性病変	49	体表解剖	40	力の単位	47
大坐骨孔	33	大脈	63	地球温暖化	57
第3腓骨筋	34	大網	36	地球環境	57
胎児循環	35	大菱形筋	32	恥骨	33
体質	49	多因子性遺伝疾患	53	恥骨筋	34
代謝障害	49, 50	ダウン症候群	53	腔	38
大十二指腸乳頭	36	唾液	42	腔門蓋	38
大手術	69	唾液腺	35	チック	59
対称性緊張性頸反射	48	濁音	62	窒素化合物	56
代償性肥大	51	蛇行帯	26, 90	知能	59
帯状疱疹	60	多指症	80	遅脈	63
対診	86	打診	62	チャドック反射	64
体性神経	44	打診音	62	肘関節	32
大前庭腺	38	立ち直り反応	48	肘関節後方脱臼の固定	16
大腿筋膜張筋	33	脱臼	88	肘関節後方脱臼の診察および整復	15
大腿骨	33	脱水症	51	肘関節・前腕の運動	47
大腿骨遠位部骨折	92	多頭帯	26, 90	肘関節脱臼	93
大腿骨顆部骨壊死	81	タナ障害	81	肘関節付近の骨折を伴う脱臼	93
大腿骨顆部骨折	81	多発性筋炎	52, 66	中間層植皮	70
大腿骨近位骨端線離開	80	多発性硬化症	59	中間評価	89
大腿骨近位部骨折	92	多発性神経線維腫症	76	肘筋	33
大腿骨頸部骨折	80	樽状胸	61	中腔性臓器	35
大腿骨骨幹部骨折	81, 92	単因子性遺伝疾患	53	中耳	39, 45
大腿骨転子部骨折	80	胆汁	36, 42	中手筋	33
大腿骨頭壊死	80	胆汁色素代謝障害	50	中手骨	32
大腿骨頭すべり症	80	単収縮	45	中手骨骨折	92
大腿三角	34	単純撮影	72	中手指節関節	32
大腿四頭筋	34	単純性股関節炎	80	中手指節関節脱臼	93
		単純性肥満	58		

虫垂……………36
 中枢神経……………44,47
 中枢神経系……………38
 中枢性運動障害の評価法……………83
 中枢性麻痺……………59
 中足筋……………34
 中足骨……………33
 中足骨骨折……………81,92
 中足骨脱臼……………94
 中足骨疲労骨折……………82
 中殿筋……………33
 中殿筋麻痺……………59
 肘頭骨折……………79
 肘頭骨端線離開……………79
 中毒……………49
 肘内障……………93
 肘内障の診察および整復……………17
 中脳……………38,44
 肘部管症候群……………77
 肘部の軟部組織損傷……………95
 虫様筋……………33
 治癒過程の異常経過……………87
 治癒形式……………68
 治癒の判断……………90
 超音波画像……………72
 聴覚……………45
 聴覚器……………39
 腸脛靭帯炎……………81
 腸骨……………33
 長趾屈筋……………34
 長趾伸筋……………34
 腸絨毛……………36
 長掌筋……………33
 聴診……………62
 腸腺……………36
 長橈側手根伸筋……………33
 長内転筋……………34
 長腓骨筋……………34
 重複歩……………48
 腸閉塞……………61,64
 長母指外転筋……………33
 長母指屈筋……………33
 長母趾屈筋……………34
 長母指伸筋……………33
 長母趾伸筋……………34
 長母指伸筋腱皮下断裂……………80
 跳躍伝導……………44
 腸腰筋……………33
 直腸……………36
 直腸温……………43
 直腸癌……………64
 治療法の説明……………86

つ

椎骨……………32

痛覚……………39,72
 痛風……………66,75
 槌指……………80
 爪……………39
 爪の異常……………60

て

ティーツェ病……………78
 低温消毒法……………56
 定型的鎖骨骨折の固定……………7
 定型的鎖骨骨折の診察および整復……………6
 低身長症……………58,65
 低体温……………63
 テープ……………26,90
 適応……………56
 摘出術……………70
 てこの原理……………47
 デゾー包帯……………26,90
 テタニー……………59
 鉄欠乏性貧血……………60,65
 鉄代謝障害……………50
 テニス肘……………79
 (手の) 指骨骨折……………92
 (手の) 指節間関節脱臼……………93
 デブリドマン……………68
 デュビュイトラン拘縮……………80
 転移……………52
 てんかん……………59
 転帰……………49
 電気……………49
 電気生理学的検査……………73
 電気生理学的診断法……………83
 電気療法……………84
 電子伝達系……………42
 点状出血……………50
 伝導路……………39

と

頭蓋冠骨折……………71
 頭蓋骨骨折……………91
 頭蓋底骨折……………71
 頭蓋表筋……………31
 投球骨折……………79
 同系移植……………70
 統計解析……………54
 頭・頸部の静脈……………35
 頭・頸部の動脈……………34
 糖原変性……………50
 瞳孔反射……………45,64
 橈骨……………32
 橈骨遠位端骨折……………79
 橈骨頸部骨折……………79
 橈骨手根関節……………32
 橈骨神経麻痺……………77

橈骨頭骨折……………79
 橈骨動脈……………40
 動作に伴う疼痛……………86
 糖質……………42
 同種移植……………51,70
 凍傷……………68
 動静脈吻合……………34
 橈側手根屈筋……………33
 等張性収縮……………45
 疼痛の部位および出現状況の聴取……………86
 糖尿病……………50,55,58,66
 逃避性歩行
 頭皮の損傷……………71
 頭部……………31
 頭部・顔面部外傷……………71
 動物寄生体……………49
 頭部の筋……………31
 動脈……………34
 動脈管……………35
 動脈性出血……………70
 動揺性肩関節症……………79
 トリックモーション……………86
 トータル・ヘルスプロモーション・プ
 ラン……………55
 特異性炎……………52
 特異動的作用……………43
 毒素型……………55
 特発性血小板減少性紫斑病……………65
 特発性側弯……………58
 特発性または本態性疾患……………49
 特有な顔貌……………60
 特有な胸郭の形態異常……………61
 特有な脊柱の形態異常……………62
 吐血……………50,70
 ド・ケルバン病……………80
 閉じこもり……………55
 徒手矯正……………73
 徒手筋力テスト……………72,83
 徒手整復……………73
 徒手整復の適応……………89
 徒手的検査……………86
 突進歩行……………59
 突然変異……………49
 都道府県知事の指示……………5
 届出……………5
 トライツ靭帯……………36
 ドレッシング……………68
 トレムナー反射……………64
 トレンデレンブルグ歩行……………59

な

内因……………49
 内寛骨筋……………33
 内固定……………89
 内耳……………39,45

内出血	70	尿管壁	37	脳卒中	71, 84
内臓感覚	46	尿管の再吸収	43	脳頭蓋	31
内臓痛覚	46	尿管の分泌	43	能動輸送	41
内側副靭帯断裂	79	尿酸	44	脳波	45, 64, 83
内側ヒダ障害	81	尿酸代謝障害	50	膿瘍	68
内転筋	34	尿生成の調節	43		
内転筋管	34	尿生化学検査	73	は	
内転筋腱裂孔	34	尿道	37	歯	35
内軟骨腫	75	尿道海綿体	37	パーキンソン病	58, 59, 60, 66
内反小趾	81	尿道球腺	37	バージャー病	59
内反足	81	尿の成分	43	肺	37
内部環境	41, 56	尿管崩壊	65	肺うっ血	50
内分泌	43	尿路結石症	66	バイエル板	36
内分泌攪乱化学物質	49	妊産婦死亡率	54	肺炎	60, 63, 65
内分泌器系	38	妊娠	44	バイオフィードバック	83
内分泌障害	49	認知	45	肺癌	65
内分泌腺	43	認知症	55, 67	肺肝境界	62
内分泌・代謝疾患	65			肺気腫	60, 61, 65
内分泌部	36	ね		廃棄物	57
内分泌療法	69	猫鳴き症候群	53	廃棄物処理	57
内閉鎖筋	33	熱感	86	肺胸膜	37
内肋間筋	32	熱型	63	肺結核	65
ナトリウム喪失による脱水症	51	熱産生	43	敗血症	63, 68
軟口蓋	35	熱傷	68	排除	51
軟骨	47	熱性けいれん	59	肺(小)循環	34
軟骨腫	53	熱放散	43	背側骨間筋	33
軟骨性の連結	31	ネフローゼ症候群	66	梅毒	52, 68
軟骨組織	31	捻挫	73	排尿	43
軟骨肉腫	75	年齢素因	49	排尿反射	43
軟骨無形成症	76			背部の筋	32
軟部組織感染症	75	の		肺胞換気量	42
軟部組織損傷	88	脳	38	肺胞内圧	42
軟部組織損傷の初期処置	89	脳圧亢進	63	肺野の打診	62
軟膜	38	脳圧亢進症	51	廃用症候群	55
		脳炎	59	廃用性萎縮	50, 62
に		脳回	38	排卵	38
肉芽組織	51, 68	脳回	38	薄筋	34
肉腫	52	脳幹	38, 44	白色血栓	50
肉ばなれの診察	19	脳幹反射	45	麦穂帯	26, 90
二次ショック	69	脳血管障害	55, 58, 59, 61	白線	32
二次性高血圧症	63	脳溝	38	白脾髄	35
二次的治癒	68	脳梗塞	66, 71	跛行	72
二次予防	54	脳挫傷	71	はさみ状歩行	59
日常生活動作	55	脳死	50	橋本病	52, 61, 66
日常生活動作の評価	83	脳室	38	播種性血管内凝固症候群	50
二点識別覚	72	脳死判定	70	波状熱	63
乳児死亡率	54	脳出血	66, 71	破傷風	58, 59, 68
乳汁分泌	44	脳神経	39	パセドウ病	59, 61, 63, 66
乳腺	39	脳神経核	39	パソプレッシン	43
乳頭腫	53	脳しんとう	71	破綻性出血	50
乳幼児の運動発達	48	脳性小児麻痺	59	ばち指	60
ニューロン	44	脳性麻痺	77, 85	發育性股関節脱臼	80
尿	43	脳脊髄液	39, 45	白血球	41
尿管	37	脳脊髄液検査	73	白血病	53, 60
尿管結石	58	脳脊髄神経	44	発生原因の聴取	86

罰則	5	非上皮性腫瘍	52	広さ	56
発達性股関節脱臼	59	皮静脈	40	貧血	60, 61, 63
発達段階	48	尾状葉	36	貧血性萎縮	50
発熱	43	微生物	55	頰脈	63
鳩胸	78	微生物検査	73		
鼻	36	肥大	51	ふ	
ばね股	80	非対称性緊張性頸反射	48	ファロー四徴症	60, 65
ばね指	80	ビタミンD	44	フォルクマン拘縮	77, 79
バビンスキー反射	64	ビタミンB ₂ 欠乏	61	フォン・レックリングハウゼン病	76
ハムストリングスの診察	19	ビタミン類	42	不快指数	56
パラシュート反応	48	泌尿器系	37	不可逆性ショック	69
バランス反応	48	微熱	63	不規則抗体	41
針筋電図	83	皮膚	39	副因	49
晩期手術	69	皮膚移植	70	腹腔内出血	70
半奇静脈	35	皮膚感覚	45	腹腔内臓器の損傷	71
ハンゲマン骨折	78	皮膚筋炎	52, 66	副交感神経	39
半月板損傷	81	皮膚腫瘍	62	副甲状腺	38
半腱様筋	33	皮膚赤色線条	62	副腎	38
半昏睡	58	皮膚切開法	69	副腎髓質のホルモン	43
癍痕組織	51, 68	皮膚腺	39	副腎皮質	43
反射	44, 45, 47, 64, 72	皮膚損傷の有無の確認	87	副腎皮質刺激ホルモン	43
反射運動	47	皮膚の色調の変化	60	副腎皮質のホルモン	43
反射弓	44, 47	皮膚の手術	73	腹水	61, 62
反射検査	64	皮膚の状態	60	副睪管	36
反射中枢	47	皮膚の性状の変化	60	腹帯	26, 90
反射の抑制と亢進	47	被包	51	腹大動脈	34
斑状出血	50	ヒポクラテス顔貌	60	腹直筋鞘	32
伴性遺伝	44	被膜	37	副半奇静脈	35
伴性劣性遺伝疾患	53	肥満	58	副鼻腔	36
ハンセン病	52	秘密保持義務	6	腹部外傷	71
ハンター舌炎	61	病因	49, 54	腹部の筋	32
ハンチントン病	59	病院	6	腹部の形態異常	61
反復性膝蓋骨亜脱臼	81	評価	89	腹部の緊張異常	61
反復性膝蓋骨脱臼	81	評価の目的	83	腹壁静脈の怒張	61
半膜様筋	33	病原微生物	49	腹壁の緊張異常	62
		表在感覚	63	腹壁の損傷	71
		表在反射	64, 72	腹膜	36
ひ		標準予防策	56	腹膜腔	36
非遺伝性疾患	49	表情筋	31	腹膜後器官	36
ビオー呼吸	63	病的骨折	73	腹膜垂	36
非開放性損傷	68	病的再生	51	浮腫	51, 60
皮下腫瘍	62	病的脱臼	74	腐食毒	49
光と色との感覚	45	病的反射	64, 72	不随意運動	59
光の屈折	45	表皮植皮	70	付属生殖腺	37
鼻腔	36	表皮囊肿	75	物理的外因	49
腓骨	33	病変	49	物理的環境因子による健康障害	54
尾骨	32	病名	49	物理的止血	71
腓骨筋	34	表面麻酔	70	物理療法	84, 87, 90
尾骨骨折	91	病理学	49	不適合輸血	69
鼻骨骨折	91	病理学概論	49	舞踏運動	59
尾骨神経	39	病歴聴取	86	負のフィードバック	41
尾骨神経叢	39	病歴による障害評価	83	踏み直り反射	48
微細運動	83	日和見感染	49	フライバーグ病	76
膝側副靭帯損傷	81	びらん	68	プライマリヘルスケア	54
皮質	38	ビリルビン	41	プラント病	76
鼻出血	70	疲労骨折	73	プロゲステロン	44

- プロディ骨膿瘍……………75
 プロラクチン……………43,44
 フロン……………57
 分化度……………52
 吻合術……………70
 分娩……………44
 分娩麻痺……………77
 分回し歩行……………59
 分離すべり症……………78
 粉瘤……………75
- へ
- 平圧蒸気滅菌法……………56
 バイカー嚢胞……………81
 平滑筋……………45
 平滑筋腫……………53
 平滑筋肉腫……………53
 平均余命……………54
 平衡覚器……………39
 平衡覚障害……………61
 平衡感覚……………45
 閉塞性ショック……………69
 閉塞性動脈硬化症……………59,65,76
 ベーチェット病……………60,61,66
 壁側胸膜……………37
 壁側腹膜……………36
 ベネット骨折……………80
 ヘバーデン結節……………80
 ヘモグロビン……………41
 ヘルスプロモーション……………54,54
 ベルテス病……………60,76,80
 弁……………34
 変形性関節症……………60
 変形性関節症疾患……………75
 変形性頸椎症……………78
 変形性肩関節症……………79
 変形性肩鎖関節症……………79
 変形性股関節症……………80
 変形性膝関節症……………81
 変形性肘関節症……………79
 変形性腰椎症……………78
 変形の触知……………86
 弁口……………34
 変質性炎……………52
 変性……………50
 扁平上皮癌……………53
 扁平足……………81
- ほ
- ボアス点……………62
 蜂窩織炎……………68
 方形回内筋……………33
 方形葉……………36
 縫合……………31
 膀胱……………37
 膀胱炎……………66
 膀胱括約筋……………37
 縫工筋……………34
 膀胱三角……………37
 膀胱壁……………37
 縫合法……………69
 報告および検査……………5
 放射線……………49,52,56
 放射線装置管理……………6
 放射線療法……………69
 放線菌症……………68
 蜂巣炎……………68
 包帯……………26,90
 包帯各部の名称……………26
 包帯の種類……………26
 包帯の走行……………26,90
 包帯の巻き方……………26,90
 包帯法……………26,90
 膨張性増殖……………52
 法の分類……………5
 包皮……………37
 膨隆……………61
 保健管理……………54
 保健教育……………54
 保健師助産師看護師法……………6
 保健指導を行う義務……………6
 保健所……………55
 歩行……………48,59
 歩行時の身体の動き……………48
 歩行周期……………48
 歩行の観察……………86
 歩行補助具……………84
 歩行率……………48
 母指球筋……………33
 母趾球筋……………34
 ホジキン病……………63
 母指対立筋……………33
 母指内転筋……………33
 母子保健……………54
 母子保健指標……………54
 母子保健法……………54
 母性保健……………54
 補装具……………84
 保存法……………55
 保存療法……………73
 保存療法の概要と適応……………86
 補体……………52
 母体保護法……………54
 ボタロー管……………35
 ボタン穴変形……………80
 勃起……………44
 ホメオスタシス……………41
 ポリオ……………77
 ホルモン……………43
 本態性高血圧症……………63,65
- ま
- マーデルング変形……………80
 前かがみの姿勢……………58
 膜電位……………44
 麻疹……………61
 麻酔……………70
 麻酔前投薬……………70
 麻酔と合併症……………70
 マスク様顔貌……………60
 末期癌……………52
 マックバーネ点……………62
 マッサージ……………84
 末梢神経……………44,47
 末梢神経系……………38
 末梢神経性萎縮……………62
 末梢神経損傷……………89
 末梢神経の圧痛点……………40
 末梢性麻痺……………59
 末梢動脈疾患……………76
 末端肥大症……………65
 マニピュレーション……………84
 麻痺……………59
 麻痺性歩行……………59,72
 マラリア……………63
 マルファン症候群……………58,61,76
 マレットフィンガー……………80
 マン-ウエルニッケ姿勢……………58
 満月様顔貌……………60
 慢性胃炎……………64
 慢性肝炎……………64
 慢性気管支炎……………65
 慢性骨髓炎……………75
 慢性糸球体腎炎……………66
 慢性腎不全……………66
 慢性痛……………87
 慢性白血病……………65
- み
- ミオクローヌス……………59
 味覚……………45
 味覚器……………39,45
 味覚神経……………40
 水……………42
 水バランス……………41
 身だしなみ……………86
 水俣病……………57
 未分化癌……………53
 脈拍……………63
 脈拍異常……………63
 脈管系……………34
 味蕾……………39

む

無機物.....42
ムコ多糖症.....58
無診察治療等の禁止.....6

め

名称独占.....4
名称の制限.....5
迷走神経反射.....63
メタボリックシンドローム.....55
滅菌法.....69
メディカルチェック.....74
メニエール病.....59
免疫.....41, 49, 52, 56
免疫異常.....52
免疫系器官.....41
免疫系細胞.....41
免疫複合体型反応.....52
免疫不全.....52
免疫療法.....69
免許.....3
免許証.....3
免許の申請.....3
免許の取消し等.....4
免許を受けるための要件.....3
メンタル・ヘルス.....55

も

毛細管圧.....51
毛細血管性出血.....70
盲腸.....36
モートン病.....77, 82
モルキオ症候群.....58
モルキオ病.....76
モロー反射.....48
門〔静〕脈.....35
モンテギア骨折.....79
門脈圧亢進症.....62
門脈うっ血.....50

や

野球肩.....79
野球肘.....79
薬剤師法.....6
薬品.....49
薬品投与の禁止.....4
薬物療法.....73

ゆ

誘因.....49

ユーイング肉腫.....75
融解壊死.....50
有害重金属.....57
有機水銀.....56
遊脚相.....48
有機リン.....56
有茎植皮術.....70
有痛性踵骨棘.....81
有痛性分裂膝蓋骨.....81
有病率.....54
遊離植皮術.....70
遊離皮弁.....70
輸液.....69
床反力.....48
輸血.....41, 69
輸送.....41

よ

癰.....68
溶血性貧血.....60
腰神経.....39
腰神経叢.....39
陽性支持反射.....48
陽性徴候.....47
腰椎.....32
腰椎骨折.....91
腰椎損傷.....78
腰椎椎間板ヘルニア.....78
腰椎分離症.....78
腰椎すべり症.....78
腰椎麻酔.....70
腰痛症.....78
腰部脊柱管狭窄症.....59, 78
腰部の運動.....47
腰部の軟部組織損傷.....95
翼状頸.....61
予後.....49
四日市喘息.....57
予防医学.....54
予防接種.....56
予防接種法.....56

ら

ライディッヒ細胞.....37
螺旋帯.....26, 90
卵円孔.....35
卵管.....38
卵巢.....37, 38
卵巢嚢腫.....61
卵巢の周期.....44
卵巢のホルモン.....44
ランドウ反射.....48
卵胞.....38
卵胞刺激ホルモン.....43

り

リウマチ熱.....66
理学的消毒法.....56
理学療法.....73, 84
理学療法士および作業療法士法.....6
罹患率.....54
リケッチア.....55
梨状筋.....33
梨状筋下孔.....33
梨状筋上孔.....33
リスク因子.....54
リスフラン関節.....33
離断性骨軟骨炎.....75, 79
立位姿勢.....47
立位姿勢の安定性.....72
立脚相.....48
立方骨症候群.....82
立毛筋反射.....64
リハビリテーション.....74
リハビリテーション医学.....83
リハビリテーション医学の対象.....83
リモデリング期.....87
良肢位.....47
良性骨腫瘍.....75
良性腫瘍.....52
良性軟部腫瘍.....75
良性非上皮性腫瘍.....53
両罰規定.....5
療養費.....6
療養病床.....6
輪状ヒダ.....36
リンパ液.....41
リンパ管.....41
リンパ管炎.....68
リンパ管腫.....53
リンパ系.....35
リンパ性咽頭輪.....35
リンパ節.....35, 62
リンパ節炎.....62, 68
リンパ閉塞.....51
リンパ本幹.....35

る

涙器.....39
類似名称使用の禁止.....6
るいそう.....58

れ

冷暖房.....56
レイノー現象.....60
レイノー症候群.....76
礼法.....3

裂傷	68	老人福祉法	85	ロンドン事件	57
連合運動	47	労働安全衛生法	55		
		労働基準法	55	わ	
ろ		労働災害	55	ワルダイエル咽頭輪	35
老化	50	漏斗胸	61, 78	ワルテンベルグ反射	64
瘦孔	68	ろ過	41	腕神経叢	39
漏出性出血	50	肋間筋損傷	95	腕神経叢損傷	77
老人のリハビリテーション	85	肋骨骨折	91	腕橈骨筋	33
		肋骨骨折の固定	11		

欧文索引

A

ABO 式……………44,69
 ABO 式血液型……………41
 Adams-Stokes 症候群……………63
 Addison 病……………58,61,66
 ADL……………55
 AED……………71
 AIDS……………56,67
 ALS……………59,62,67,77
 Alzheimer 病……………67
 Aschner 反射……………64
 ATP……………42

B

Babinski 反射……………64
 Baker 嚢胞……………81
 Basedow 病……………59,61,63,66
 Behçet 病……………60,61,66
 Bennett 骨折……………80
 Biot 呼吸……………63
 Blount 病……………76
 Boas 点……………62
 BOD……………56,57
 Brodie 骨膿瘍……………75
 Buerger 病……………59

C

Chaddock 反射……………64
 Cheyne-Stokes 呼吸……………63
 COD……………56,57
 Colles 骨折の固定……………10
 Colles 骨折の診察および整復……………9
 Crohn 病……………64
 CT……………84
 Cushing 症候群……………60,62,66

D

de Quervain 病……………80
 DEXA 法……………73
 DIC……………50
 DO……………56,57
 Down 症候群……………53
 Dupuytren 拘縮……………80

E

EMG……………73
 Ewing 肉腫……………75

F

Fallot 四徴症……………60,65
 Freiberg 病……………76

G

groin pain 症候群……………80
 Guillain-Barré 症候群……………59,67
 Guyon 管症候群……………77

H

hangman 骨折……………78
 Hansen 病……………52
 Heberden 結節……………80
 Hippocrates 顔貌……………60
 Hodgkin 病……………63
 Hunter 舌炎……………61
 Huntington 病……………59
 H波……………45

I

ILO……………55
 ITP……………65

J

Jefferson 骨折……………78

K

Köhler 病……………76
 Kienböck 病……………76,79
 Klinefelter 症候群……………53
 Koplik 斑……………61
 Kussmaul 呼吸……………63

M

Ménière 病……………59
 Madelung 変形……………80
 Mann-Wernicke 姿勢……………58
 Marfan 症候群……………58,61,76
 McBurney 点……………62
 MD 法……………73
 MMT……………83
 Monteggia 骨折……………79
 Morquio 症候群……………58
 Morquio 病……………76
 Morton 病……………77,82

MRI……………72,84
 MRSA……………56
 M波……………45

O

Oppenheim 反射……………64
 Osgood-Schlatter 病……………76

P

Parkinson 病……………58,59,60,66
 Perthes 病……………60,76,80
 PET……………84

Q

QCT 法……………73
 QOL……………55
 Quincke 浮腫……………60
 QUS 法……………73

R

Raynaud 現象……………60
 Rh 式……………44,69
 ROM 訓練……………84
 ROM 測定法……………83

S

Schmorl 結節……………78
 Sever 病……………76
 Sheehan 症候群……………58
 Sjögren 症候群……………52
 SLE……………52,60,66
 SPECT……………84

T

TFCC 損傷……………80
 THP……………55
 Tietze 病……………78
 TNM 分類……………52
 Trömner 反射……………64
 Trendelenburg 歩行……………59
 Turner 症候群……………53,58,61

V

Volkman 拘縮……………77,79
 Von Recklinghausen 病……………76

W		Wilson 病.....59	数字
Wartenberg 反射.....64	ギリシャ文字	2PD.....72	8 字帯.....90
WHO.....55	β 酸化.....42		
WHO の健康の定義.....54			



柔道整復師国家試験出題基準 2020年版

ISBN978-4-263-24079-3

2003年4月25日 第1版第1刷発行(平成16年版)
2008年2月10日 第1版第5刷発行
2009年5月25日 第2版第1刷発行(平成22年版)
2017年3月10日 第2版第10刷発行
2018年3月25日 第3版第1刷発行(2020年版)

編集 公益財団法人

柔道整復研修試験財団

発行者 白石泰夫

発行所 医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

TEL. (03) 5395-7641 (編集)・7616 (販売)

FAX. (03) 5395-7624 (編集)・8563 (販売)

<https://www.ishiyaku.co.jp/>

郵便振替番号 00190-5-13816

乱丁、落丁の際はお取り替えいたします。

印刷・真興社/製本・榎本製本

© Ishiyaku Publishers, Inc., 2003, 2018. Printed in Japan

本書の複製権・翻訳権・翻案権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)・口述権は、医歯薬出版(株)が保有します。

本書を無断で複製する行為(コピー、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」などの著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。また私的使用に該当する場合であっても、請負業者等の第三者に依頼し上記の行為を行うことは違法となります。

 < (社)出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本書をコピーやスキャン等により複製される場合は、そのつど事前に(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

